

Sophia-R

Sophia University Repository for Academic Resources

| | |
|--------------|---|
| Title | 〈資料〉 ラテンアメリカ日誌 —1995年— |
| Author(s) | |
| Journal | イベロアメリカ研究, 18(1) |
| Issue Date | 1996-08-06 |
| Type | 紀要/Departmental Bulletin Paper |
| Text Version | 出版者/Publisher |
| URL | http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/9307 |
| Rights | |



上智大学
Sophia University

<http://www.sophia.ac.jp>

〈資料〉

ラテンアメリカ日誌——1995年——

| 月日 | 国名 | 記 事 |
|-------|-----------|---|
| 1. 1 | ブラジル | フェルナンド・エンリッケ・カルドーゾ (Fernando Henrique Cardoso) 大統領就任 (任期4年)。 |
| 1. 1 | 南 米 | ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイ4か国による南米共同市場 (MERCOSUR) 発足。 |
| 1. 3 | メキシコ | セディージョ (Ernesto Zedillo) 大統領、「緊急経済計画」発表。これを受け、米国・カナダ・スペインを中心とする国際金融支援策 (総額180億ドル) まとまるが、依然としてペソ下落は止まらず。 |
| 1. 6 | メキシコ | 訪米中のオルティス (Guillermo Ortiz) 蔵相、国際通貨基金 (IMF) にスタนด์バイクレジットを要請する意向を表明。IMFはこれに応じるため、同国に融資交渉団を派遣する見通しを表明。 |
| 1. 10 | メキシコ | ペソ下落の影響が株価に波及。サンパウロやサンチアゴの株式市場で売りが殺到し、前日終値に比べ大幅安となる。 |
| 1. 10 | メキシコ | チアパス州チコムセロで、左派の民主革命党 (PRD) 支持の農民が警官隊と衝突。双方6名が死亡。 |
| 1. 12 | メキシコ | 米政府、同国への支援枠を最大400億ドルまで拡大する声明を発表。米州開発銀行 (IDB)、同国への融資拡大を発表。 |
| 1. 12 | キューバ | 米国防総省、現在パナマの米軍基地にいるキューバ難民7977人を3月6日までにキューバのグアンタナモ基地に移送すると発表。パナマ政府との難民協定が同日で期限切れとなることに伴う措置。 |
| 1. 15 | メキシコ | 同政府、サパティスタ民族解放軍 (EZLN) との和平交渉を10か月振りに再開。セディージョ政権になって初の対話。 |
| 1. 17 | メキシコ | サパティスタ民族解放軍 (EZLN)、休戦を宣言。 |
| 1. 24 | メキシコ | 世銀、同国へ2360万ドルの融資を行うことを承認。 |
| 1. 24 | キューバ | 同政府、経済関連8閣僚の交替を発表。 |
| 1. 27 | 中南米 | ブラジル、アルゼンチン、チリ、コロンビアの4か国、メキシコに対し、総額10億ドルの信用供与を行う旨、発表。 |
| 1. 27 | エクアドル・ペルー | 国境付近で紛争が発生、両国は交戦状態に突入。ドゥラン・バジェン (Sixto Durán-Ballén) エクアドル大統領、国家非常事態を宣言。 |
| 1. 28 | エクアドル・ペルー | 米州機構 (OAS) のガビリア (César Gaviria) 事務総長、エク |

| | | |
|-------|-----------|---|
| | | アドル入り。ドゥラン・バジェン同大統領と会談。 |
| 1. 31 | メキシコ | 米政府、債務保証による支援方法にかわって、為替安定化基金より200億ドルの融資供与を行う旨、発表（最終的な支援総額は525億ドル程度に）。 |
| 2. 1 | メキシコ | 国際通貨基金（IMF）、同国に対する78億ドルのスタンプ・クレジットを承認。 |
| 2. 1 | ベネズエラ | 同政府、「第9次国家計画（1995-2000年）」を発表。 |
| 2. 2 | 中南米 | 「アンデス・サミット」開催（於：ベネズエラ）。パナマ、ベネズエラ、コロンビア、ボリビア、ペルー、エクアドルが参加。アンデス・グループと南米共同市場（MERCOSUR）の統合を求める宣言文を採択。 |
| 2. 4 | メキシコ | 先進7か国蔵相・中央銀行総裁会議（G7）、同国に対するG7各国民間銀行及び国際機関などによる総額528億ドルの支援策に合意。 |
| 2. 5 | エクアドル・ペルー | 両国及び米国、南米3か国による国境紛争停戦のための外務次官級会議（於：ブラジル・リオデジャネイロ）、合意を得られず中断。翌日以降、両国軍ともに戦闘を激化。 |
| 2. 6 | ベネズエラ | ソサ(Julio Sosa)蔵相、辞任。後任にアソカル(Luis Matos Azócar)中銀理事兼為替管理運営本部長が就任。 |
| 2. 7 | メキシコ | 同大手自動車メーカーのコンソルシオ・グループ・ディナ、通貨危機による国内経済の停滞を予測し、60日間の操業停止に踏切る。 |
| 2. 9 | エクアドル、ペルー | 停戦にむけた外務次官級会議、再開。エクアドル代表、紛争による戦死者の遺体を収容する「人道的停戦」を提案（於：ブラジル）。 |
| 2. 9 | メキシコ | セディージョ大統領、これまで謎とされてきた通称「マルコス副司令官」を始めとするサパティスタ民族解放軍（EZLN）幹部5人の逮捕を命令。連邦検察庁による組織解体が開始。 |
| 2. 10 | アルゼンチン | 核拡散防止条約（NPT）に正式加盟。 |
| 2. 12 | メキシコ | ハリスコ州知事選で、国民行動党（PAN）のカルデナス(Alberto Cárdenas)候補が与党制度的革命党（PRI）の候補を破り、当選。 |
| 2. 13 | ペルー | フジモリ(Alberto Fujimori)大統領、テレビ演説を通して一方的な停戦を発表。エクアドル側もこれに合意。 |
| 2. 14 | メキシコ | 制度的革命党（PRI）所属のチアパス州知事、辞任。セディージョ大統領、同州へ進攻中の軍隊に作戦停止命令を発令。 |
| 2. 16 | ブラジル | 社会保障制度の見直しや国家独占規定の廃止などを盛り込んだ憲法改正案を国会に提出。 |
| 2. 17 | エクアドル・ペルー | 両国政府、停戦協定に正式に合意（於：ブラジル）。 |
| 2. 17 | メキシコ | 同大蔵省によると、1994年の貿易赤字は約185億ドル（前年比37.5 |

| | | |
|-------|-----------|---|
| | | %増)。 |
| 2. 20 | ブラジル | 南米訪問中のワレサ (Lech Wałęsa) ポーランド大統領、カルドローゾ大統領と会談。 |
| 2. 21 | アルゼンチン | カバージョ (Domingo Cavallo) 経済相、公務員給与の削減などを含む財政均衡措置を発表。 |
| 2. 21 | メキシコ | ルービン米財務長官、メキシコ政府と総額200億ドルの支援策について最終合意に達した旨、発表。 |
| 2. 23 | エクアドル・ペルー | エクアドル軍統合司令部、ペルー軍が停戦協定を破り攻撃を再開、エクアドル軍に被害が出た旨、発表。 |
| 2. 28 | エクアドル・ペルー | 両政府、国境紛争の即時停戦協定に調印 (於: モンテビデオ)。(1月末の紛争発生以来、4度目)。 |
| 2. 28 | メキシコ | 昨年9月に制度的革命党 (PRI) のマシュー (José Francisco Ruiz Massieu) 幹事長が暗殺された事件で、連邦検察庁は、サリナス (Carlos Salinas de Gortari) 前大統領の兄を主犯と断定、逮捕。この件でサリナス大統領は、3月1日、世界貿易機関 (WTO) 事務局長選挙出馬を断念したとの声明を発表。 |
| 3. 1 | メキシコ | 与党幹事長暗殺事件の主任捜査官がラジオ番組の中で、サリナス前大統領の事件への関与を示唆する発言 |
| 3. 1 | ウルグアイ | フリオ・サンギネッティ (Julio M. Sanguinetti) 大統領就任 (任期5年)。 |
| 3. 1 | エクアドル・ペルー | アルゼンチン、ブラジル、チリ、米国による国際監視団、両国国境付近で停戦を監視すべく活動を開始。 |
| 3. 2 | アルゼンチン | メキシコ通貨危機の影響が懸念される同国で、市場金利の暴騰。コールレートが前日に比べ年24%から55%に。 |
| 3. 2 | アルゼンチン | 軍事政権時代、左派活動家を飛行機から突き落とし処刑した事件「死の飛行」について、当時作戦に関与した元海軍将校が詳細を地元の新聞に告発。 |
| 3. 3 | メキシコ | 連邦検察庁、昨年3月の与党大統領候補暗殺事件について、サリナス前大統領の関与事実を否定する声明を発表。 |
| 3. 6 | ブラジル | 同政府、為替変動幅の段階的切り下げを発表。 |
| 3. 7 | コスタリカ | フィゲレス (José M. Figueres) 大統領、大統領府長官等3名を更迭。 |
| 3. 9 | メキシコ | 同議会、サパティスタ民族解放軍 (EZLN) に対する特例措置法を可決。これを機に同政府はEZLNとの対話再開を図る姿勢。 |
| 3. 9 | メキシコ | 同政府、公共支出の削減等の緊縮財政措置を盛り込んだ「新経済政策」を発表。 |
| 3. 10 | キューバ | カストロ (Fidel Castro) 国家評議会議長、国連社会開発サミット |

| | | |
|-------|-----------|---|
| | | 出席のため、コペンハーゲンに到着。会議最終日12日に演説を行う。その後フランスを初訪問、ミッテラン (François Mitterand) 大統領と会談。その席で、今後キューバが国際的な人権監視団を受け入れることで原則合意。 |
| 3. 10 | ブラジル | 同政府、為替変動幅の段階的切り下げの停止、オーバーナイト金利の引上げ、外資に関係する金融取り引き税の引上げ等の措置を実施。 |
| 3. 10 | エクアドル・ペルー | 国境紛争地帯を非武装化地帯とする旨、両政府が合意。 |
| 3. 10 | メキシコ | 世界銀行と米州開発銀行 (IDB)、同国に対し、総額32.5億ドルの緊急支援を行う旨、発表。 |
| 3. 12 | メキシコ | 同国日刊紙『ホルナダ』、サリナス前大統領が家族とともに米国に出国したと報道。 |
| 3. 13 | アルゼンチン | 同政府、国際通貨基金 (IMF)、世銀及び米州開発銀行 (IDB) から47億ドルの融資を受けることで合意。また融資の条件として付加価値税の3%切り上げ、国民年金負担率の30%切り上げ等を含む財政赤字削減策を発表。 |
| 3. 14 | メキシコ | 同政府、サパティスタ民族解放軍 (EZLN) を包囲していた政府軍に撤退命令を発令。 |
| 3. 15 | ボリビア | 昨年3月逃亡先のブラジルで逮捕されたガルシア (Luis García Meza) 元大統領、首都ラパスへ強制送還。在任中 (1980-81年) における殺人罪で禁固30年の判決。 |
| 3. 16 | メキシコ | サパティスタ民族解放軍 (EZLN)、政府との和平交渉再開に応じる旨、発表。 |
| 3. 16 | ブラジル | 同政府、社会保障制度改革のための憲法改正案を国会に提出。 |
| 3. 23 | メキシコ | 同政府、日米政民間銀行からの緊急融資を辞退する旨を表明。 |
| 3. 23 | アルゼンチン | 軍事政権時代の「死の飛行」事件の真相究明を巡って、デモ中の市民と警官隊が衝突。 |
| 3. 25 | キューバ | 同政府、中南米非核地帯条約 (トラテラルコ条約) の調印。 |
| 3. 28 | ハイチ | 首都ポルトープランスで政治テロ多発。同日、セドラ (Raoul Cédras) 前将軍の強力な支持者の女性弁護士が銃撃され、死亡。この事件を重く見た米政府は翌日、連邦捜査局 (FBI) 捜査官を派遣することに決定。 |
| 3. 29 | メキシコ | サパティスタ民族解放軍 (EZLN)、和平交渉をメキシコ市で開催する旨、提案。 |
| 3. 30 | ブラジル | 同政府、自動車など耐久消費財109品目の輸入関税の引上げを発表。貿易赤字の縮小を目的とした措置。 |
| 3. 31 | ハイチ | 米クリントン大統領、訪問。米軍から国連派遣部隊へ、ハイチ民政 |

| | | |
|-------|--------|---|
| | | 復帰支援に関する任務の引き継ぎ式典に参加する目的。 |
| 3. 31 | グアテマラ | 同政府とゲリラ組織「グアテマラ革命民族連合」(URNG)による内戦終結にむけた和平交渉実施。マヤ族など国内の先住民族の存在を認めることなどを含む協定文書に調印。 |
| 4. 4 | 中南米 | 米州開発銀行(IDB)第3次総会がエルサレムで開幕。(～6日)また同日公表された年次報告によると、昨年中南米地域に流入した民間資本は420億ドル(前年対比34%減)。 |
| 4. 6 | アルゼンチン | 国際通貨基金(IMF)、同国に対する24億ドルの融資を承認。 |
| 4. 7 | チリ | 同政府、キューバとの国交を22年降りに回復したと発表。 |
| 4. 9 | ペルー | 大統領選挙実施。現職のフジモリ大統領が過半数を得て再選(任期5年)。議会選挙でも与党が67議席(定数120席)を獲得。 |
| 4. 9 | メキシコ | 同政府とサパティスタ民族解放軍(EZLN)、和平交渉再開(於:チアパス州オコシゴ)。翌10日には、両者間で、20日以降交渉再開することで合意(実際には22日に開始)。 |
| 4. 12 | キューバ | 同国の電信電話会社株式25%をイタリアの国営電信電話会社(STET)が取得。 |
| 4. 18 | ブラジル | カルドーゾ大統領、初の米国公式訪問(～21日)。 |
| 4. 19 | 中南米 | 米商務省が『1995年版世界貿易見通し』を発表。アジア・中南米を米国の重要な輸出市場と位置づけ、同地域への輸出拡大を予測。 |
| 4. 19 | ベネズエラ | ニューヨークで開かれている核不拡散条約(NPT)の再検討会議で、同国が独自の延長案(一回の延長期間を25年とし、その都度加盟国が会議を開き、条約延長について議論する方式)を提案。 |
| 4. 23 | メキシコ | 政府とサパティスタ民族解放軍(EZLN)、来月12日に和平交渉を再開することで合意。 |
| 4. 25 | アルゼンチン | バルサ(Martin Balza)軍参謀総長、「死の飛行」(軍政時代に軍が左派政治犯を拷問し殺害した事件)を始めとする残虐行為について、テレビを通じ国民に謝罪。 |
| 4. 28 | ハイチ | アリスティド(Jean-Bertrand Aristide)大統領、政府軍解体を発表。 |
| 5. 2 | キューバ | 米政府、新たな政策として、現在グアンタナモ基地に収容されている同国難民15000人の入国を許可するとともに、新規難民については即時強制送還することを決定。 |
| 5. 2 | メキシコ | 同国と欧州連合(EU)、政治・経済・商業面での関係強化を目指し共同宣言に調印。 |
| 5. 3 | ブラジル | 国営石油公社(PETROBRÁS)労組、賃金引上げや民営化計画撤回を求め、スト突入。国内の石油供給量は一時、通常の12%にまで低下。カルドーゾ大統領「ストをやめない限り交渉には応じな |

| | | |
|-------|--------|--|
| | | い」とする姿勢を崩さず。 |
| 5. 4 | アルゼンチン | 世銀、地方銀行の民営化等を支援する目的で、同国に総額7.25億ドルの融資を行うことを承認。 |
| 5. 5 | パナマ | 同国の中長期債務元本20億ドル他を巡る債務削減交渉で同政府と民間債券銀行団が基本合意。 |
| 5. 12 | キューバ | 閣僚人事の交替。厚生大臣にドトレス (Carlos Dotres) 氏、経済企画大臣にロドリゲス (José Luis Rodríguez) 氏がそれぞれ就任。 |
| 5. 12 | メキシコ | 同政府、和平にむけサパティスタ民族解放軍 (EZLN) との交渉を再開 (於: チアパス州サンアンドレスララインサル) |
| 5. 14 | アルゼンチン | 大統領選挙実施。ペロン党の現職メネム (Carlos Menem) 大統領が再選 (任期4年)。就任は7月8日。 |
| 5. 23 | 中南米 | リオ・グループ、米議会の「対キューバ制裁強化法案」を非難。 |
| 5. 25 | ペルー | フジモリ大統領、テロ対策の一環として2つの国立大学の自治権を停止。 |
| 5. 28 | メキシコ | 州知事選挙実施。中部グアナファト州では野党国民行動党 (PAN) の候補が与党候補に倍近い得票差をつけて勝利。 |
| 5. 30 | チリ | 最高裁、1976年にワシントンでおきたレテリエル (Orlando Letelier) 元外相暗殺事件の首謀者で、ピノチェット (Augusto Pinochet) 大統領の側近エスピノサ (Pedro Espinoza)、コントレーラス (Manuel Contreras) 両将軍に実刑判決。 |
| 5. 31 | メキシコ | セディージョ大統領、「国家開発計画」を発表。 |
| 5. 31 | コロンビア | サンペール (Ernesto Samper) 大統領、首都サンタフェデボゴタに非常事態宣言を発令。 |
| 6. 1 | メキシコ | 英科学雑誌『ネイチャー』で、マヤ文明の滅亡は気候変動が原因との分析結果を発表。 |
| 6. 2 | ブラジル | 国営石油公社 (PETROBRÁS) のスト、1か月振りに終結。 |
| 6. 5 | 中南米 | 米州機構 (OAS) 第25回年次総会開催。(於: ポルトープランス) (~9日まで) |
| 6. 5 | パナマ | 1989年にノリエガ (Manuel Antonio Noriega) 政権打倒を企てた兵士9人を殺害した罪に問われている同元司令官を始めとする元将校7人に対する初公判が開始。 |
| 6. 7 | ペルー | フジモリ大統領、大統領府長官を始めとする3閣僚の交代を発表。 |
| 6. 7 | メキシコ | 同国を含む北米自由貿易協定 (NAFTA) 加盟3か国閣僚会議の開催。チリのNAFTA加盟に関する交渉開始 (於: トロント)。 |
| 6. 7 | メキシコ | 同政府とサパティスタ民族解放軍 (EZLN) による和平交渉再開 (於: チアパス州サンアンドレスララインサル、11日まで)。 |

| | | |
|-------|--------|--|
| 6. 8 | アルゼンチン | オンガニア (Juan Carlos Onganía) 元大統領、死亡。 |
| 6. 8 | アルゼンチン | メネム大統領、フォークランド諸島周辺海域の石油開発構想について英国の協議。 |
| 6. 8 | キューバ | 同国とスペイン、両国軍関係者の相互訪問など軍事面での協力関係を構築する趣意書に調印。 |
| 6. 9 | コロンビア | 世界のコカイン市場の約8割を支配するとされる麻薬密売組織「カリ・カルテル」の首領ロドリゲス・オレフエラ (Gilberto Rodríguez Orejuela) 容疑者、カリ市内で逮捕。 |
| 6. 10 | コロンビア | メデジン市内で爆破テロ事件発生。コロンビア革命軍 (FARC) など3左翼ゲリラが共同犯行声明を発表。 |
| 6. 12 | 中南米 | 世銀、中南米諸国の開発をテーマにした年次協議会を発足、開催 (於: リオデジャネイロ)。 |
| 6. 13 | ブラジル | 同政府、貿易赤字拡大防止のため、外国製自動車輸入の5割規制を行う旨、発表。 |
| 6. 14 | ペルー | 国会で「恩赦法」が可決。対象となるのは1980年以降に有罪となって服役中の軍人や警官。これに対して人権擁護団体は強く反発。 |
| 6. 18 | 中南米 | 南米共同市場 (MERCOSUR) 加盟国大統領による経済サミット開催 (於: サンパウロ、20日まで)。 |
| 6. 20 | メキシコ | 首都メキシコ・シティで、経営破綻した市バス会社の労使問題を巡る司法当局の腐敗ぶりを糾弾したため、労働組合寄りの判事が暗殺。同問題での犠牲者はこれで3人目。 |
| 6. 22 | ブラジル | 同中央銀行、レアルの再切り下げを実施。1ドル=0.91~0.99レアルに。 |
| 6. 22 | メキシコ | 世銀、同国の金融改革のため10億ドルの融資を承認。 |
| 6. 23 | ペルー | 輸出促進政策として「輸出払い戻し制度」公布。 |
| 6. 23 | アルゼンチン | コルドバ州の州都コルドバで給与未払いに抗議する公務員がデモ、同州議会与党本部ビルに乱入。逮捕者は100人以上となる。 |
| 6. 25 | ハイチ | 国会・地方議会選挙実施。民政復帰後初の選挙となる。 |
| 6. 28 | メキシコ | ゲレロ州アカプルコの近郊で農民と警官隊が衝突。農民側に14人の死者。なお同事件で警官10人が殺人などの容疑で逮捕。 |
| 6. 29 | コロンビア | 同検察、手配中の麻薬組織「カリ・カルテル」幹部がほぼ全員で、集団投降したと発表。 |
| 6. 30 | 中南米 | 第1回米州通商担当閣僚会議開催 (於: 米コロラド州デンバー)。米州自由貿易圏 (FTA A) の実現に向け米州地域の経済・通商閣僚が一同に介す。 |
| 7. 1 | ペルー | リマ市内で極左ゲリラ「センドロ・ルミノソ」による爆弾テロ発生。 |

| | | |
|-------|---------|--|
| 7. 3 | ハ イ チ | 同じく20日には北東部で襲撃事件が発生。 同国の22の野党が、先月25日に行われた上下両院選挙の無効を求める共同声明を発表。 |
| 7. 4 | メ キ シ コ | 同政府とサパティスタ民族解放軍（E Z L N）、和平交渉を再開するも、特別な進展なく終了。 |
| 7. 4 | 中 南 米 | チリ、ペルー、エクアドル、コロンビアの4か国、フランスの核実験再開決定に対して、共同で遺憾の意を表明。 |
| 7. 4 | ベネズエラ | 同政府、石油産業の完全民営化を発表。 |
| 7. 5 | ブ ラ ジ ル | カルドーゾ大統領、先月末に発表した自動車の輸入数量制限措置からアルゼンチン製自動車を除外するとの考えを表明。 |
| 7. 5 | ベネズエラ | カルデラ（Rafael Caldera）大統領、憲法保障条項停止を解除する旨、発表。 |
| 7. 8 | アルゼンチン | メネム大統領、第2期目就任。 |
| 7. 9 | キューバ | 市町村人民権力会議（地方議会）選挙実施。 |
| 7. 10 | 中 南 米 | 同地域のコーヒー生産国、価格下落に対処するため、世界のコーヒー輸出量を今後1年間に16%削減すると発表。アフリカなど他のコーヒー生産国にも同調を求める方針。 |
| 7. 14 | コロンビア | サンペール大統領、4閣僚（厚生・教育・農業・鉱業エネルギー）の交代を発表。 |
| 7. 14 | チ リ | 首都サンティアゴの仏大使館前で、同国の核実験再開決定に対する抗議デモ。実験予定場所である南太平洋にはチリ領イースター島が位置することによる行動。 |
| 7. 16 | ブ ラ ジ ル | グアナバラ湾（リオデジャネイロ市北部）のボンケイロン島にある海軍の武器庫で大規模な爆発事故。 |
| 7. 16 | コスタリカ | 同外務省、「『環太平洋国家の一員として』フランスの核実験に改めて反対する」との声明を発表。 |
| 7. 17 | キューバ | 同国と米国、移民問題に関する協議開始（～18日）。米政府関係者としては過去10年間で最高位のパターソン（Ann Patterson）副次官補が担当。 |
| 7. 18 | 中 南 米 | コスタリカのフィゲレス大統領、中米6か国の共同出資による電力会社を設立する旨、発表。各国政府が最低でも資本の50%を出資し、残りを民間資本の導入で賄う計画。 |
| 7. 23 | ウルグアイ | サッカーの南米選手権の決勝で、同チームがPK戦の末ブラジルを下し、14度目の優勝。 |
| 7. 24 | 中 南 米 | 中南米・米国・カナダ32か国の国防関係閣僚による「西半球国防相会議」が開催。（於：米バージニア州ウィリアムスバーグ、～26日） |

| | | |
|-------|------------|--|
| 7. 25 | メキシコ・チリ | 北米自由貿易協定 (NAFTA) 加盟国及びチリ、同国の NAFTA 加盟に関する事務レベル協議 (第1回) を開催 (~31日)。 |
| 7. 25 | アルゼンチン | アルゼンチンタンゴの作曲家で、自らの楽団を率いて演奏活動も行った「タンゴの巨匠」プグリエセ (Oswaldo Pedro Pugliese) 氏死亡。 |
| 7. 25 | ペルー | スサナ (Susana Higuchi) フジモリ大統領夫人、大統領の離婚要請に同意したとの声明を発表。 |
| 7. 26 | メキシコ | 政府とサパティスタ国民解放軍 (EZLN) の和平交渉が再開。今回が5回目 (於: チアパス州サンアンドレスラインサル)。 |
| 7. 26 | ペルー | 国会、新議長に与党「新多数・カンピオ90」のチャベス (Martha Chávez) 議員を選出。ペルー史上初の女性議長となる。 |
| 7. 26 | アルゼンチン | サンファン州で賃金削減に抗議し、州公務員5000人が暴徒と化す。 |
| 7. 28 | ペルー | フジモリ大統領、第2期目就任。同時に発表された大統領教書は、国内貯蓄や投資の拡大、輸出促進による経済成長の維持を中心とする内容に。 |
| 7. 28 | ペルー・エクアドル | 両政府、国境線未画定地域の非武装化について大筋で合意。 |
| 7. 30 | チリ | 同国北部でマグニチュード7.8の地震発生。 |
| 7. 31 | ハイチ | 国連安全保障理事会、同国に駐留する国連平和維持活動「国連ハイチ派遣団 (UNMIH)」を更に7か月延長する決定を下す。 |
| 8. 1 | アルゼンチン | メネム大統領、「雇用創出計画」を発表。 |
| 8. 1 | 南米 | 南米共同市場 (MERCOSUR) 加盟国首脳による共同市場審議会開催 (於: パラグアイ、~5日)。 |
| 8. 2 | コロンビア | 麻薬献金疑惑でポテロ (Fernando Botero) 国防相辞任。前日には下がサンペール大統領本人に対する調査開始を決定。 |
| 8. 3 | トリニダード・トバゴ | マニング (Patrick Manning) 首相、非常事態を発令 (7日に解除される)。 |
| 8. 6 | メキシコ | バハカルフォルニア州知事選挙、野党国民運動党 (PAN) のテラン (Héctor Terán Terán) 候補が勝利。 |
| 8. 9 | ブラジル | 同国西部の Rondônia 州で、不法居住者 (600家族、1300人) の強制退去を求める警官隊と住民が衝突。 |
| 8. 9 | 中南米 | 世銀グループの多国間投資保証機関 (MIGA) の発表によると、95年度に行われた投資保証契約 (54件、約6億7200万ドル) のうち、中南米を対象にしたものは26件。 |
| 8. 10 | ブラジル | 同中央銀行、金融取引税などによる短期外資の流入規制を実施。 |
| 8. 11 | ブラジル | ガリ (Butros Butros-Ghali) 国連事務総長、国連貿易開発会議 (UNCTAD) 事務局長に、同国のリクペロ (Rubens Ricuperro) 前大蔵大臣を任命。 |

| | | |
|-------|------------|---|
| 8. 16 | コロンビア | サンパウル大統領、「国家非常事態宣言」を発令。 |
| 8. 16 | ブラジル | ロンドニア州で9日におきた不法居住者に対する警官隊の発砲事件で、75人の住民が大量虐殺された可能性がある」と判明。 |
| 8. 17 | 中南米 | カリブ諸国連合（ACS）首脳による初会合開催。自由貿易地域作りに向け「行動計画」採択（於：トリニダッド・トバゴ、～18日）。 |
| 8. 18 | アルゼンチン | 同国及びシリア、原子力の平和利用協力の覚書に調印。 |
| 8. 18 | チリ | 現地の報道によると、同国南部を襲った猛烈な寒波で家畜25万頭が凍死。 |
| 8. 21 | チリ | フレイ（Eduardo Frei）大統領、テレビ演説を通して、軍政時代に作られた非民主的な現行憲法の改正を国民によびかけ。 |
| 8. 22 | アルゼンチン | 同政府、ユーロ円債（1000億円）を発行。 |
| 8. 23 | ペルー | 第2期フジモリ政権の「新経済政策」、国会で承認。 |
| 8. 27 | メキシコ | サパティスタ民族解放軍（EZLN）主導のもとで行われた国民投票「平和と民主主義のための国民協議」で、投票に参加した市民の六割近くは、同組織が政治勢力へ転換することを要求。 |
| 8. 28 | ブラジル | カルドーゾ大統領、軍事政権時代に「行方不明」となった政治犯136人について、軍による弾圧・拷問で死亡したことを認め、遺族に対する賠償金について定めた法案を国会に提出。 |
| 8. 30 | チリ・キューバ | 両国、「観光協力協定」に調印。 |
| 8. 31 | ボリビア | サンチェス・デ・ロサダ（Gonzalo Sánchez de Lozada）内閣総辞職。 |
| 9. 1 | メキシコ | セディージョ大統領、就任後初の一般教書演説を行う。今後経済は回復基調に戻ると強調。一方、同日付の日刊紙『レフォルマ』の世論調査では「最悪な状態を脱していない」が81%、また大統領支持率も34%（5月は53%）に低下したと報道。 |
| 9. 3 | エクアドル・メキシコ | 両政府、二国間自由貿易協定に調印。 |
| 9. 4 | ペルー・エクアドル | 今年1月以来閉鎖されていた両国の国境が再開。 |
| 9. 5 | 中南米 | 第9回リオ・グループ首脳会議、民主化や汚職追放などを盛り込んだ「キト宣言」を採択し閉幕。 |
| 9. 5 | 中南米 | 第7回アンデス共同市場（ANCOM）首脳会議開催。 |
| 9. 5 | メキシコ | 同政府、サパティスタ民族解放軍（EZLN）による和平交渉再開（於：チアパス州サンアンドレスラインサル） |
| 9. 5 | キューバ | キューバ人民権力全国会議、100%外資による事業を認める「新外資法案」を可決。 |
| 9. 5 | ブラジル | カルドーゾ大統領、総額約4590億レアルの「公共投資4か年計画」（1996年～1999年）を発表。 |
| 9. 5 | チリ | 同政府、南太平洋ムルロア環礁におけるフランスの核実験に抗議し、 |

| | | |
|-------|--------|--|
| 9. 6 | パナマ | 同国の駐仏大使を召喚したと発表。(同大使は15日以降帰任)。 米国訪問中のバジャダレス (Ernesto Pérez Balladares) 大統領、1999年末のパナマ運河返還後の米軍駐留をどうすべきかについて予備協議を開始することでクリントン米大統領と合意。 |
| 9. 6 | ブラジル | インディオ保護局 (FUNAI)、ロンドニア州で新しい先住民部族を確認したと発表。同部族は狩猟生活を営み、他の先住民とは異なる言語を有するとの報告。 |
| 9. 7 | アルゼンチン | 首都ブエノスアイレスで、労働総同盟 (CGT) の呼びかけによるゼネスト。雇用確保を求め労働者約6万人が参加。 |
| 9. 8 | メキシコ | サパティスタ民族解放軍 (EZLN)、政府与野党による国家改革協議への参加を正式に表明。 |
| 9. 14 | コロンビア | サンペール大統領の側近で、昨年の大統領選で選挙対策本部幹部だったアベリャ (Juan Manuel Avella) 容疑者を収賄容疑で逮捕。 |
| 9. 14 | 中南米 | 南米共同市場 (MERCOSUR) と欧州連合 (EU) 間の自由貿易圏創設に関する協力協定づくりのための第1回交渉が開始(於：ブリュッセル、～15日) |
| 9. 17 | ハイチ | 6月の総選挙の際、選挙管理委員会のミスで投票できなかった約5割の有権者を対象に追加選挙が実施。 |
| 9. 20 | コロンビア | 左翼ゲリラ・コロンビア革命軍 (FARC)、バナナ農園労働者24名を殺害。死者の大半は同ゲリラが作った政党の党员と見られる。 |
| 9. 21 | キューバ | 米下院、同国に対する経済制裁強化案(通称ヘルムズ・バートン法)を可決。 |
| 9. 26 | アルゼンチン | メネム大統領、中国、韓国、フィリピン訪問のため出発。アジアとの経済関係強化が狙い。 |
| 9. 27 | アルゼンチン | 同国および英国、両国の国交が90年に回復して以来、3年越しの協議の末、フォークランド諸島の海底油田を共同開発する計画に調印。 |
| 9. 28 | メキシコ | 早朝、メキシコ・シティの地下鉄の列車内で警官が乱射。8人が死傷。 |
| 9. 28 | 中南米 | 南米共同市場 (MERCOSUR) と欧州連合 (EU)、第2回通商協議を開催。双方の協力関係の強化を進めることで合意(於：モンテビデオ、～29日)。 |
| 9. 28 | ハイチ | 同中央選挙管理委員会、6月に実施された上下両院選挙及び市町村選挙の結果を発表。上下院ともにアリストイド現大統領派のラバラス党が圧勝。 |
| 9. 29 | グアテマラ | 米中央情報局 (CIA)、90年及び92年に同国でおきた左翼指導者らの暗殺事件を工作したとされるCIA幹部ら9人を懲戒処分。 |

| | | |
|--------|-----------|--|
| 10. 2 | キ ュ ー バ | 欧州連合（E U）外相理事会、キューバとの貿易協定づくりに向け協議を開始することで合意を得るとともに、同国の民主化が経済協定締結には不可欠との見解を強調。 |
| 10. 6 | ペル・エクアドル | 両政府、アマゾン国境地帯の領土問題に関する2国間協議を行うことで合意。 |
| 10. 6 | キ ュ ー バ | 米クリントン大統領、同日行った演説の中で、対キューバ制裁を部分的に解除する旨、正式に発表。 |
| 10. 9 | メ キ シ コ | 西部の太平洋岸でマグニチュード7.5の地震発生。震源地はコリママンサニジョ沖合。近辺一帯の州でビルや学校が倒壊。22日には南部のチアパス、オアハカ州を中心にマグニチュード6.5の地震。 |
| 10. 10 | ブ ラ ジ ル | 同カルドーゾ大統領とベトナム・アイン（Le Duc Anh）大統領、両国間における経済技術協力の拡大を記した覚書きに調印。 |
| 10. 15 | キ ュ ー バ | 同国及びロシア、軍事協力の促進などに関する文書に合意。 |
| 10. 16 | ハ イ チ | ミシェル（Smarck Michel）首相、アリスティド大統領に辞表を提出。（23日に後任として現外務大臣のウェルレイ（Claudette Werleigh）女史が指名、翌月5日に就任）。 |
| 10. 16 | 中 南 米 | 第5回イベロアメリカ首脳会議開催。米国の対キューバ制裁強化案に反対する内容の共同宣言を採択（於：バリローチェ、～17日）。 |
| 10. 17 | ペ ル ー | リマ電力公社の発電部門エデヘル（Edegel）を民営化。 |
| 10. 18 | 中 南 米 | 米州新聞協会総会で、過去5年間に中南米地域で殺害された新聞記者の数は約140人に上るとの報告。 |
| 10. 19 | キ ュ ー バ | 米上院、対キューバ制裁強化案を大幅に緩和し、可決。 |
| 10. 23 | アルゼンチン | メネム大統領、英国メジャー（John Major）首相と会談。両国首脳会談はマルビナス（フォークランド）紛争後初めて。（於：ニューヨーク）。 |
| 10. 24 | ハ イ チ | ジョナサン（Emile Jonassaint）元大統領、死亡。 |
| 10. 26 | ブ ラ ジ ル | 同政府、6月に発表した輸入自動車規制を撤廃することを決定（但し、70%の輸入関税率は継続）。 |
| 10. 29 | メ キ シ コ | 同政府、財界および労働界との間で、賃上げ抑制や企業に対する免税措置などに関する協定を結ぶ。 |
| 11. 2 | コ ロ ン ビ ア | 野党保守党の元上院議員ゴメス（Alvaro Gómez Hurtado）氏、暗殺。 |
| 11. 2 | アルゼンチン | 同最高裁、元ナチ将校プリブケ（Erich Priebke）氏をイタリアに送還する判決。第二次大戦末期、イタリアのローマ郊外で起きたナチ親衛隊によるユダヤ人を含むイタリア市民335人銃殺事件（通称アルディアティーネ洞窟の虐殺）の首謀者の一人とされた人物。 |
| 11. 7 | キ ュ ー バ | 同政府と欧州連合（E U）代表团（仏・伊・西及び欧州委員会の代 |

| | | |
|--------|------------|---|
| | | 表)、経済協力協定締結にむけ協議を開始(於:ハバナ) |
| 11. 8 | チリ | 同国、国連安保理非常任理事国に選出。96年1月から2年の任期。 |
| 11. 8 | ブラジル | 国営石油会社ペトロbras (PETROBRÁS) による石油事業の独占を廃止する憲法改正案が国会で承認。この結果、5基幹産業(電気通信・鉱山・内航海運・ガス・石油)が外資を含む民間部門に開放。 |
| 11. 9 | トリニダッド・トバゴ | 下院選挙で野党が勝利。第一党の統一民族会議(UNC)パンデー(Basdeo Panday)氏、首相に就任。 |
| 11. 10 | ブラジル | 同日付の『エスタード・デ・サンパウロ』紙によると、同国北東部パライバ州の地方裁判所所長が身内50人を裁判所職員などに採用していたことが発覚。身内に支払われた報酬は月約15万レアル(約1600万円)。 |
| 11. 12 | ペルー | 統一地方選挙実施。リマ市長選で与党候補が敗北。 |
| 11. 12 | グアテマラ | 大統領・国会議員選挙実施。大統領選は、第一位となった国民進歩党(PAN)党首アルス(Alvaro Arzu)候補を含む上位2名による決選投票(96年1月7日実施予定)に。 |
| 11. 15 | アルゼンチン | カバロ経済財政相、96年から3年間、同国が米州開発銀行(IDB)より45億ドルの融資を受けることで合意した旨発表。 |
| 11. 19 | メキシコ | 和平交渉中の同政府及びサパティスタ民族解放軍(EZLN)、先住民の一部自治権付与について基本的に合意。 |
| 11. 20 | ブラジル | 首都ブラジリアで黒人差別反対集会。奴隷制時代の指導者ズンビ(Zumbi)が処刑されて今年で300年を迎えることから人種団体などが企画。 |
| 11. 21 | 中南米 | チリ、コロンビア、エクアドル、ペルーの4か国、フランスの核実験(4回目)に対して、即時停止を求める共同声明を発表。 |
| 11. 29 | コスタリカ | 国際通貨基金(IMF)、同国へのスタンドバイ・クレジット(総額7500万ドル)供与を承認。 |
| 11. 29 | キューバ | カストロ国家評議会議長、初めて中国を公式に訪問(~12月8日)。30日は江沢民国家主席と会談 |
| 12. 2 | ホンジュラス | ロランド・バレンスエラ(Rolando Valenzuela)中米議会議長、死亡。 |
| 12. 3 | ベネズエラ | 統一地方選挙実施。野党第一党、民主行動党(AD)の勝利。 |
| 12. 6 | 中南米 | 南米共同市場(MERCOSUR)首脳会議。アルゼンチンとブラジルの暫定自動車貿易協定他に合意(於:プンタデルエステ、~7日)。 |
| 12. 6 | アルゼンチン | ブエノスアイレス市にある「5月広場」で、軍事政権時代に行方不明になった子供をもつ母親たちによるデモ行進。こうした抗議活動 |

| | | |
|--------|-----------|---|
| 12. 8 | メキシコ | が始まって今年で15年目。 スイスの検察官により、サリナス前大統領の実兄が麻薬取引で得た巨額資金が同国内の口座に隠されていたことが判明。 |
| 12. 8 | キューバ | カストロ議長、22年振りのベトナム訪問（～12日）。 |
| 12. 12 | ブラジル | カルドーゾ大統領、中国・マレーシア訪問に出発。 |
| 12. 15 | 中南米 | 南米共同市場（MERCOSUR）と欧州連合（EU）、経済協力協定に調印。2005年をめどに地域間貿易の自由化を達成する。 |
| 12. 17 | ハイチ | 大統領選挙実施。与党ラバラスのプレバル（René Garcia Préval）元首相が当選（任期5年）。就任は96年2月7日予定。 |
| 12. 21 | 中南米 | 国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会（ECLAC）、同地域の95年の経済成長率は0.6%との見通しを発表。 |
| 12. 22 | キューバ | ナランホ（José Naranjo）元食品工業相、死亡。カストロ議長とともにバティスタ政権を打倒する闘争を展開。同議長の側近で、ハバナ市長などを歴任。 |
| 12. 27 | ペルー・エクアドル | 国境付近で両軍による銃撃戦。 |

（以上231項目）

参考文献

- (1) 日経テレコム
- (2) 『朝日新聞縮刷版』『日本経済新聞縮刷版』（1995年各号）
- (3) イベロアメリカ研究所新聞切抜き（1995年）
- (4) 『海外投資研究所報』1995年3月（第21巻第3号）～1996年2月（第22巻第2号）日本輸出入銀行海外投資研究所。
- (5) *Latin American Weekly Report*, 12 January, 1995～28 December, 1995, Latin American Newsletter, LTD., London.
- (6) *ISLA (Information Services on Latin America)*, Vol. 50, Issue 1 (January 1995)～Vol. 50, Issue 12 (December 1995).

Sophia-R

Sophia University Repository for Academic Resources

| | |
|--------------|---|
| Title | 〈資料〉 ラテンアメリカ日誌 —1996年— |
| Author(s) | |
| Journal | イベロアメリカ研究, 19(1) |
| Issue Date | 1997-08-08 |
| Type | 紀要/Departmental Bulletin Paper |
| Text Version | 出版者/Publisher |
| URL | http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/9322 |
| Rights | |



上智大学
Sophia University

<http://www.sophia.ac.jp>

ラテンアメリカ日誌－1996年－

| 月 日 | 国名 | 記事 |
|-------|-------------|---|
| 1. 5 | 中南米 | ローマ法王ヨハネ・パウロ2世 (Papa Juan Pablo II) が13年ぶりに中米を歴訪。グアテマラに到着後、11日までの間エルサルバドル、ニカラグア及びベネズエラを訪問。 |
| 1. 7 | グアテマラ | 同大統領選挙の決戦投票を実施。翌日未明、保守「国民進歩党」候補者で元グアテマラ市長のアルスー (Alvaro Arzú Irigoyen) 氏が当選を宣言。 |
| 1. 7 | ペルー | 外国投資技術委員会、1995年の同国に対する外国投資が前年比29%増 (57億ドル) であったと発表。 |
| 1. 7 | ペルー | 首都リマで、フジモリ (Alberto Fujimori) 大統領を警護する国家安全保障局の軍曹宅が爆破。家族全員が負傷。 |
| 1. 11 | コロンビア | 麻薬組織カリ・カルテル幹部で服役中のサンタクルス (José Santacruz Londoño) 容疑者が刑務所から脱走。 |
| 1. 11 | メキシコ | 同政府と先住民武装組織「サバティスタ民族解放軍」(EZLN) の和平対話が武装蜂起の舞台となったチアパス州で再開。 |
| 1. 11 | ペルー | 軍事法廷は、ゲリラ組織「トゥバック・アマル革命運動」(MRTA) に協力した容疑で国家反逆罪に問われていた米国人女性ベレンソン (Lori Heren Berenson) 被告に終身刑の判決を下す。 |
| 1. 24 | ブラジル | カルドーゾ (Fernando Henrique Cardoso) 大統領、インド訪問 (-27日)。 |
| 1. 24 | コロンビア | サンベール (Ernesto Samper) 大統領、麻薬資金疑惑への批判から辞任要求が強まっているとして、近く自らの進退を問うべく国民投票を実施すると発表。 |
| 1. 26 | コロンビア | サンベール大統領の辞任を求める学生2000人がデモ行進。 |
| 1. 29 | ペルー | 地元の世論調査機関CPIの発表によると、国民の過半数がフジモリ大統領の三選に反対。その一方で治安対策や経済政策での実績については70%が評価。 |
| 1. 31 | キューバ | 同国グアンタナモ米軍基地に収容されていた最後のキューバ難民約130人が米国フロリダに向け出発。 |
| 2. 5 | コロンビア | 国家警察は、昨年1年間の殺人事件被害者が約25000人 (前年比7.6%増) で、人口比にした場合毎日70人がテロやゲリラの犠牲になったと発表。 |
| 2. 6 | ハイチ キューバ | 両政府、1962年以来断絶していた外交関係を復活。 |

| | | |
|-------|--------|--|
| 2. 7 | ハイチ | ブレバル (Réne Prével) 元首相、大統領に就任。 |
| 2. 8 | キューバ | クリントン (Bill Clinton) 大統領と米議会、対キューバ制裁強化法案 (ヘルムズ・バートン法案) 成立に同意。 |
| 2. 9 | ペルー | マニラで開かれていたアジア太平洋経済協力会議 (APEC) 事務レベル会合で、ペルーを漁業作業部会に参加させることが決定。域外国の参加は初めて。 |
| 2. 12 | アルゼンチン | 1994-95年の同国に対する外国投資が約180億ドルになったと発表。国別投資額では米国 (69億ドル)、チリ (13億ドル)、イタリア (11億ドル) の順位となり、投資分野別では輸送産業 (自動車など) に投資が集中。 |
| 2. 12 | ペルー | 同国の鉱業部門が活況を呈し、品目別では銀生産が世界の20%、銅生産が同10%、亜鉛生産が同7%となった。 |
| 2. 13 | コロンビア | バルディビエソ (Alfonso Valdivieso) 検察長官、麻薬組織カリ・カルテルから選挙資金として数百万ドルを受け取った収賄の容疑で、サンベール大統領を下院特別委員会に告発。これを受けて15日より調査が再開。 |
| 2. 14 | メキシコ | 同政府と先住民武装組織「サパティスタ民族解放軍」(EZLN)、チアパス州で先住民の人権や文化の尊重を内容とした合意文書に調印。和平実現に向けた第一歩となるも、なお5項目に及ぶ和平のための協議事項が残される。 |
| 2. 16 | ブラジル | 鉱業動力省は、バラ州クリオノポリス山中で発見された金鉱脈の推定埋蔵量が約900トン (世界第2位の埋蔵規模) であると発表。 |
| 2. 16 | メキシコ | 同大蔵省、1995年の実質国内総生産 (GDP) が前年比伸び率マイナス6.9%となったと発表。 |
| 2. 18 | コロンビア | サンベール大統領、米国のニューヨーク・タイムズ誌が掲載した辞任説を全面否定。 |
| 2. 21 | キューバ | 反体制派人権活動家約20人が同日までに、治安警察によって逮捕、拘留されていることが判明。 |
| 2. 24 | キューバ | 米国ホワイトハウスは、米国内の亡命キューバ人らが活動する民間組織「救援の兄弟たち」の小型民間機2機が、ハバナ沖合いでキューバ軍戦闘機によって撃墜されたと発表。米国政府はキューバ政府を非難するとともに、早急に事態の説明を行う旨を要求。 |
| 2. 25 | キューバ | 国連安全保障理事会、米国の要請を受け、キューバ軍による民間機撃墜事件について緊急協議を実施。また米国政府は国際民間航空機関 (ICAO) に同事件の調査を依頼。 |

| | | |
|-------|-------|---|
| 2. 26 | キューバ | クリントン米大統領、民間機撃墜事件の報復として、ヘルムズ・パートン法案に対する支持や二国間のチャーター便の無期限差し止めなど5項目から成るキューバ追加制裁措置を発表。 |
| 2. 26 | キューバ | 同外務省、撃墜された米民間機のパイロット一人を拘束していると発表。 |
| 2. 26 | キューバ | アラルコン (Ricardo Alarcón) 全国人民会議議長は記者会見の席で、米民間機がキューバ軍に撃墜された事件について、撃墜は領空内であったことを強調するとともに、米国の対キューバ経済制裁を非難。 |
| 2. 27 | キューバ | 国連安全保障理事会、キューバ軍による民間機撃墜事件について「非常に遺憾である」との議長声明を満場一致で採択。これに対してロバイナ (Roberto Robaina) 外相は抗議し、国連特別総会の開催を要求。 |
| 2. 28 | キューバ | 同政府、国連安全保障理事会が要請する民間機撃墜事件の国際機関による調査に同意。 |
| 3. 1 | コロンビア | 米政府は、コロンビアの麻薬対策が不十分であるとして同国に対する対外援助と経済協力の大部分を削除することを決定。コロンビア政府はこの措置を内政干渉として強く非難。 |
| 3. 4 | キューバ | 米週刊誌タイムが、撃墜事件発生4日後に行ったカストロ (Fidel Castro) 国家評議会議長とのインタビューを掲載。同議長は昨年来、度重なる領空侵犯を受け、すでに我慢の限界にあったことを強調。 |
| 3. 5 | キューバ | 米国上院でキューバに対する制裁強化法案 (ヘルムズ・パートン法案) が可決。翌日6日には下院でも可決。 |
| 3. 8 | 中南米 | 南米12ヶ国と中米カリブ諸国の代表からなる政策協議機関「リオ・グループ」が米国の対キューバ経済制裁強化法案を国際法の原理原則に反するとして非難。 |
| 3. 9 | 中南米 | アンデス・グループ (ペルー、ボリビア、エクアドル、コロンビア、ベネズエラ) の首脳会談がペルーで開催。グループを新たに「アンデス共同体」とし、今後自由貿易圏を目指していくことで合意 (-10日) |
| 3. 12 | 中南米 | 世界銀行が「96年世界債務白書」を発表。それによると1995年に同地域に流入した民間資金 (銀行貸し付けや企業投資) は全体の20%で、アジア太平洋地域 (59%) に次ぐ金額となった。 |
| 3. 12 | キューバ | クリントン大統領、対キューバ制裁強化法案に署名。翌日のCNNテレビは、今後カナダとメキシコ両政府が同法案は自由貿易の精神に反するとして、北米自由貿易協定 (NAFTA) 紛争処理委員会に提訴する方針であると報じた。 |
| 3. 13 | コロンビア | 同政府、ロシアと軍事協力協定に調印したと発表。 |

| | | |
|-------|--------|--|
| 3. 14 | ベネズエラ | 国防相を除くすべての閣僚がカルデラ (Rafael Caldera) 大統領に辞表を提出。 |
| 3. 15 | コロンビア | 同検察庁は、サンベール大統領の献金疑惑事件への関与が取りざたされている3閣僚に対する捜査を行う旨、発表。 |
| 3. 15 | メキシコ | 同日付けのラ・ホルナダ紙の報道によると、1994年12月から今年2月までにメキシコ民間銀行が抱える不良債権は600億ペソから1200億ペソと6倍となり、また同額は銀行の総資本金の2.2倍となることが明らかになった。 |
| 3. 17 | 中南米 | コスタリカにおいて米州新聞協会 (SIP) の会合が開催。同会合で発表された報告書によると、この数カ月間でコロンビア、ブラジル、グアテマラで6人の記者が殺害されたが、いずれも容疑者は未逮捕のまま。 |
| 3. 21 | グアテマラ | 同国からの報道によると、政府軍と左翼ゲリラ「グアテマラ民族革命連合」(URNG) が停戦入り。 |
| 3. 24 | ブラジル | 同国に進出する主要外国企業79社の1995年以降5年間の投資額は約290億ドルに達する見込みとの調査結果が発表。分野別では輸送機器 (106億ドル)、ついで薬品・化学 (46億ドル)。 |
| 3. 25 | 中南米 | アルゼンチンで第37回米州開発銀行 (IDB) 年次総会が開催。同日発表された95年版年次報告によると、1995年の中南米地域の実質国内総生産 (GDP) は0.6%で、5年ぶりの低成長となった。 |
| 3. 28 | アルゼンチン | バウサ (Eduardo Bauzá) 首相、健康上の理由から辞任を表明。後任にはロドリゲス (Jorge Rodríguez) 文相が就任。 |
| 3. 28 | メキシコ | 南西部ゲレロ州で「人民革命軍」と称する武装グループが、同州アグアスプランカスで開かれていた政府批判集会に突如現れ、新勢力結成を宣言。 |
| 4. 2 | ペルー | コルドバ (Dante Córdova Blanco) 首相 (教育相兼任) が辞任。第二次フジモリ政権での閣僚の辞任は4人目となる。後任には3日、パンドルフィ (Alberto Pandolfi Arbulú) ベトロペルー総裁が就任。 |
| 4. 3 | ブラジル | ゴイアス州の州都ゴイアニア郊外の刑務所で、囚人43人が所内視察に訪れた州公安長官ら40人を人質にし、武器や逃走用の乗用車などを要求。要求リストをめぐって1週間近く警察当局と対立したのち、同日、人質6人と短銃約10丁、乗用車約10台、現金1000万円相当を用意させ脱獄。 |
| 4. 9 | パナマ | バジャダレス (Ernesto Pérez Balladares) 大統領、ブリュッセルで欧州委員会のメンバーと会談。 |
| 4. 10 | ウルグアイ | ラモス (Alvaro Ramos) 外相、パラグアイを訪問。両国の通商関係などについて協議。 |
| 4. 12 | 中南米 | リオグループと欧州連合の会議がボリビアのコチャバンバで開催 (-16日)。 |

| | | |
|-------|---------|--|
| 4. 15 | 中南米 | 国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会 (CEPAL) の会合が開催。 |
| 4. 15 | 中南米 | 第25回イベロアメリカ商工会議所連合会議がウルグアイで開催。 |
| 4. 16 | コロンビア | 検察側の取り調べを受けているバルド (Rodrigo Pardo) 外相、サンペール大統領の選挙陣営の中に麻薬組織から資金を受け取った人物がいたことを初めて明かす。 |
| 4. 16 | キューバ | 映画「苺とチョコレート」などの監督として知られるグティエレス (Tomás Gutiérrez Alea) 監督が死亡。 |
| 4. 16 | ハイチ | 同国の米大使館によると、米政府はハイチ政府の人権擁護が不十分であるとして、同国に対する経済援助のうち人道的なものを除き全面的に凍結した旨、表明。 |
| 4. 17 | ブラジル | パラ州で1500人の土地なし農民 (Sem Terra) が抗議デモ。23人が警察に逮捕される。 |
| 4. 22 | パラグアイ | ワスモシ (Juan Carlos Wasmosy) 大統領、オビエド (Lino Oviedo) 陸軍司令官を解任。 |
| 4. 29 | コロンビア | ペリー (Guillermo Perry) 蔵相、辞任。後任にはオカンボ (José Antonio Ocampo) 国家企画庁長官が就任。 |
| 4. 30 | ブラジル | リオデジャネイロ地裁、1993年にストリートチルドレン8人が射殺された事件で、容疑者とされていた警官に禁固309年の判決。 |
| 4. 30 | グアテマラ | モンテネグロ (Julio César Méndez Montenegro) 元大統領 (1966年-70年)、グアテマラ市内の病院で死亡。 |
| 5. 3 | コロンビア | 麻薬密売組織カリ・カルテルから多額の資金提供を受けた疑いで、逮捕状が出ていたバスケス (Orlando Vásquez Velásquez) 国家行政監察庁長官、逮捕。 |
| 5. 6 | グアテマラ | 同政府と反政府ゲリラ「グアテマラ民族革命連合」(URNG)、経済社会的側面と農業状況に関する協定に調印 (於：メキシコ市)。 |
| 5. 16 | 中南米 | 中米5カ国およびベリーズ首相、カナダ訪問。 |
| 5. 16 | ドミニカ共和国 | 大統領選挙実施。過半数を獲得した候補者がいないため、上位2候補者による決戦投票が行われることに決定。 |
| 5. 17 | 中南米 | 米州諸国蔵相会議が米国ニューオーリンズで開催。米政府は各国のマクロ経済政策の政策協調で合意を目指す方針を表明。 |
| 5. 17 | ベルー | 人権団体アムネスティは、フジモリ政権による極左ゲリラ・センデロ・ルミノソ取り締まりで少なくとも900人が無実の罪で投獄されたと非難。 |
| 5. 18 | メキシコ | 同大蔵省、1996年第1四半期のGDP成長率が前年比でマイナス1.0%となったと発表。 |

| | | |
|-------|-------|---|
| 5. 19 | エクアドル | 大統領選挙実施。過半数を獲得した候補者がいないため、上位2候補者による決戦投票を7月7日に行うことが決定。 |
| 5. 27 | ベネズエラ | 賃上げを求める公務員80万人がストを実施。首都カラカスでは抗議デモが展開。 |
| 5. 29 | キューバ | 米政府は、キューバに投資しているカナダ、イタリア、メキシコの3企業について、対キューバ制裁強化法（ヘルムズ・バートン法）により社員らが米国への入国を拒否されたり退去処分を受ける可能性があるとして書簡で警告。 |
| 5. 29 | ベネズエラ | 同最高裁、在職中の公金横領罪に問われていたベレス（Carlos Andrés Pérez）元大統領に2年4カ月の自宅軟禁刑を言い渡す。 |
| 5. 31 | ブラジル | ドイツの大手自動車メーカーのフォルクスワーゲン社、「カプトムシ」の愛称で親しまれた大衆車のブラジル生産を6月いっぱいまで中止すると発表。 |
| 6. 1 | ブラジル | セーラ（José Serra）企画相、サンパウロ市長選挙に出馬のため辞任。後任にはカンジール（Antônio Kandir）下院議員が就任（6月4日）。 |
| 6. 3 | 中南米 | 米州開発機構（OAS）の年次総会がパナマで開催。翌4日には米国の対キューバ経済制裁強化法の有効性についてOASの法律委員会で審議する決議を賛成多数で採択。 |
| 6. 3 | ボリビア | 革命家チェ・ゲバラ（Ernesto Che Guevara）の遺体捜索を行ってきた同政府の発掘委員会は、埋葬場所の発見はできなかったとして、捜索終了を宣言。 |
| 6. 11 | ブラジル | サンパウロ郊外のショッピングセンターで正午過ぎ、爆発事故が発生。買い物客ら39人が死亡、380人が重軽傷。 |
| 6. 12 | コロンビア | 下院で、麻薬献金疑惑に対するサンベール大統領の責任の有無を問う採決がなされ、111対43票の圧倒的多数をもって同大統領の無罪が決定。 |
| 6. 14 | パラグアイ | 4月に大統領から解任を命ぜられたオビエド前陸軍司令官、社会秩序と公権力に対する違反行為で逮捕。 |
| 6. 17 | 中南米 | アルゼンチンで、メルコスル（MERCOSUR）4カ国とチリの専門家による会議が開催。自由貿易地域が直面する問題を討議。 |
| 6. 17 | キューバ | 米務省、対キューバ経済制裁強化法（ヘルムズ・バートン法）の実施に関するガイドラインを発表。 |
| 6. 17 | メキシコ | 同国とカナダ政府、米国の対キューバ経済制裁措置について、自由貿易協定（NAFTA）に基づく自由貿易委員会での協議を要請する旨を発表。 |
| 6. 21 | ベリーズ | マヤ文明の古代都市ラミルバで、王の墓（推定紀元前450年頃）が発見。 |

| | | |
|-------|---------|---|
| 6. 21 | キューバ | キューバ軍による米民間機撃墜事件を捜査している国際民間航空機関 (ICAO) は同日、撃墜は公海上でおきたとの結論に達した。 |
| 6. 25 | 中南米 | チリ・メルコスル (MERCOSUR) 自由貿易協定調印。 |
| 6. 25 | 中南米 | ボリビア・メルコスル (MERCOSUR) 自由貿易協定調印。 |
| 6. 25 | パナマ | 米国防総省は、パナマ駐留米軍が同国で大規模な麻薬掃討計画を展開中であることを明らかにした。 |
| 6. 27 | キューバ | 国際民間航空機関 (ICAO) 理事会は、キューバ軍による米国の民間機撃墜事件に関する調査報告書を承認。 |
| 6. 28 | ハイチ | 国連安全保障理事会は、国連軍の駐留を11月末まで延長する決議を承認。 |
| 6. 28 | メキシコ | 新しい左翼ゲリラ「革命人民軍」が武装闘争を宣言。同日深夜、山岳地帯を巡視中の警察軍を襲撃。 |
| 6. 30 | ドミニカ共和国 | 同大統領選挙決選投票実施。開票の結果、「ドミニカ解放党」(PLD) のフェルナンデス (Leonel Fernández) 候補が当選。 |
| 7. 1 | 中南米 | ラテンアメリカ統合連合 (ALADI) 加盟国の企業代表者会議がウルグアイで開催。 |
| 7. 2 | ペルー | 同政府、テレフォニカ・デル・ペルーの株式をリマ、ニューヨークの証券取引所に上場。 |
| 7. 3 | 南米 | メルコスル (MERCOSUR) 加盟国の警察当局代表者会議がウルグアイで開催。 |
| 7. 3 | カリブ地域 | カリコム (CARICOM) 首脳会議がバルバドスで開催。 |
| 7. 4 | 南米 | 南米南部諸国およびスペイン、ポルトガルの文部次官級会議がチリで開催。 |
| 7. 7 | エクアドル | 同大統領選挙決選投票実施。即日開票の結果、大衆政党ロルドス政党総裁で元グアキヤキル市長のブカラン (Abdala Bucaram) 氏が当選。 |
| 7. 8 | パナマ | パナマ・アメリカ紙によると、同国民の75%が米軍のパナマ運河残留を望んでいることが世論調査の結果、明らかになった。 |
| 7. 8 | ベネズエラ | 同中央銀行、為替相場の安定とインフレ抑制のため、誘導目標圏 (バンド) を導入。まずは1ドル=470ボリバルで最大7.5%の幅で為替相場を誘導する。 |
| 7. 10 | アルゼンチン | バラ (Rodolfo Barra) 法相が辞任。青年時代に親ナチス組織のメンバーであったと週刊誌で報道され、同国在住のユダヤ人団体から調査要求が起こっていたことへの対応策。 |

| | | |
|-------|--------|---|
| 7. 10 | キューバ | 米政府は、カナダの鉱山会社「シェリット国際社」に対して、対キューバ経済制裁強化法「ヘルムズ・バートン法」を初めて適用したと発表。 |
| 7. 10 | チリ | 同日までにオーストラリアと投資保証・促進協定に調印。引き続き関税問題などを協議し、投資環境の整備を行う。 |
| 7. 11 | 中南米 | グアテマラで、中米諸国およびドミニカ共和国の労働相が域内の労働者雇用促進のための政策を協議。 |
| 7. 11 | コロンビア | 米政府、サンパール大統領の米国入国ビザを無効とする決定を下す。 |
| 7. 12 | チリ | 首都サンチアゴで大気汚染の警戒警報が発令される。市当局が工場操業の停止や自動車の市内への乗り入れ制限などの対応を行う。 |
| 7. 12 | ベネズエラ | 国際通貨基金（IMF）、同国に対する14億ドルのスタンバイ・クレジットを承認。インフレ抑制など一連の経済政策を評価し、同国の経済再建を支援。 |
| 7. 15 | キューバ | 欧州連合（EU）外相理事会は、米国の対キューバ制裁強化案（ヘルムズ・バートン法）が適用され欧州企業が被害を受けた場合、報復手段をとることを全会一致で採択。 |
| 7. 16 | アルゼンチン | メネム（Carlos Saúl Menem）大統領、訪米。 |
| 7. 16 | アルゼンチン | 昨年初めに発覚したエクアドルとクロアチアに対する武器密輸事件に対して、カミリオン（Oscar Camilión）国防相が辞任を表明。 |
| 7. 16 | キューバ | クリントン大統領は、ヘルムズ・バートン法第3項（カストロ政権に接収された米国亡命キューバ人や米国人の資産を購入・投資する第3国の企業に対して、米国市民が米国内で損害賠償の訴えができるとしたもの）を8月1日に発効させ、その履行については6カ月間延長することを決定。 |
| 7. 17 | 中南米 | ラテンアメリカ統合連合（ALADI）加盟国の観光相会議がエクアドルで開催。 |
| 7. 23 | チリ | 中銀は1996年第1四半期の貿易収支が3億6700万ドルの黒字を経常したと発表。 |
| 7. 25 | メキシコ | 大蔵省は、1994年末の通貨危機の際に米国から受けた金融支援のうち70億ドルを期限前に返済すると発表。 |
| 7. 26 | アルゼンチン | メネム大統領、1991年就任以来、徹底した緊縮政策を行ってきたカバージョ（Domingo Cavallo）経済相を解任。後任にはフェルナンデス（Roque Fernández）中銀総裁を任命（就任は29日）。 |
| 7. 26 | キューバ | 国連安全保障理事会、2月におきたキューバ軍による米国の民間機撃墜事件に関する公式協議を開催し、キューバ政府に国際民間航空条約を完全順守するよう求める決議を賛成多数で採択。 |

| | | |
|-------|---------|---|
| 7. 28 | ベルー | フジモリ大統領、独立記念日恒例の国会演説で、ベルー経済が安定した成長段階にあることを強調。 |
| 7. 30 | キューバ | 米マイアミのテレビ局の報道によると、アトランタオリンピックでメキシコボクシングチームのキューバ人コーチが米国へ亡命。 |
| 8. 1 | コロンビア | サンベール大統領、フランス訪問。 |
| 8. 2 | キューバ | アトランタオリンピック野球の決勝戦でキューバは日本を13対9で下し、優勝。前回のバルセロナオリンピックに次ぐ大会2連覇。 |
| 8. 3 | ベルー | 同政府は、テロ対策法（1992年）の施行以来、無実の罪で投獄され、服役中の人々に対して、罪状を見直し恩赦を勧告する専門委員会を設置する法案を発表。 |
| 8. 5 | アルゼンチン | ディ・テラ（Guido Di Tella）外相、メキシコを訪問。 |
| 8. 7 | 中南米 | ベネズエラでG3（コロンビア、メキシコ、ベネズエラ）外務次官会議が開催。 |
| 8. 7 | ブラジル | 欧州連合（EU）は、同国の自動車政策が世界貿易機関（WTO）の協定に違反するとして提訴するとの姿勢を表明。 |
| 8. 7 | メキシコ | トルーカ地裁、1994年に大統領候補コロシオ（Luis Donaldo Colosio）氏が暗殺された事件で、共犯の疑いで起訴されていたコルテス（Othón Cortés Vázquez）氏に、証拠不十分として無罪の判決を下した。 |
| 8. 7 | スリナム | 大統領選挙第2回投票実施。 |
| 8. 8 | アルゼンチン | 政府の緊縮財政政策に抗議するゼネストが実施。 |
| 8. 8 | エルサルバドル | 同国からの報道によると、同国で1日から7日まで行われたカトリックの祭礼「救世主祭」で108人が死亡、780人が負傷。 |
| 8. 15 | アルゼンチン | カバージョ前アルゼンチン経済相、記者会見でエクアドル政府の経済顧問に就任する意向を表明。 |
| 8. 16 | キューバ | 観光用小型機が乗客のキューバ人グループにハイジャック。米国マイアミに向かう途中海中に墜落。近くを航行中のロシア船籍の貨物船に救助される。 |
| 8. 16 | メキシコ | ロサノ（Antonio Lozano）連邦検察庁長官は記者会見で、連邦司法警察官737人を解雇したと発表。汚職や犯罪など警察官に対する批判が市民の間で強まっていたことへの対応策で、解雇者数は全職員の17%に相当。 |
| 8. 19 | キューバ | 同政府は、在キューバ米国利益代表部の外交官一人を今月21日までに国外退去させると米國務省に通報。対する米國務省は同日、在米キューバ利益代表部の外交官一人に、一週間以内の国外退去を命じる報復措置を実施。 |

| | | |
|-------|--------------|--|
| 8. 20 | ブラジル | 米大手自動車会社クライスラー、同国に小型トラック工場を建設すると発表。1998年稼働予定で年間4万台の生産を目指す。 |
| 8. 20 | メキシコ | 米国務省、通信大手のグルポ・ドモス社に対し、対キューバ制裁強化法（ヘルムズ・バートン法）に違反したとして、同企業の幹部らに対する米国への入国拒否など制裁措置を発動する旨、発表。 |
| 8. 21 | ブラジル | 同政府は、現地に生産工場をもたない日本や韓国などの自動車メーカーに対して、5万台を上限に輸入関税を現行率の半分の35%とすると発表。 |
| 8. 22 | チリ | 同国人権委員会の調査によると、ピノチェット（Augusto Pinochet）軍事政権時代（1973年-1990年）の死者・行方不明者が新たに899人見つかり、これまでに身元が判明した犠牲者は3197人となった。 |
| 8. 23 | ペルー | 同国会、フジモリ大統領（現在2期目）の三選出馬を可能とする憲法解釈案を賛成多数で可決。次期大統領選は2000年。 |
| 8. 26 | アルゼンチン | 1971年のクーデターによって政権に就いたラヌセ（Alejandro Agustín Lanusse）元大統領（1971年-73年）、死去。 |
| 8. 28 | ベネズエラ | 4月に発表された公務員削減計画などに抗議して、連邦、州政府および市役所職員ら約100万人がストライキを実施。 |
| 8. 29 | メキシコ | 左翼過激派武装集団「人民革命軍」とみられる同時多発テロが各地で発生し、少なくとも15人が死亡（オアハカ、メヒコ、ゲレロ各州）。こうした事態を受け、政府は翌30日に全土で警戒体制を強化。 |
| 8. 31 | コロンビア | 左翼ゲリラ「コロンビア革命軍」（FARC）が全国12県で軍・警察施設を一斉攻撃。銃撃戦による多数の死傷者が出る。 |
| 9. 1 | メキシコ | セディージョ（Ernesto Zedillo Ponce de León）大統領が一般教書演説。 |
| 9. 2 | 中南米 | 金泳三韓国大統領、中南米諸国を訪問。 |
| 9. 2 | 中南米 | 第2回リオ・グループ（南米12ヶ国および中米カリブ諸国の代表による政策協議機関）の首脳会議がボリビア・コチャバンパで開催。キューバに対する米国の経済制裁強化法案「ヘルムズ・バートン法」に断固反対することを宣言。 |
| 9. 3 | エクアドル ペルー | ブカラン大統領とペルーのフジモリ大統領、リオ・グループ首脳会議の開催地ボリビア・コチャバンパで、1995年1月の国境紛争後初会談。ブカラン大統領が1997年1月にペルーを訪問するなど二国関係を改善することで合意。 |
| 9. 4 | コロンビア | 現地からの情報によると、デラカジェ（Humberto de la Calle）副大統領、国内の政治的混乱を打開するため、サンペール大統領の辞任を求める声明を発表。 |

| | | |
|-------|--------------|--|
| 9. 4 | ブラジル ボリビア | 両国間を結ぶ天然ガス輸送用パイプラインの建設について基本的に合意。投資額は約18億ドル。 |
| 9. 5 | ブラジル | 国家民営化審議会は、国営企業リオドセ (CVRD) 社の政府持ち株を1997年2月から3段階に分けて売却することを決定。 |
| 9. 6 | ペルー | ヨシヤマ (Jaime Yoshiyama) 大統領府長官が辞任 (後任にはトカシキ (Hokama Tokashiki) エネルギー鉱山相が就任)。 |
| 9. 10 | コロンビア | デラカジェ副大統領、サンベール大統領を批判して自らが辞任。 |
| 9. 10 | チリ | 同上院、メルコスル (MERCOSUR) との自由貿易協定を批准。 |
| 9. 12 | 中南米 | 国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会 (ECLAC) が <i>Economic Panorama of Latin America-1996</i> を発表。それによるとラテンアメリカ諸国の1996年のGDP成長率は2.9% (推定値)。 |
| 9. 12 | ブラジル | 軍政時代「ディステンソン」 (緊張緩和政策) の下で、ブラジルの民主化に向けた政策を行ったガイゼル (Ernesto Geisel) 元大統領 (1974年-1979年)、リオデジャネイロの病院で死亡。 |
| 9. 13 | ブラジル | カルドーゾ大統領、前日に上院で可決した輸出および固定資産投資向け商品に対する商品流通サービス税の免除法案を裁可。 |
| 9. 16 | チリ | マサッド (Santé Carlos Massad) 前厚相が中銀総裁に就任。 |
| 9. 17 | ブラジル | コール (Helmut Kohl) 独首相、ブラジルを訪問。 |
| 9. 18 | グアテマラ | 政府とグアテマラ民族革命連合 (URNG)、軍事費削減などに関する協定文書に調印 (於メキシコ) |
| 9. 18 | ニカラグア | サンディニスタ民族解放戦線 (FSLN) とコントラの一部が大統領選挙協力文書に調印。 |
| 9. 24 | コロンビア | 同国北部の国境付近で左翼ゲリラ「民族解放軍」が油田を爆破。大量の石油が流出。 |
| 9. 30 | メキシコ | 捜査当局によると、同日までにオアハカ州サンアグスティン市長ら与党PRIの党員3人をゲリラ容疑で逮捕。 |
| 10. 1 | 南米 | 独自動車大手メーカーBMWは、1999年をめぐりに米国クライスラーと合併で自動車エンジン工場を建設すると発表。 |
| 10. 1 | ブラジル | 米国は通商法301条により、ブラジルの自動車産業政策に関する調査を開始すると発表。 |
| 10. 3 | ブラジル | 統一地方選挙実施。サンパウロ、リオデジャネイロ、ミナスジェライス州都の市長選ではいずれも過半数を獲得した候補者がなく、改めて11月15日に上位2候補者で決選投票が実施。 |

| | | |
|--------|-------|---|
| 10. 4 | キューバ | 欧州連合（EU）は、米国の対キューバ経済制裁強化法が世界貿易機関（WTO）違反であるとして、WTO紛争処理手続きに基づきパネルを設置するように要請。 |
| 10. 7 | 中南米 | 米州国防相会議がアルゼンチン・バリロチェで開催（－9日）。 |
| 10. 8 | ペルー | テロ対策強化のために1992年以降行われている「覆面裁判」制度（裁判官に対する報復を避けるために顔と氏名をかくして審理を行うもの）を1年延長する決議が国会の司法委員会で採択。 |
| 10. 9 | 中南米 | メルコスル（MERCOSUR）とアンデスグループの会合がブラジルのリオデジャネイロで開催。 |
| 10. 10 | ブラジル | カルドゾ政権、14歳以下の労働を全面的に禁止する憲法改正案を国会に提出。同国では、10歳から14歳の児童1700万人のうち何らかの労働に就いている割合は32%と、児童労働は深刻な社会問題の一つ。 |
| 10. 11 | ブラジル | 同政府、社会保障費削減などを含む公共赤字削減策を発表。 |
| 10. 12 | メキシコ | 「サパティスタ民族解放軍」（EZLN）の女性幹部で末期がんに侵されている「ラモナ司令官」（comandante Ramona）がメキシコ市にある憲法広場に集まった支持者2万人の前でEZLNに対する支持を呼びかけ。（同日は先住民が「民族の日」とする日）。 |
| 10. 14 | グアテマラ | 大統領官邸付近のビルで爆発があり、4人が死傷。 |
| 10. 14 | ペルー | 世論調査会社アポヨ社によると、10月のフジモリ大統領の支持率は55%（前月比で5%の後退）。 |
| 10. 16 | グアテマラ | グアテマラ市にある国立サッカー競技場で、ワールドカップ予選大会（グアテマラ対コスタリカ）開始直前に観客が将棋倒しになり、80名が死亡、負傷者が続出。 |
| 10. 16 | メキシコ | 深刻な大気汚染問題を抱えるメキシコ市で、週3回の車両通行禁止、工場操業の30%制限などの対策が実施。 |
| 10. 18 | ブラジル | マルフ（Paulo Maluf）サンパウロ市長、市内バスに自動改札機を設置する計画を中心する旨、表明。バス会社従業員の失業を避けるための決定。 |
| 10. 20 | ニカラグア | 大統領選挙決選投票実施。翌日夕刻までの開票で右派政党連合「自由連盟」候補のアレマン（Arnoldo Alemán Lacayo）前マナグア市長が当選。左派「サンディニスタ民族解放戦線」候補のオルテガ（Daniel Ortega）前大統領の返り咲きならず。 |
| 10. 22 | 中南米 | ラテンアメリカ経済機構（SELA）理事会がウルグアイで開催。 |

| | | |
|--------|--------|---|
| 10. 25 | キューバ | バチカンのトーラン (Jean-Louis Tauran) 外務局長が同国を訪問。29日の記者会見では、ローマ法王のキューバ訪問にむけて双方が準備に入る旨を発表。 |
| 10. 27 | 南米 | メルコスル (MERCOSUR) と欧州連合 (EU) の共同セミナーが実施。 |
| 10. 27 | チリ | 地方選挙実施。 |
| 10. 28 | キューバ | 欧州連合 (EU) の定例外相理事会で、米国の対キューバ制裁強化法の対抗策として、同法のもとで訴訟を起こされた欧州企業が対抗的な訴訟を欧州で起こすための措置などについて一致。米国はこの決定を不適切として抗議する意向を表明。 |
| 10. 29 | キューバ | 同体育庁は、米国籍亡命キューバ人の選手密輸ブローカーと接触したとして、野球ナショナルチームの有力選手3人を出場停止処分にしたと発表。 |
| 10. 31 | ブラジル | サンパウロ発リオデジャネイロ行きの旅客機が離陸直後にサンパウロの住宅街に墜落。乗客・乗員96人全員が死亡したほか、住民2人が犠牲となる。 |
| 11. 4 | 南米 | メルコスル (MERCOSUR) 、欧州連合 (EU) の会合がブラジルのペロオリゾンテで開催。 |
| 11. 5 | ブラジル | ジャテニ (Adib Jatene) 保健相、辞任。 |
| 11. 5 | ペルー | フジモリ大統領、新設の女性・人材開発省の初代大臣にスケノーネ (Miliam Schenone) 元法務次官を起用。 |
| 11. 7 | キューバ | 国营通信ブレンサ・ラティーナは、カストロ国家評議会議長がCNNテレビ・ハバナ支局の開設を許可したと発表。 |
| 11. 10 | 中南米 | 第6回イベロアメリカ首脳会談がチリのビニャデルマルで開催 (-11日)。米国の対キューバ経済制裁強化法案の撤回を求める勧告を盛り込んだ最終宣言が採択。 |
| 11. 10 | ブラジル | 初の全国大学卒業資格試験が実施。 |
| 11. 11 | グアテマラ | イベロアメリカ首脳会談出席中のアルスー大統領は、閉幕の演説で、グアテマラ民族革命連合 (URNG) との和平協定が12月29日にメキシコで調印されることを表明。 |
| 11. 12 | キューバ | 国連総会で対キューバ経済制裁の解除を求める総会決議案が採択 (賛成138、反対3、棄権25)。同決議案の採択は5年連続となる。 |
| 11. 14 | ブラジル | カルドゾ大統領、自動車関連資材の優遇関税引き上げに関する法令第2072号を裁可。 |
| 11. 14 | ブラジル | 大統領府は、ザイール難民支援活動を行う多国籍軍にブラジル軍を派遣することを決定。 |
| 11. 15 | アルゼンチン | 同政府は、ザイール難民支援活動を行う多国籍軍に60人程度の兵士を派遣する方針を固めた。 |

| | | |
|--------|---------|--|
| 11. 15 | ブラジル | 全国市長選挙決選投票実施。サンパウロ市では保守系ブラジル進歩党 (PPB) のピッタ (Celso Pitta) 候補が当選、初の黒人市長の誕生となる。 |
| 11. 18 | チリ | 同国、カナダと自由貿易協定に調印。 |
| 11. 19 | キューバ | カストロ国家評議会議長、ローマ法王と初会談。法王のキューバへの訪問が決定 (日程は未定)。 |
| 11. 21 | 中南米 | ラテンアメリカ統合連合 (ALADI) の会議が開催 (-22日)。 |
| 11. 21 | メキシコ | 同日付けの各日刊紙、メキシコにおける第三のゲリラ「人民反乱革命軍」の登場の可能性を報じる。同グループは20日 (同国の革命記念日) に「北部からの宣言」とする声明文を各新聞社に送り、現政権の退陣と人民民主政権の樹立を求めている模様。 |
| 11. 24 | ブラジル | カルドゾ大統領、アンゴラ、南アフリカ共和国を訪問 (-28日)。 |
| 11. 25 | エルサルバドル | 世界貿易機関 (WTO) が加盟国の貿易政策検討制度の一環として同国の政策を審査 (-26日)。 |
| 11. 26 | エクアドル | 同国防省、ベルーがミグ戦闘機を配備したことに対して、対抗措置をとる可能性を示唆。 |
| 11. 27 | メキシコ | 連邦検察庁は、1994年の大統領候補コロシオ (Luis Donaldo Colosio) 氏暗殺事件に何らかの形で関与したとされるサリナス (Carlos Salinas de Gortari) 前大統領に対して、滞在先のアイルランドのダブリンにあるメキシコ大使館で事情聴取を行ったと発表。 |
| 11. 29 | ペルー | 同国の考古学者グループ、リマ南東600キロにあるコロプナ山の山腹でインカ時代のものと見られる道の一部を発見したと発表。 |
| 12. 2 | ブラジル | 米大手の自動車メーカー、ゼネラル・モーターズ (GM)、サンパウロやサンタカタリーナ州など南部地域に3つの自動車組立や部品工場を新設する計画 (総額12億5000万ドル) を発表。 |
| 12. 2 | キューバ | 欧州連合 (EU) 閣僚理事会は今後、キューバにおける人権尊重が強化されるように様々な機会を通して同国に要求していく政策を承認。 |
| 12. 2 | メキシコ | 第20回世界遺産委員会本会議 (ユネスコ主催) がメリダ市で開催 (-7日まで) |
| 12. 2 | メキシコ | ロサノ連邦検察長官が解任。 |
| 12. 4 | グアテマラ | 政府と左翼ゲリラ「グアテマラ民族革命連合」 (URNG) が停戦協定に調印 (於ノルウェー・オスロ)。 |

| | | |
|--------|--------------|---|
| 12. 6 | アルゼンチン | ドミンゲス (Jorge Domínguez) 国防相が米国を訪問、ペリー (William Perry) 国防長官と会談。 |
| 12. 7 | 中南米 | 米州首脳会談がボリビア・サンタクルスで開催。環境保護と貧困解消を目指した「サンタクルス宣言」と行動計画を採択。 |
| 12. 7 | チリ | 同国人の作家ドノソ (José Donoso) がサンティアゴ市内の自宅で病気のため死亡。 |
| 12. 8 | ウルグアイ | 憲法改正案に関する国民投票を実施。 |
| 12. 10 | ブラジル | ドイツの大手自動車メーカー、アウディとブラジル・フォルクスワーゲンがパラナ州クリチバ市近郊の都市に新しく自動車工場をそれぞれ建設すると発表。投資額は一社あたり2億5000万ドル。 |
| 12. 10 | アルゼンチン チリ | 1991年に両国間で締結したカンボディエロスールの国境条約に関する追加議定書がチリのサンチアゴで署名。 |
| 12. 16 | ブラジル | 商工観光省の発表によると、同国の11月の貿易収支は8億5300万ドルの赤字で、96年1月からの累計額では37億5400万ドルの赤字。 |
| 12. 16 | 南米 ボリビア | メルコスル (MERCOSUR) 閣僚級会議がブラジル・フォルタレーザで開催。ボリビアと自由貿易協定を結ぶことなどで基本的に合意。 |
| 12. 17 | ペルー | 武装左翼ゲリラ・トゥパック・アマル革命運動 (MRTA) が日本大使公邸を占拠。天皇誕生日を祝うパーティに招待されていた各国大使、ペルー政府関係者、日系人、日本企業関係者などが人質として拘束される。 |
| 12. 18 | ペルー | リマ証券取引所、日本大使公邸人質事件を受け優良株や各指数が急落、取引を一時停止すると発表。 |
| 12. 19 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、政府と左翼ゲリラ・トゥパック・アマル革命運動 (MRTA) の間の人質解放交渉が開始。先に解放されたカナダ大使らが連絡役となる。 |
| 12. 19 | ペルー | クリストファー米務長官、米政府はペルー政府に対して、人質事件解決のため専門家チームを派遣する用意があることを打診したと表明。 |
| 12. 19 | ペルー | 国連安全保障理事会議長、安保理15カ国を代表し、日本大使公邸事件を非難、人質の即時解放を求める声明を発表。 |
| 12. 19 | ペルー | 人質事件解決にむけ、国連による支援活動が開始。国連開発計画 (UNDP) の現地事務所がリマの赤十字国際委員会に食料や衣料品など緊急物資を提供。 |
| 12. 20 | ブラジル | 中銀の発表によると、1996年11月末までの経常収支は累計で193億ドル。 |
| 12. 20 | ペルー | 同日付けの英紙タイムズ、英政府が英陸軍特殊部隊 (SAS) 6人を含む専門家チームをリマ入りさせたことを報じる。 |

| | | |
|--------|-----|---|
| 12. 20 | ペルー | 政府、左翼ゲリラ・トゥパック・アマル革命運動 (MRTA) が要求する獄中ゲリラの釈放を拒否することを閣議で決定。同日夕刻、ブラジル大使を含む38人が釈放。MRTAは釈放した人質らを通して、収監中の仲間の釈放を訴える。 |
| 12. 21 | ペルー | フジモリ大統領、テレビを通じて「武器を放棄し、人質を解放すれば武力行使は行わない」との声明を発表。これに先立ち、左翼ゲリラ・トゥパック・アマル革命運動 (MRTA) は、地元テレビ局との無線交信で、政府側に交渉に応じるように要請すると共に、政府関係者以外の人質を段階的に釈放するとの考えを表明。 |
| 12. 22 | ペルー | 日本大使館人質事件で、邦人30人を含む225人が釈放。邸内には依然として人質約140人が残る。 |
| 12. 23 | ペルー | 同政府、クリスマス恒例の恩赦で服役囚132人を釈放。しかし日本大使公邸人質事件の犯行グループ、トゥパック・アマル革命運動 (MRTA) のメンバーは含まれず。 |
| 12. 24 | ペルー | フジモリ大統領、ローマ法王が22日、日本大使公邸人質事件の犯行グループ、トゥパック・アマル革命運動 (MRTA) を非難したことに對して、感謝の書簡を送付。 |
| 12. 24 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、人質となっていたウルグアイ大使が解放され、残る人質は105人であることが判明。 |
| 12. 27 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、日米欧主要7カ国とロシアが「人命尊重を最優先に平和的解決に向けたペルー政府の姿勢を支持する」との声明を発表、武力行使による事件解決を牽制。 |
| 12. 27 | ペルー | 同憲法裁判所、フジモリ大統領の三選を可能とする憲法解釈法 (8月に国会で可決) は同大統領に適用できないとする決定を賛成5、反対2で下す。 |

(以上237項目)

参考文献

- (1) 『朝日新聞縮刷版』『日本経済新聞縮刷版』(1996年各月号)。
- (2) 日経ニュース・テレコム。
- (3) イベロアメリカ研究所新聞切抜き(1996年)。
- (4) 「ラ米における主なできごと」『ラテン・アメリカ時報』1996年1月-1997年1月
- (5) "L'Amérique latine en 1996," *Problèmes d'Amérique latine*, No.24(janvier-mars 1997).
- (6) *Latin American Weekly Report*, January 11, 1996-December 27, 1996(Latin American Newsletters Ltd., London).

Sophia-R

Sophia University Repository for Academic Resources

| | |
|--------------|---|
| Title | 〈資料〉 ラテンアメリカ日誌 —1997年— |
| Author(s) | |
| Journal | イベロアメリカ研究, 20(1) |
| Issue Date | 1998-08-07 |
| Type | 紀要/Departmental Bulletin Paper |
| Text Version | 出版者/Publisher |
| URL | http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/9338 |
| Rights | |



上智大学
Sophia University

<http://www.sophia.ac.jp>

《資料》

ラテンアメリカ日誌—1997年—

| 月 日 | 国名 | 記事 |
|-------|--------------|--|
| 1. 3 | キューバ | 米政府は、昨年7月に発動延期を決定していた対キューバ制裁強化法（ヘルムズ・バートン法）の一部条項をさらに半年延期する決定を下す。 |
| 1. 5 | コロンビア | ベネズエラ国境沿いの町アラウカで、左翼ゲリラとみられるグループが刑務所を襲撃。反政府活動家19人を脱走させ、そのままにもベネズエラに向け逃走。 |
| 1. 7 | 中南米 | ペルーの日本大使公邸人質事件で、中南米地域の政策協議機関（リオ・グループ）の各国大使がリマ市内にあるボリビア大使館で事件への対応策について協議。 |
| 1. 7 | ペルー | フジモリ（Alberto Fujimori）大統領、昨年12月17日の日本大使公邸人質事件発生後中断していた国内各地の視察を再開。 |
| 1. 11 | メキシコ | ミチョアカン州ブラヤアスの西約50キロの太平洋岸を震源地とするマグニチュード7.3の地震発生。 |
| 1. 12 | ブラジル | ブラジル民主運動党（PMDB）の全国党大会がブラジリアで開催。大統領再選法案の採決を2月15日以降に延期する決議。 |
| 1. 13 | 中南米 | 中南米およびカリブ地域の麻薬問題に関する専門家会議が国連ラ米・カリブ経済委員会（CEPAL）で開催。 |
| 1. 13 | チリ メキシコ | インスルサ（José Miguel Insulza）チリ外相、第二回メキシコ・チリ二国間常任委員会出席のためメキシコを訪問。 |
| 1. 13 | ハイチ | スマルト（Rosny Smarth）首相、国会の開会で96年の経済成長率を2.88%と発表。 |
| 1. 13 | エクアドル ペルー | ブカラン（Abdalá Bucaram）エクアドル大統領、ペルー訪問。 |
| 1. 15 | ブラジル | 下院特別委員会が大統領再選法案を可決。 |
| 1. 15 | メキシコ | クリントン（Bill Clinton）米大統領は会見のなかで、メキシコが1994年末の金融危機の際に米国から受けた緊急融資のうち未返済の35億ドルを繰り上げ返済すると発表。 |
| 1. 15 | アルゼンチン | 米通商代表部（USTR）が、薬品の特許権侵害を理由に経済制裁を発動する方針であると発表。制裁規模は2億6000万ドル。 |
| 1. 15 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、トゥバク・アマル革命運動（MRTA）は、地元ラジオ局との無線交信を通して、政府側が提案する保証人委員会の設置を受け入れることを発表。 |
| 1. 16 | ブラジル | 上院が臓器移植法案を可決。 |

| | | |
|-------|------------|--|
| 1. 16 | 中南米 | 中国外務省によると、同国はハイチ、ドミニカ共和国、パナマと貿易代表事務所を相互に開設することで同意。これら3カ国との国交樹立に強い意欲を示す。 |
| 1. 17 | ブラジル | 政府が96年の貿易収支を発表。輸出が477億4600万ドル、輸入が532億8700万ドルで55億4100万ドルの赤字。 |
| 1. 18 | アルゼンチン | ペロン党大会が開催。 |
| 1. 20 | メキシコ | 統計庁の発表によると96年12月の失業率は4.1%。 |
| 1. 20 | グアテマラ | 国連安全保障理事会において、同国政府とゲリラ組織グアテマラ民族革命連合（URNG）による和平協定を監視する軍事監視団派遣に関する決議が全会一致で採択される。155人の監視団が3ヶ月間の予定で派遣。 |
| 1. 21 | キューバ | アクスワージー（Lloyd Axworthy）カナダ外相が訪問。 |
| 1. 21 | トリニダッド・トバゴ | パンデイ（Basdeo Panday）首相、インドを訪問。 |
| 1. 21 | ブラジル | 上院が銃器の不法所持を重罪とする「銃器所持法改正案」（現行法では軽犯罪法違反）を承認。 |
| 1. 23 | アルゼンチン | 北部のアンデス山脈地域にあるフフィ市付近を震源とするマグニチュード6.4の地震発生。 |
| 1. 23 | ボリビア | フジモリ大統領、サンチェス（Gonzalo Sánchez de Lozada）ボリビア大統領と会談。ペルーの日本大使公邸人質事件について、両国はトゥバク・アマル革命運動（MRTA）の服役囚の釈放を人質事件の取引条件にしないことを確認。 |
| 1. 24 | ペルー | 地元紙コメルシオは、トゥバク・アマル革命運動（MRTA）のリーダー・セルバ（Néstor Cerpa Cartolini）容疑者の妻ナンシー服役囚がアンデス山中の海拔5200メートルに位置する最も警備が厳重なチャヤパルカ刑務所に移送されたと報道。 |
| 1. 27 | ブラジル | 中銀発表によると、96年末の国内債務証券額は前年同月比62.4%増の1761億7300万リアル。 |
| 1. 28 | ブラジル | 下院で大統領再選法案の第一回投票が実施され、可決（賛成336票、反対17票）。 |
| 1. 28 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、保証人委員会が初会合。メンバーはパレルモ（Domingo Palermo）教育相、シプリアーニ（Juan Luis Cipriani）大司教、ミニング（Michel Minnig）赤十字国際委員会ペルー代表、ピンセント駐ペルー・カナダ大使および寺田外務省現地対策本部顧問。 |
| 1. 28 | ペルー | 首都リマにあるマランガ少年院で、収容されている少年約100人が待遇改善を求め屋上付近を占拠する事件が発生。 |
| 1. 29 | ブラジル | 下院が国民投票に関する修正案を否決。 |

| | | |
|-------|--------------|---|
| 1. 30 | アルゼンチン | 同国初の通信衛星が仏領ギアナの宇宙センターより打ち上げられる。 |
| 2. 2 | ペルー | 貧困撲滅のための国際会議「マイクロクレジット（少額融資）サミット」に出席したフジモリ大統領、演説で国内の貧困問題に取り組む決意を表明。 |
| 2. 4 | ペルー | 訪米中のフジモリ大統領、クリントン米大統領と会談。米国政府はテロリストを断固認めないペルー政府の姿勢を支持。 |
| 2. 5 | エクアドル | 首都キトでブカラン政権の緊縮経済政策に反対するスト発生。約10万人が参加。 |
| 2. 6 | エクアドル | 野党がブカラン大統領の罷免を求める動議を提出、過半数の賛成で可決される。国会によりアラルコン（Fabián Alarcón Rivera）国会議長が暫定大統領に指名されるが、大統領は表決結果を認めず、辞任を拒否。またアルテアガ（Rosalia Arteaga）副大統領が後継大統領に就任すると宣言。 |
| 2. 7 | エクアドル | 全土に国家非常事態宣言を発令。 |
| 2. 7 | ペルー エクアドル | フジモリ大統領、17日に開始予定だったエクアドルとの和平交渉を延期すると発表。 |
| 2. 9 | エクアドル | 国会でアルテアガ副大統領を暫定大統領に選出。 |
| 2. 11 | エクアドル | 国会で暫定大統領の選出のための投票が実施され、アラルコン国会議長が過半数を獲得し当選。アルテアガ暫定大統領はすでに辞任し、副大統領職に戻る旨を表明。 |
| 2. 11 | ペルー | 同日午後、日本大使公邸人質事件の解決にむけ、ペルー政府と犯人グループ「トゥパク・アマル革命運動」（MRTA）間の初の「予備的対話」が行われる。同夜、保証人委員会による声明が発表され、両者は今後も対話を継続することで合意。 |
| 2. 12 | キューバ | 米国ホワイトハウスが、米国の報道・学術関係10機関（CNN テレビやAP通信など）に対し、同国での支局開設を認可すると発表。 |
| 2. 14 | ペルー | 2回目の「予備的対話」が行われる。終了後に保証人委員会のメンバー、シプリアーニ大司教が、本格交渉に向けての議題については合意に至らなかったこと、また対話が翌日も継続されるなどのコメントを発表。 |
| 2. 15 | ペルー | 3回目の「予備的対話」が行われる。 |
| 2. 18 | メキシコ | セルバンテス（Enrique Cervantes）国防相、ゴンサレス・レポージョ（Jesús González Rebollo）国家麻薬取締庁長官を麻薬密輸組織と関係していた疑いで解任し、逮捕命令を出したと発表。 |
| 2. 18 | ブラジル | 中銀がレアルの為替変動幅を1ドル0.97～1.06レアルから1.05～1.14レアルに変更すると発表。 |

| | | |
|-------|----------------|--|
| 2. 18 | キューバ | 訪欧中のオルブライト (Madeleine K. Albright) 米國務長官がブリュッセルにある欧州委員会本部を訪問、米国と欧州連合 (EU) 間で懸案となっている米国の対キューバ経済制裁強化法 (ヘルムズ・バートン法) などについて意見を交換するが、依然として双方の考えに隔たりがみられる。 |
| 2. 19 | メキシコ | 大蔵省の発表によると96年のGDP成長率は5.1%。 |
| 2. 19 | ブラジル | 下院で銃器所持法改正案を承認。 |
| 2. 21 | ブラジル | 中銀は、金融市場における公債売買仲介で不正行為を行ったとされる15企業に対して強制解散を決定。 |
| 2. 21 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で4回目の「予備的対話」が実施。今回初めて犯人グループ、トゥパク・アマール革命運動 (MRTA) 側からリーダーのセルパ容疑者が出席。本格交渉が開始する。 |
| 2. 21 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、リマ市内に出されていた非常事態宣言を延長。同日付けの官報で告示 (期間は2月26日から60日間)。 |
| 2. 24 | キューバ | 欧州連合 (EU) が米国のヘルムズ・バートン法を自由貿易のルールに反するとして世界貿易機関 (WTO) に提訴している問題で、EU外相理事会はWTOでの紛争処理手続きと並行して、米国と直接交渉を行う旨を表明。 |
| 2. 24 | ペルー | 5回目の予備的対話が行われる。 |
| 2. 25 | ブラジル | 下院において再選法案の第二回投票が実施され可決 (賛成368票、反対112票、棄権5票)。 |
| 2. 25 | ペルー | 6回目の予備的対話が行われる。対話終了後に保証人委員会から声明として、翌日に対話が継続されること、対話の内容はこれまで通り秘密にする必要があることなどを発表。 |
| 2. 27 | ペルー | 7回目の予備的対話。人質の早期解放や刑務所内の待遇改善など具体的な問題について議論される。 |
| 2. 28 | キューバ | 共産党機関誌グランマが、来年1月21日から25日までローマ法王ヨハネ・パウロ2世 (Papa Juan Pablo II) の訪問が決定したと報道。 |
| 3. 2 | ペルー ドミニカ共和国 | フジモリ大統領、ドミニカ共和国を訪問。フェルナンデス (Leonel Fernández) 大統領とペルーの日本大使公邸人質事件について協議。トゥパク・アマール革命運動 (MRTA) の亡命先についても意見交換した模様。 |
| 3. 3 | ペルー キューバ | 8回目の予備的対話が実施。フジモリ大統領、キューバを訪問。日本大使公邸人質事件の犯人グループ、トゥパク・アマール革命運動 (MRTA) のキューバへの亡命受入れを打診したのに対して、カストロ (Fidel Castro) 国家評議会議長は協力を約束。 |

| | | |
|-------|-------|--|
| 3. 5 | ペルー | 9回目の予備的対話。それまでの政府主導による交渉と異なり、犯人グループ、トゥバク・アマル革命運動 (MRTA) 側からも提案が提示される。 |
| 3. 6 | ジャマイカ | マンレイ (Michael Manley) 前首相が死去。 |
| 3. 6 | ガイアナ | 先月15日に不調を訴え米国に移送、心臓手術を受けていたジェーガン (Cheddi Jagan) 大統領がワシントンの病院で死去。 |
| 3. 6 | ペルー | 国家情報局が日本大使公邸へのトンネルを堀削していたことが発覚したため、今日予定していた10回目の予備的対話を犯人グループ側が拒否。 |
| 3. 7 | ペルー | 政府と国際民間債権銀行約180行、金利分を加えた総額112億ドルの中長期債務の減免を含む返済計画合意書に調印。 |
| 3. 12 | ペルー | 一週間振りに予備的対話 (10回目) が再開。服役囚の釈放問題などをめぐり政府側とトゥバク・アマル革命運動 (MRTA) 側が激しく応酬。 |
| 3. 13 | メキシコ | 米下院、同国が90日以内に米政府の麻薬撲滅政策に積極的に協力しない場合、非協力国とし経済制裁の発動などを求める法案を可決。 |
| 3. 13 | ブラジル | リオデジャネイロで、1992年に開催された国連環境開発会議以後5年間の環境問題への対策を検証する国際会議「リオ+5」が開催 (~19日)。 |
| 3. 17 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、保証人委員会はトゥバク・アマル革命運動 (MRTA) と個別協議を実施。13日に続き2回目。またこれに先立ちフジモリ大統領とも会談。 |
| 3. 19 | コロンビア | 同国北東部ブカラマンガで左翼ゲリラの犯行とみられる連続爆弾テロが発生。5名が負傷。 |
| 3. 19 | ウルグアイ | 同統計研究所の発表によると、1996年のGDP成長率は4.9%。 |
| 3. 20 | メキシコ | 米上院は、先頃下院で可決したメキシコに対する経済制裁の発動を含む強硬姿勢を緩和する法案を可決。ただし米政府の麻薬対策への協力強化はいぜんとして要求。 |
| 3. 21 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、保証人委員会は政府側と14日に続き2回目の個別協議を実施。最大の懸案である服役囚の釈放問題について協議。同日夕、フジモリ大統領は視察先でのインタビューで「ひとりの釈放も認めない」との強硬姿勢を改めて示す。 |
| 3. 21 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、保証人委員会とトゥバク・アマル革命運動 (MRTA) が3回目の個別協議を実施。保証人委のシブリアーニ大司教は「もはや我々ができることは最終地点に近づいた」として政府、MRTA双方に歩み寄りを強く求める。 |

| | | |
|-------|--------------|---|
| 3. 23 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、政府側と犯行グループのトゥパク・アマル革命運動（MRTA）側の仲介役をつとめる保証人委員会が会合を開き、双方の個別協議の日程などを協議。また政府筋はMRTAの出国準備作業の開始を示唆。 |
| 3. 25 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、保証人委員会はトゥパク・アマル革命運動（MRTA）と個別協議を実施。事件解決にむけ最終調停案を提示。 |
| 4. 1 | ホンデュラス | テグシガルパ国際空港付近で米国空軍の輸送機が墜落。乗員10名のうち3名が死亡、7名が重軽傷を負う。 |
| 4. 4 | キューバ | 同外務省はブルネイとの国交樹立を発表。調印式はニューデリーで両国の駐インド大使を通して行われる。 |
| 4. 5 | ペルー ボリビア | ボリビアを訪問中のフジモリ大統領、サンチェス・ボリビア大統領と会談。会談終了後の共同記者会見で、交渉による解決を目指すことで両者が一致したことを強調。 |
| 4. 7 | キューバ | 訪米中のクレティエン（Jean Chretien）カナダ首相、ホワイトハウスでクリントン大統領と会談。対キューバ経済法（ヘルムズ・バートン法）を巡っては依然、平行線のまま。 |
| 4. 8 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、先月31日以来8日ぶりに保証人委員会と政府による個別協議が開催。刑務所待遇改善問題などについて協議。 |
| 4. 9 | ウルグアイ | 上院で、メルコスル（MERCOSUR）事務局をモンテビデオ市に設置する協定を承認。 |
| 4. 11 | キューバ | 米国の対キューバ制裁強化法（ヘルムズ・バートン法）を巡り昨年10月に世界貿易機関（WTO）へ提訴を行っていた欧州連合（EU）は、米国側が同法修正を受け入れたのをうけ、提訴を取り下げると発表。 |
| 4. 12 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、保証人委員会とトゥパク・アマル革命運動（MRTA）による個別協議が17日振りに開催。刑務所の待遇改善問題で保証人委が新たな提案を行った模様。 |
| 4. 17 | 中南米 | 米州自由貿易地域（FTAA）の次官級会議がリオデジャネイロで開催（～17日）。 |
| 4. 18 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、保証人委員会と政府による5回目の個別協議が10日ぶりに開かれ、トゥパク・アマル革命運動（MRTA）が要求する服役囚釈放について引き続き政府側の譲歩を引き出す。 |
| 4. 19 | グレナダ キューバ | ミッチェル（Keith Claudius Mitchell）グレナダ首相、キューバを訪問。政権内のクーデターに米軍が介入した「グレナダ侵攻」事件（1983年）後、同国首相としては初訪問となる。（両国は事件後グレナダに親米政権が樹立したために83年に断交、国交回復は94年）。 |
| 4. 20 | ウルグアイ | サンギネッティ（Julio María Sanguinetti）大統領が中国を訪問（～24日）。 |

| | | |
|-------|----------------|---|
| 4. 21 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、保証人を務めるシブリアーニ大司教、報道陣に対して自らの健康状態が善くないことを訴え、明日22日の外出も控えると語る。 |
| 4. 22 | 中南米 | 第9回アンデス共同体首脳会議がボリビア・スクレで開催。 |
| 4. 22 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で、同日午後（現地時間）、ペルー陸海空軍の特殊部隊が公邸に突入、人質を救出。犯人側のトゥパク・アマル革命運動（MRTA）のメンバーは全員死亡。またMRTAとの銃撃戦で人質1人と特殊部隊の隊員2人が犠牲になる。事件発生後127日目の解決となる。 |
| 4. 23 | 南米 | メルコスル（MERCOSUR）経済閣僚会議がパラグアイ・アスンシオンで開催。 |
| 4. 25 | キューバ | 同国とフランスが投資の保護と促進を目的とした2国間協定を調印。 |
| 4. 26 | ブラジル アルゼンチン | カルドーゾ(Fernando Henrique Cardoso)大統領とアルゼンチンのメネム(Carlos Menem)大統領が会談（於リオデジャネイロ）（～27日）。 |
| 4. 29 | ボリビア | 世界銀行（WB）と国際通貨基金（IMF）がワシントンで合同開発委員会を開き、ボリビアを含む3カ国を多重債務に苦しむ最貧国の債務削減対象に新たに加えることで合意。 |
| 4. 29 | ペルー | 同日付けのラレブプリカ紙によると、日本大使公邸人質事件の強行突入後に行われた民間の世論調査で、2000年の次期大統領選でのフジモリ大統領の3選について52%のリマ市民が反対、賛成は37%にとどまる。 |
| 5. 1 | ブラジル | 臨時措置令により、最低賃金が7.14%引き上げられ120リアルに改定。 |
| 5. 1 | キューバ | カストロ国家評議会議長、今年の砂糖生産が去年の450万トンを下回るとの見通しを述べる。 |
| 5. 5 | 中南米 | クリントン米大統領、メキシコ、中米、カリブ諸国を歴訪（～12日）。 |
| 5. 6 | ブラジル | リオデジャネイロ証券取引所でリオ・ドセ（CVRD）社の民営化入札が実施。 |
| 5. 6 | メキシコ | 米政府との間で、「マネーロンダリング（資金洗浄）の情報交換協定」など、麻薬撲滅や移民・国境問題の解決、経済協力の促進に向け11の二国間協定を締結。 |
| 5. 9 | ブラジル | ドイツの大手自動車会社BMWは米国クライスラー社との合弁でエンジン工場をパラナ州カンポ・ラルゴに建設すると発表。BMWにとっては南米初の生産拠点となる。 |
| 5. 15 | 中南米 | 第3回米州貿易相会合がブラジルのペロ・オリゾンテで開催（～16日）。2005年までに米州自由貿易地域（FTAA）創設に関する交渉を終了させるとする第一回米州サミットでの公約を再確認。 |

| | | |
|-------|--------|--|
| 5. 18 | バハマ | 台湾外交部が同国と断交、駐バハマ大使を召還すると発表。 |
| 5. 20 | コロンビア | バルコ (Virgilio Barco) 元大統領死去。 |
| 5. 21 | ブラジル | 上院で、大統領、州知事、市長の再選を認める憲法改正案第一回投票が実施され承認(賛成63票、反対6票)される。 |
| 5. 23 | セントルシア | 同日行われた下院議員選挙の結果、現政権の腐敗と経済停滞を批判する野党のセントルシア労働党 (SLP) が17議席中16議席を獲得し圧勝。 |
| 5. 23 | バハマ | 中国の国連代表部、同国との国交樹立を発表。 |
| 5. 29 | エクアドル | 米航空宇宙局 (NASA) は、エクアドル沖海面でエルニーニョ現象の兆候が出ていると発表。 |
| 5. 30 | キューバ | キューバ人民権力全国会議のアラルコン (Ricardo Alarcón) 議長が、5月6日に米国下院外交委員会で可決された修正案10項目について、キューバ制裁強化法(ヘルムズ・パートン法)の強化を計るものと非難。 |
| 5. 30 | ペルー | 国会において、フジモリ大統領の3選出馬に反対する憲法裁判所の判事3人の解任が賛成多数により決定される。 |
| 6. 1 | ボリビア | 総選挙実施。翌2日までに発表された開票結果によると、第一位の民族民主行動党 (ADN) が過半数を獲得できなかったため、大統領選は第2位の民族革命運動党 (MNR) の候補者との間の決選投票になることが決定。 |
| 6. 1 | 中南米 | 第27回米州機構 (OAS) 年次総会がペルーのリマで開催。 |
| 6. 2 | アルゼンチン | メネム大統領、空港民営化に関する大統領令に署名。 |
| 6. 4 | ボリビア | 民族民主行動党 (ADN)、民族革命運動党 (MNR)、連帯市民連合 (UCS) が連立政権の政策協定「ボリビアのための協定」に署名。 |
| 6. 4 | ペルー | 工業観光統合通商交渉省によると、97年1～5月の海外観光客数が26万9500人(対前年同期比8%増)と発表。 |
| 6. 4 | ブラジル | 上院本会議で、大統領連続再選を1回限り認める改憲案を承認。 |
| 6. 9 | ハイチ | スマルト首相がプレバル (René Prével) 政権を批判し、辞任を表明。 |
| 6. 16 | ペルー | フジモリ大統領、パチカンを訪問。ローマ法王ヨハネ・パウロ2世との会談で日本大使公邸人質事件の経過を説明したのに対して、法王は犠牲者に対する哀悼の意を表明。 |
| 6. 19 | 南米 | メルコスル (MERCOSUR) 首脳会議がアスンシオンで開催。加盟4カ国首脳は政治的つながりを深めるとともに、将来は欧州、北米地域とも自由貿易圏を作ることを確認する。 |

| | | |
|-------|-----------------|---|
| 6. 20 | ブラジル | カルドーゾ大統領、連邦議会で核不拡散防止条約（NPT）への加盟方針を述べ、議会に対し同条約の批准を要請。 |
| 6. 24 | ペルー | フジモリ大統領、バングラデシュ、インドを訪問（～28日）。 |
| 6. 24 | チリ | エルニーニョ現象の影響とみられる異常気象で、首都サンティアゴを中心に洪水。6万人以上が被災。政府は24日までに中部7州を災害地域に指定、救済に乗り出す。 |
| 6. 25 | ペルー | フジモリ大統領は赦免委員会の勧告に基づき、テロ活動に関与した疑いで服役中の政治犯114人の赦免を決定。このなかにトゥパク・アマル革命運動（MRTA）のメンバーが含まれているかについては不明。 |
| 6. 26 | ブラジル | 同国初の銀行民営化（リオデジャネイロ州立銀行バネルジ）が行われ、大手民間銀行イタウ銀行が落札。 |
| 6. 27 | キューバ ドミニカ共和国 | ハバナで外務次官級レベルの協議の末、両国は領事関係樹立で合意。 |
| 6. 29 | ブラジル | サッカー南米選手権の決勝でブラジルはボリビアを3—1で下す。ブラジルの優勝は1989年以来、4大会ぶり5度目。 |
| 6. 30 | ブラジル | カルドーゾ大統領、レアルプラン実施3周年（7月1日）に際しテレビ・ラジオで演説。レアルプランを評価するとともに、今後も引き続き経済成長と社会的公正の構築を目指し努力を行う旨を国民に伝える。 |
| 6. 30 | キューバ | カストロ国家評議会議長、中国の江沢民国家主席および李鵬首相に香港返還を祝うメッセージを送る。 |
| 6. 30 | キューバ | 国営テレビのニュースが、ハバナのカトリック大聖堂広場で前日行われた野外ミサについて約1分間伝える。メディアが教会のミサを報じるのは初めてであり、また野外ミサも革命後初めて。 |
| 7. 1 | 中南米 | 同日付けで台北に中米貿易事務所が開設される。台湾と中米5カ国（コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンデュラス、ニカラグア）の共同運営となる。 |
| 7. 3 | エクアドル | アラルコン大統領、エルニーニョ現象に備え、行政府に各種対策の権限を与える非常事態宣言を行う。 |
| 7. 4 | 中南米 | ホンデュラス・テグシガルバで中米5カ国が台湾と政治・経済協力を協議するための外相級会議を開催（～5日）。 |
| 7. 6 | メキシコ | 上下両院、連邦区、地方州選挙が実施。下院（定数500）全議席と上院（同128）の4分の1の改選、市議会、メキシコ市長および6州知事に対する投票が行われる。 |
| 7. 6 | メキシコ | 即日開票の結果、下院で与党「制度的革命党」（PRI）が結党以来初めて過半数割れをおこした他、首都メキシコ市長に左派野党「民主革命党」のカルデナス（Cuauhtémoc Cárdenas）候補が当選、与党PRIは歴史的な大敗を期す。 |

| | | |
|-------|--------------|---|
| 7. 9 | ブラジル | サンパウロ地区の携帯電話事業の事業主体を決める競争入札で米ベル・サウス社を筆頭とするグループが落札。落札額は約24億5000万ドル。 |
| 7. 12 | キューバ | ハバナ市内の高級ホテル2軒で爆発事件が発生、3人が負傷。当局は米国の反カストロ派亡命キューバ人組織の犯行との見方。 |
| 7. 12 | キューバ ボリビア | 共産党機関誌グランマはボリビアで発見された人骨がアルゼンチン人でキューバ革命の英雄チェ・ゲバラ (Ernesto Che Guevara) のものであることを確認。遺骨は同日夜、ボリビアからの特別機でハバナ郊外の空軍基地に到着、カストロ国家評議会議長などの出迎えを受ける。 |
| 7. 16 | キューバ | クリントン米大統領は対キューバ制裁強化案「ヘルムズ・バートン法」の一部執行を6ヶ月間再延期することを決定。 |
| 7. 16 | ペルー | トゥデラ (Francisco Tudela) 外相、カスティジョ・メサ (Tomás Castillo Meza) 国防相、エルモサ (Nicolás de Bari Hermoza) 法相が辞任。フジモリ大統領は17日までに上記3閣僚および内相、漁業相の後任人事を発表。 |
| 7. 17 | キューバ | 同日付けのキューバ共産主義青年同盟機関紙フベントウ・レベルデは、同国の砂糖生産は今年(推定420万トン)に続き来年も不作であると報道。 |
| 7. 22 | キューバ | 同体育庁は、昨年のアトランタ五輪で優勝した野球代表チームの一塁手が外国でのプロ活動のために出国を計画していたとして、スポーツ界から永久追放すると発表。同時に同選手が所属する国内チームのコーチ3人と選手3人にそれぞれ永久追放と無期限追放処分を言い渡す。 |
| 7. 25 | ブラジル ボリビア | カルドーゾ大統領とサンチェス大統領は、両国間のガスパイプライン建設開始に関する文書に署名。 |
| 7. 27 | メキシコ | 麻薬組織の軍内部への浸透が深刻化。同日号の政治雑誌プロセソが軍情報局による調査報告として、麻薬取締りの最高責任者の軍幹部が麻薬組織のボスと頻繁に接触していたことを暴露。 |
| 7. 28 | ペルー | フジモリ大統領、独立記念日恒例の国会演説のなかで、公務員給与引き上げや、退職者を対象とする基金設立など、生活水準改善のための具体策を提示。 |
| 7. 29 | ブラジル | ロヨラ (Gustavo Loyola) 中央銀行総裁が辞任。後任にフランコ (Gustavo Franco) 同中銀国際問題担当理事を任命。就任式は8月20日。 |
| 8. 1 | 中南米 | 米政府、中南米諸国へのハイテク武器輸出規制を緩和すると発表。 |
| 8. 1 | パナマ | 台湾と通商関係促進協定を締結。 |

| | | |
|-------|-----------------|---|
| 8. 4 | ボリビア | 大統領選挙の決選投票で、右派、民族民主行動党（ADN）のバンセル（Hugo Banzer Suárez）元大統領が選出される。 |
| 8. 13 | キューバ ホンデュラス | 同日付けのキューバ共産党機関誌グランマは、同国とホンジュラスは双方の首都に利益代表部を設置することで同意したと報道。 |
| 8. 14 | ブラジル | カンジール（Antônio Kandir）企画相、民営化計画の一環に国営石油会社のペトロブラスの株式売却を含めると発表。 |
| 8. 16 | パラグアイ アルゼンチン | 同国を訪問中のクリントン米大統領、メネム大統領と会談。 |
| 8. 21 | ブラジル | 政府は、自動車輸入関税割当を1年間更新すると発表。 |
| 8. 23 | 中南米 | アスンシオンで開催された中南米諸国の政策協議調整機構（リオ・グループ）が首脳会談後に発表した声明で、国連安全保障理事会の改革を支持するとともに、中南米地域の常任国入りを要求。 |
| 8. 23 | グレナダ | 英国からの独立（1974年）後の初代首相エリック・ゲイリー（Eric Gairy）氏、死亡。 |
| 8. 25 | パラグアイ ペルー | パラグアイ警察は同日までにトゥバク・アマル革命運動（MRTA）のメンバー16人をアスンシオン市内で逮捕。 |
| 8. 29 | ブラジル | 1998年度予算案が発表。歳入が1876億レアル、歳出は1801億レアルで75億レアルの黒字（プライマリーベース）となる。 |
| 8. 29 | セントルシア | 台湾との関係を断交し、中国との国交を樹立すると発表。 |
| 8. 29 | ブラジル | 第11回労働者党全国大会がリオデジャネイロで開催（～31日）。総裁選でジョゼ・ジルセウ（José Dirceu）総裁が再選される。 |
| 8. 31 | ブラジル | 同日付けの国内有力紙オ・グローボは、麻薬組織がコカイン精製の廃棄物をアマゾン河に投棄したことによる河川や周辺地域の汚染が進んでいるとの政府報告書の内容を報道。 |
| 9. 4 | 中南米 | 台湾の李登輝総統がパナマ、ホンデュラス、エルサルバドル、パラグアイを歴訪。7日は「パナマ運河国際会議」に出席。 |
| 9. 4 | キューバ | 同日昼、ハバナ市内のホテルで連続爆弾テロが発生。イタリア人男性1人が犠牲になる。今年4月以来続く爆弾テロで犠牲者が出たのは初めてのこと。 |
| 9. 7 | パナマ | パナマ運河国際会議が開催（～10日）。 |
| 9. 8 | ハイチ | 同日未明、同国西部のモンルイ港でフェリーが転覆、400人近くが死亡した模様。 |
| 9. 12 | ブラジル | 第3回メルコスル（MERCOSUR）経済代表者会議がサンパウロで開催。 |

| | | |
|--------|--------|---|
| 9. 12 | ブラジル | 第14回全国連邦判事総会が開催。全国各地の連邦判事代表250人が参加し、司法問題を討議。 |
| 9. 13 | メキシコ | 先住民武装組織「サパティスタ民族解放軍」(EZLN)のメンバーとその支持者数千人がメキシコ市に集結、セディージョ(Ernesto Zedillo)政権に対する抗議集会を開く。 |
| 9. 24 | ペルー | 外務省は、ドイツのハンブルグ市当局がトゥバク・アマル革命運動(MRTA)のペラスコ欧州代表の政治活動を制限する旨決定したと発表。 |
| 9. 25 | ブラジル | ランプレイア(Luiz Felipe Lampréia)外相、オルブライト米國務長官とニューヨークで会談。国連安保理の新常任理事国や二国間の通商関係などについて意見を交換。 |
| 9. 25 | パナマ | パナマ運河のパナマ政府への返還に伴い、運河の治安維持にあっていた米軍の南方軍司令部が閉鎖。94年間にわたるパナマ駐在に終止符を打つ。 |
| 9. 26 | ハイチ | 同日付けのベトナム・ニュースによると、同国とハイチが大使級の外交関係を樹立する共同声明を発表。ニューヨークで両国国連大使が調印。 |
| 10. 2 | ブラジル | ローマ法王ヨハネ・パウロ2世がブラジル訪問(～5日)。 |
| 10. 3 | アルゼンチン | マレーシアのマハティール首相、アルゼンチンを訪問。 |
| 10. 4 | メキシコ | セディージョ大統領がフランス、ドイツを訪問(～10日)。 |
| 10. 8 | キューバ | 第5回キューバ共産党大会が首都ハバナで開催(～10日)。党大会の開催は91年10月以来6年振り。初日にカストロ国家評議会議長が6時間以上に及ぶ演説を行い、健康不安説を払拭。 |
| 10. 8 | ブラジル | フランス大手自動車会社プジョー・シトロエン・グループは、リオデジャネイロ州に新工場を建設すると発表。工場の稼働は2000年で、生産能力は年間10万台を予定。 |
| 10. 9 | アルゼンチン | マルビナス諸島で地方議会選挙が実施。 |
| 10. 9 | アルゼンチン | メネム大統領、パチカンを訪問。11日はローマ法王との会見に臨む。 |
| 10. 10 | メキシコ | 同国赤十字は、南部の太平洋岸を襲った大型ハリケーン「パウリーナ」の被害状況について、10日までに死者400人、被災者は2万人で、被害はさらに拡大する模様であると発表。 |
| 10. 12 | 中南米 | クリントン米大統領、アルゼンチン、ブラジル、ベネズエラの南米3国を初訪問。2005年発足を目指す米州自由貿易圏(FTAA)構想を促進すべく、各国首脳と会談(～19日)。 |

| | | |
|--------|---------------|---|
| 10. 14 | ブラジル | 国連安保理非常任理事国10カ国のうち、今年末で任期が切れる5カ国の改選の結果、ブラジルが新メンバー国の一つに選出。その他のメンバー国はバーレーン、スロベニア、ガボン、ガンビア。 |
| 10. 14 | ブラジル | 南米歴訪中のクリントン大統領とカルドーゾ大統領が会談。米州自由貿易圏 (FTAA) を主張する米国に対してブラジルはあくまでメルコスル (MERCOSUR) の重要性を強調。 |
| 10. 19 | メキシコ | ベラクルス州の210市で市長選挙が、またタバスコ州の17市で市長および州議会選挙が実施。 |
| 10. 26 | アルゼンチン | 下院議員半数改選選挙 (257議席数のうち127議席) が実施。与党ペロン党は36%の得票率で第一党は維持したものの、13議席を失い、非改選議席数を合わせると119議席となり過半数を割る結果となる。 |
| 10. 27 | 中南米 | 第2回米州自由貿易地域 (FTAA) 貿易次官級準備会合がコスタリカのグアナカステで開催 (~30日)。 |
| 10. 28 | 中南米 | コスタリカからの報道によると、欧州連合 (EU) は「エルニーニョ現象」対策として中南米諸国に5億ドルの資金援助を行う方針を表明。援助資金は被害の予防や早期警戒対策に充当。 |
| 10. 30 | ブラジル | 政府と中央銀行の通貨政策審議会、通貨レアルを防衛するために基準金利を約2倍に引き上げる。 |
| 10. 30 | パラグアイ | 公務員事務職のストライキが実施。 |
| 10. 31 | グアテマラ メキシコ | 両国首脳会談がメキシコ・チアパス州で開催。 |
| 11. 4 | アルゼンチン | 訪英中のディ・テラ (Guido di Tella) 外相、クック外相と二国間関係などについて会談。 |
| 11. 5 | キューバ | 国連総会は、米国の対キューバ経済制裁の撤回を求める決議を賛成143、反対3、棄権17で採択。 |
| 11. 5 | ブラジル | サンパウロ州の電力会社CPFL社の民営化に対する入札の結果、ブラジル最大の民間銀行ブラDESCOや大手財閥ボトランチンなどから構成されるブラジル企業グループが落札。落札額は30億1400万レアル。 |
| 11. 7 | ブラジル | 世界同時株安の不安を受け、ボベスバ指数が一時10%を超えて下落。そのため先月28日に続き取引を一時停止。 |
| 11. 8 | 中南米 | 中南米諸国および旧宗主国のスペイン、ポルトガルの計21カ国の首脳による「第7回イベロアメリカ首脳会議」が開幕 (於ベネズエラのマルガリータ島)。会議ではキューバ民主化問題が焦点となる。 |
| 11. 9 | メキシコ | ハリスコ州で124市の市長および州議員改選選挙が実施。 |

| | | |
|--------|----------------|---|
| 11. 9 | 中南米 | 第7回イペロアメリカ首脳会議で、同日採択された「マルガリータ宣言」は米国の対キューバ制裁強化法「ヘルムズ・バートン法」に断固反対し、キューバの立場を支持する内容が盛り込まれる。名指しのキューバ批判は行われずに同会議は閉幕。 |
| 11. 10 | ブラジル | 政府は増税や公務員削減など福祉関連以外の歳出削減を柱とする「財政安定化措置」(50項目)を発表。この措置により約200億レアルの増収効果を見込む。 |
| 11. 10 | アルゼンチン ブラジル | メネム・アルゼンチン大統領がブラジルを訪問。首脳会談ではメルコスル(MERCOSUR)や二国間関係について協議(～11日)。 |
| 11. 11 | ドミニカ共和国 | 首都サントドミンゴで同日ゼネスト実施。ストに参加していた労働者の1人が警官隊と衝突、頭に銃弾を受け死亡。 |
| 11. 13 | メキシコ | セディージョ大統領が訪米。クリントン大統領と麻薬対策、密輸問題などについて協議。 |
| 11. 18 | チリ | チリ国産アルコール飲料「ピスコ」の税率が輸入アルコール製品に比べ低いのは内国民待遇ルールに違反するとして、世界貿易機関(WTO)の紛争解決小委員会は欧州連合(EU)の要請を受入れ、パネル設置を決定。 |
| 11. 19 | ブラジル | 中銀金融政策委員会は、中銀基準金利を12月以降、月利3.0%から2.90%に引き下げることを決定。 |
| 11. 19 | ブラジル | 世界銀行による総額2000ドルの技術支援が決定。同中央銀行の監督機能の効率化やコンピューター購入など金融システムの改革安定化を目的としたもの。 |
| 11. 24 | メキシコ | 米フォード・モーターがチワワ州北部に新エンジン工場を建設すると発表。2000年までの稼働を目指す。 |
| 11. 25 | キューバ | 米国における反カストロ派の中心的指導者だった「キューバ系米国人全国基金」のマス・カノサ(Jorge Mas Canosa)理事長が死亡。 |
| 11. 25 | チリ | サンティアゴで学生ら2000人によるデモ。ピノチェット(Augusto Pinochet)元大統領が98年3月に司令官を引退した後任命上院議員に就任することに抗議したもの。 |
| 11. 26 | アルゼンチン メキシコ | メネム大統領、メキシコを訪問。 |
| 11. 26 | 中南米 | 米州連合検察官特別会合がメキシコで開催。麻薬・犯罪組織、汚職、司法協力体制などについて討議(～27日)。 |
| 11. 30 | ホンデュラス | 大統領選挙と国会議員選挙が実施。即日開票の結果、与党自由党で国会議長のフローレス(Carlos Flores)候補が当選。 |
| 12. 1 | ブラジル | カルドーゾ大統領、英国を訪問(～5日)。 |

| | | |
|--------|------|---|
| 12. 1 | メキシコ | 中国の江沢民国家主席とセディージョ大統領が会談。カナダ・バンクーバーで開かれたアジア太平洋経済協力会議（APEC）の非公式首脳会合に出席後メキシコを公式訪問したもの。 |
| 12. 3 | キューバ | ラウル・カストロ（Raúl Castro）国家評議会第一副議長が中国訪問からの帰途、バチカンを非公式ながら訪問。来年1月に予定されているローマ法王ヨハネ・パウロ2世のキューバ訪問などについて協議した模様。 |
| 12. 9 | ブラジル | 上院、小切手税の徴収を99年1月まで延長する法案を可決。 |
| 12. 11 | ブラジル | リオデジャネイロ証券取引所は、リオグランデドノルテ電力公社株77.92%の競売を実施。 |
| 12. 13 | メキシコ | 全土が猛烈な寒波に見舞われる。同日までに北部を中心とする10州で12人が凍死。 |
| 12. 17 | 中南米 | 国連ラ米・カリブ経済委員会（CEPAL）が1997年経済報告を発表。ラテンアメリカ・カリブ諸国の平均GDP成長率は5.3%。 |
| 12. 20 | キューバ | 同国の国営紙、テレビ、ラジオはローマ法王ヨハネ・パウロ2世の「キューバ訪問にあたっての同国民へのメッセージ」を報道。 |
| 12. 22 | メキシコ | 南部チアパス州チェロナ村で、武装グループが先住民武装組織「サパティスタ民族解放軍」（EZLN）支持派の先住民村落を襲撃し、女性21人、子ども15人を含む45人を虐殺。検察当局が25日、虐殺に関与したとする15人を拘束、取り調べを開始。 |
| 12. 27 | メキシコ | チアパス州チェロナ村でおきた先住民虐殺事件で、連邦検察庁は同日、与党「制度的革命党」（PRI）党员である同村長を、武装グループに武器供与を行った疑いで逮捕したことを表明。 |

(以上219項目)

参考文献

- (1) 『朝日新聞縮刷版』『日本経済新聞縮刷版』（1997年各月号）。
- (2) 日経ニュース・テレコム。
- (3) イベロアメリカ研究所新聞切抜き（1997年）。
- (4) 「ラ米における主なできごと」『ラテン・アメリカ時報』1997年2月－1998年1月
- (5) "L'Amérique latine en 1997," *Problèmes d'Amérique latine*, No.28(janvier-mars 1998).
- (6) *Latin American Weekly Report*, 1 Jan. 1997-6 Jan. 1998. Latin American Newsletters Ltd., London.

Sophia-R

Sophia University Repository for Academic Resources

| | |
|--------------|---|
| Title | 〈資料〉 ラテンアメリカ日誌 —1998年— |
| Author(s) | |
| Journal | イベロアメリカ研究, 21(1) |
| Issue Date | 1999-08-03 |
| Type | 紀要/Departmental Bulletin Paper |
| Text Version | 出版者/Publisher |
| URL | http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/9460 |
| Rights | |



上智大学
Sophia University

<http://www.sophia.ac.jp>

《資料》

ラテンアメリカ日誌－1998年－

| 月 日 | 国名 | 記事 |
|-------|--------------|--|
| 01.02 | 中南米 カリブ地域 | 国連中南米カリブ経済委員会はエルニーニョ現象による異常気象で昨年（97年）の経済的損失が80億ドルを超すと発表。 |
| 01.03 | ペルー | エルニーニョ現象によるものと思われる集中豪雨で、これまでに24人が死亡、9人が行方不明、家屋などの被害が6000人に及ぶと政府が発表。 |
| 01.03 | メキシコ | チュアイフェット(Emilio Chuayffet)内相辞任。昨年12月のチアパス州で起きた先住民虐殺の責任を取ったものと推測される。後任はラバスティダ(Francisco Labastida Ochoa)農相が当たる。 |
| 01.05 | メキシコ | セディージョ(Ernesto Zedillo)大統領は、中央銀行総裁に転出したオルティス(Guillermo Ortiz)蔵相の後任にグリーア(José Angel Gurría)外相を任命。 |
| 01.07 | メキシコ | ルイス・フェロ(Julio César Ruiz Ferro)チアパス州知事が、昨年末の先住民虐殺事件の責任を取って辞任。 |
| 01.07 | メキシコ | セディージョ大統領は、蔵相に就任したグリーア前外相の後任として、ロサリオ・グリーン(Rosario Green)上院議員を任命、メキシコ史上初の女性大臣となった。 |
| 01.09 | メキシコ | アジアでの深刻な金融危機とニューヨーク株価の大幅下落の影響で、メキシコの株価が6%の暴落。2日の取引開始から6日連続の下落となった。 |
| 01.09 | メキシコ | 南部チアパス州で、政府軍と先住民系武装組織サパティスタ民族解放軍(ELN)が武力衝突。1994年1月の停戦以来はじめての衝突となる。 |
| 01.12 | キューバ | キューバ人民権力全国会議（国会）議員選挙の投票が行われ、全員が当選。 |
| 01.12 | メキシコ | メキシコ市で先住民虐殺事件に対する抗議および政府に対するサンアンドレス協定を求める大規模な集会が行われた。 |
| 01.12 | メキシコ | チアパス州オシコンゴ村で、先住民のデモ隊と州警察が衝突、先住民1名が死亡した。 |
| 01.17 | チリ | ベレス・ジョマ(Edmundo Pérez Yoma)国防相がピノチェト(Augusto Pinochet)陸軍司令官の引退問題で辞任、後任はラウル・トロンコソ(Raúl Troncoso)氏。 |

| | | |
|---------|----------------|---|
| 01 . 21 | キューバ | ローマ法王ヨハネ・パウロ2世(Papa Juan Pablo II)がキューバを初訪問。カストロ(Fidel Castro Ruz)議長との会談、ゲバラゆかりの地サンタ・クララやハバナ革命広場でのミサ等多くの行事を行った。 |
| 01 . 25 | メキシコ | メキシコ市近郊の火山ポポカテペトル山が噴火。 |
| 01 . 27 | グアテマラ キューバ | 1961年以来断交していたキューバとグアテマラが37年ぶりに国交を正常化。グアテマラ政府はローマ法王ヨハネ・パウロ2世の呼びかけに応じたものと説明。 |
| 01 . 27 | ホンデュラス | 昨年11月の大統領選挙で勝利したカルロス・フローレス(Carlos Flores Facussé)氏が大統領に就任。 |
| 01 . 29 | ペルー | エルニーニョ現象による豪雨で、アレキパ県チョコ村近くの川の堤防が決壊、土石流で31人が死亡、7人が重傷を負った。 |
| 02 . 01 | コスタリカ | 大統領選挙でキリスト教社会連合党のミゲル・アンヘル・ロドリゲス(Miguel Angel Rodríguez)が当選。 |
| 02 . 04 | ベネズエラ | 同国政府は国連化学兵器禁止条約に批准した旨、国連事務総長に報告。 |
| 02 . 11 | コロンビア | 南西部プエルトアシスの市長が、右派民兵集団が住民48人を虐殺したと発表した。国家警察は否定。 |
| 02 . 11 | ボリビア | 首都ラパスの北100キロのモコトロ金鉱山で、大雨による土砂崩れがあり、労働者40人が生き埋めになって死亡した。 |
| 02 . 12 | キューバ | ローマ法王ヨハネ・パウロ2世の要請を受け、キューバ政府は何度かに分けて130名の政治犯など合計200人以上の釈放を決定。 |
| 02 . 12 | ブラジル | 国会で7年間の論議の後、違法な森林伐採などに対する罰則を強化した環境犯罪取締法がカルドーゾ(Fernando Henrique Cardoso)大統領によって承認された。 |
| 02 . 14 | ボリビア アルゼンチン | ボリビアのバンセル(Hugo Banzel)大統領がアルゼンチンを訪問、2日後には両国政府間の移住協定、国境地帯に関する取り締まりに関する協定など7つの協定の署名が行われた。 |
| 02 . 19 | コロンビア | 国内麻薬組織の大物ホセ・ネルソン・ウレゴ(José Nelson Urrego Cárdenas)逮捕。同容疑者は麻薬密売と資金洗浄を行う大規模麻薬組織カルテル・デル・ノルテ・デル・バジェの首領。 |
| 02 . 20 | キューバ | クリントン(Bill Clinton)米大統領がキューバに対する制裁を緩和、人道物資などを運ぶチャーター直行便などの再開、年間1500ドルまでのキューバへの送金、医療品輸出手続き等の緩和策を発表した。 |

| | | |
|---------|----------------|--|
| 02 . 22 | コロンビア ペルー | ペルーのフェレロ(Eduardo Ferrero Costa)外相がコロンビアを訪問、メヒーア(María Emma Mejía)外相との間で、二国間協力、コカ栽培および麻薬密輸撲滅プログラムに関する協定に署名した。 |
| 02 . 22 | ブラジル | 第48回ベルリン国際映画祭でブラジルのヴァルテル・サレス(Walter Salles)監督「セントラル・ド・ブラジル」(セントラル・ステーション)がグランプリ(金熊賞)を受賞。 |
| 02 . 23 | ブラジル | 南米最大の祭典リオのカーニバル開幕。 |
| 02 . 24 | キューバ | 人民権力全国会議でフィデル・カストロ国家評議会議長とラウル・カストロ(Raúl Castro Ruz)国防相を、それぞれ国会評議会議長と第一副議長に再選。 |
| 02 . 26 | エクアドル | 首都キトの北西約200キロのエスメラルダスで、エルニーニョ現象が原因と思われる豪雨で発生した土石流が石油パイプラインを破壊、流出した石油が発火して、7人が死亡、75人が重軽傷を負った。 |
| 02 . 26 | コロンビア | 米政府がコロンビアに対して麻薬撲滅対策に非協力的であることを理由に科していた経済制裁の解除を2年ぶりに決定。 |
| 02 . 26 | コロンビア | 首都サンタフェデポゴタ北部の自宅で「エメラルドの帝王」と呼ばれる大富豪ビクトル・カランサ(Victor Carranza)が、暗殺部隊を組織した疑いで逮捕された。 |
| 02 . 26 | ベネズエラ コロンビア | コロンビア、ベネズエラからカリブ海にかけて、太陽が月に完全に隠れる皆既日食が観察された。 |
| 03 . 01 | ブラジル | 北部ベレンのサンホセ刑務所で、約3000人の囚人がミサのため訪れた司祭ら99人を人質に取り、逃走用の車と武器を要求した。占拠は28日間続いた後、警察が強行突入して決着した。 |
| 03 . 03 | ブラジル | 人類学者で先住民保護運動の先駆者としても知られるクラウディオ・ピラス・ボアス(Claudio Villas-Boas)氏が死去。享年82歳。 |
| 03 . 04 | カリブ地域 | 米自治領プエルトリコの州昇格の道を開く法案が、米下院でわずか1票差で可決。住民投票の実施、州昇格賛成が多数であれば10年間の移行プロセスを設けることなどが定められた。 |
| 03 . 04 | 南米 | 自由貿易圏メルコスール(MERCOSUR)がアンデス共同体と自由貿易圏を形成することで基本合意。メルコスールとメキシコの間での自由貿易協定交渉は不調に終わった。 |
| 03 . 10 | チリ | 1973年から90年まで独裁政権を維持した陸軍司令官ピノチェト将軍が退役、非難のデモの中、終身上院議員に就任。 |
| 03 . 15 | ブラジル | ポピュラー音楽界の人気歌手で作曲家のティム・マイア(Tim Maia)氏が死去。享年55歳。 |

| | | |
|--------|--------------|---|
| 03. 16 | チリ | 与党連合の下院議員11名が、1990年3月から8年間のピノチェト元陸軍司令官の言動が「国家の名誉と安全保障に重大な害を及ぼした」として、同司令官に対する弾劾案を下院に提出した。 |
| 03. 17 | ブラジル | 土地なし農民運動のグループが、サンパウロ、クイアバ、ベロオリゾンテなどの経済省の建物に各500人程度の規模で乗り込み、占拠した。 |
| 03. 18 | メキシコ | セディージョ政権が先住民の権利を認める憲法改正案を議会に提出。 |
| 03. 20 | キューバ | 米政府がキューバに対する制裁を一部緩和し、チャーター便の就航や送金の一部自由化などを認可する方針を発表。 |
| 03. 24 | アルゼンチン | 下院で、軍政時代の「左翼狩り」で多くの市民を誘拐・殺害した軍人らに恩赦を与えた2法の廃止を決めた。25日上院も通過した。 |
| 03. 26 | エクアドル | 通貨切り下げをめぐり、アラルコン(Fabián Alarcón Rivera)暫定大統領との意見の相違から、ハラミージョ(Fidel Jaramillo)中銀総裁とカレーラ(Danilo Carrera)通貨審議会会長が辞任。 |
| 03. 29 | ペルー | 北部のピウラ近郊で、エルニーニョによる水害被災者のための救援物資を輸送する空軍機が墜落、死者28人、負傷者20人を出した。 |
| 04. 01 | アルゼンチン | 1996年春ドイツで有名たばこ会社の経営者を誘拐、史上最高額の身代金3000万マルクと引き換えに解放、逃亡していたグループの主犯格トマス・ドラッハ(Thomas Drach) 容疑者がブエノスアイレスで逮捕された。 |
| 04. 03 | アルゼンチン | 急進党全国会議で99年次期大統領選挙の同党からの党内候補者にデ・ラ・ルア(Fernando de la Lúa)急進党総裁を選出。 |
| 04. 06 | キューバ | 政府はカナダへの出国を条件に政治犯12人を釈放した。 |
| 04. 06 | メキシコ | 第5回米国・メキシコ麻薬対策ハイレベル会合がメキシコ市で開催された。両国の麻薬対策につき評価・フォローアップを行う二国間作業グループを設置することで合意した。 |
| 04. 09 | チリ | 下院本会議はピノチェト前陸軍司令官の弾劾案を審議、投票の結果、反対多数で否決した。 |
| 04. 14 | ベネズエラ | ペレス(Carlos Andrés Pérez)前大統領が在職中に公金を外国銀行に蓄えた容疑で自宅軟禁となる。 |
| 04. 16 | 南米 アルゼンチン | メルコスールとアンデス共同体の通商担当相の会合がアルゼンチンのブエノスアイレスで行われた。2000年からの自由貿易協定発効に向け協議を行うことを定めた枠組み協定が締結された。 |

| | | |
|-------|---------------|--|
| 04.17 | チリ メキシコ | メキシコとチリが自由貿易協定をサービス・投資などの分野に拡大することで合意。引き続き他の中米諸国とも自由貿易協定を結ぶための交渉を始めた。 |
| 04.18 | コロンビア | 先住民や労組幹部、行方不明者家族らの弁護活動に携わっていたエドゥアルド・ウマナ(José Eduardo Umana Mendoza)氏が、首都サンタフェデボゴタにある事務所で殺害された。 |
| 04.18 | 中南米 | 米州34カ国首脳会議(米州サミット)開催。米州貿易自由地域(FTAA)創設に向けた交渉開始などを決定。 |
| 04.19 | メキシコ | ラテンアメリカを代表する詩人・批評家で、ノーベル文学賞受賞者のオクタビオ・パス(Octavio Paz)氏がメキシコ市で死去。享年84歳。 |
| 04.19 | メキシコ | メキシコから米国に大量のマリファナを空路密輸しようとした軽飛行機が、税関当局の飛行機の追跡を振り切ろうと北へ2400キロ逃げた後、不時着しようとして失敗、1人が死亡。 |
| 04.20 | コロンビア | サンタフェデボゴタ発キト行き旅客機が離陸直後、サンタフェデボゴタ近郊の山中に墜落した。乗客全員53人が死亡した。 |
| 04.20 | 中南米 チリ | 北米・中南米の34カ国の首脳が集まる米州サミットがチリのサンティアゴで行われ、米州全体にまたがる自由貿易圏をつくる構想を発表。2005年の実現を目指す。 |
| 04.21 | キューバ | 国連人権委員会で、政治釈放犯などキューバの人権状況改善を求めて米国などが提出した決議案が採択にかけられ、不採択に終わった。 |
| 04.21 | ペルー | フジモリ(Alberto Fujimori Fujimori)大統領は、武装テロ組織センデロ・ルミノソのナンバー2とされるペドロ・キンテロ(Pedro Quintero)容疑者をリマ市内のレストランで逮捕したと発表。24日にはさらに幹部3名を逮捕。 |
| 04.26 | キューバ | カナダのジャン・クレティエン(Jean Chretien)首相が、同国首相としては22年ぶりにキューバを訪問、カナダとの関係強化をねらうカストロ首相との会談などを行った。(27日まで) |
| 04.26 | グアテマラ | 著名な人権活動家でもあるファン・ホセ・ヘラルディ(Juan José Gerardi Condena)司教が自宅のガレージで何者かによって殺害。7月22日に第1発見者の司祭が殺人容疑で逮捕された。 |
| 04.26 | コロンビア | 首都サンタフェデボゴタで、5月末に予定されている大統領選挙の候補者の選挙事務所など5カ所でほぼ同時に爆弾テロがあり、少なくとも1人が死亡した。 |
| 04.29 | 中南米 アルゼンチン | ブエノスアイレスで、米州の軍民関係に関するシンポジウムが開催された。中南米の国防大臣、軍高官らが出席し、共同軍事演習の重要性などに関する講演などが行われた。 |

| | | |
|-------|-----------------|---|
| 04.30 | アルゼンチン | 同国警察は、ナチス・ドイツ政権下のクロアチアで強制収容所の責任者として大量虐殺を命じた疑いのあるクロアチア人ディンコ・サキッチ(Dinko Sakic)容疑者を逮捕した。 |
| 05.02 | アルゼンチン パラグアイ | エルニーニョ現象による豪雨で起こった洪水でアルゼンチン全土で13万人が非難、パラグアイと合わせ68人が死亡した。 |
| 05.05 | チリ | 下院はピノチェト軍政時代に建物などを接収された政党などに対して補償措置をとるための法案を可決。 |
| 05.06 | ペルー | 米国の石油企業デンタル・ベトロリアムの現地法人がチャーターしたペルー空軍機が同国北部のアンドレス付近で墜落。同石油の採掘現場で働く労働者ら75人が死亡した。 |
| 05.09 | コロンビア | 中部メタ州マピリパンで、政府軍が左翼ゲリラ、コロンビア革命軍(FARC)の拠点を攻撃、ゲリラ20人、軍兵士1人が死亡した。 |
| 05.10 | パラグアイ | 総選挙で、与党である国民共和協会(コロラド党)の候補ラウル・クバス(Raúl Alberto Cubas Grau)が大統領に当選。 |
| 05.12 | コロンビア | 首都サンタフェデボゴタでランダサバル(Fernando Landáza-bal Reyes)元国防相が拳銃で撃たれ死亡。 |
| 05.13 | メキシコ | 欧州連合は議会は1997年12月に、EU-メキシコ間で署名された「経済連合・政治協調および国際協力に関する協定」を批准した。 |
| 05.16 | ドミニカ共和国 | 国会・地方統一選で野党ドミニカ革命党が上下両院・地方首長選共に圧勝。 |
| 05.16 | ペルー | 国家警察が武装勢力トゥパク・アマル革命運動(MRTA)の訓練基地を発見、武器弾薬を押収、メンバー6人を逮捕した。 |
| 05.18 | ブラジル | 政府はインドが核実験を実施したことを不満とし、同国に対し、ブラジル・インド原子力協定を破棄すると通告した。 |
| 05.19 | キューバ | GATT50周年記念式典での演説でカストロ国家評議会議長が、キューバに投資する外国企業に圧力をかける米国政府を批判。WTOに対抗措置をとるよう求めた。 |
| 05.21 | ペルー | 国会はエクアドルと国境を接しているロレト県に自由貿易地帯を創設する法律を可決した。 |
| 05.22 | ボリビア | 中部アイキレ付近でマグニチュード5.9と6.8の地震が連続して発生。アイキレでは家屋の80%が倒壊、合計で47人が死亡、70人が負傷、200人以上が行方不明となった。 |
| 05.23 | コロンビア | 南部のカウカ県ポバヤンで同国最大の左翼ゲリラ、コロンビア革命軍(FARC)がサンイシドロ刑務所を襲撃、受刑者約330人を逃亡させた。 |
| 05.29 | ブラジル | ガゼッタ・メルカンチル社とブラジル連邦政府企画省の共催でブラジル投資セミナーがサンパウロで開催された。 |

| | | |
|-------|--------------|--|
| 06.01 | 中南米 ベネズエラ | 米州機構(OAS)総会がカラカスで開催された。 |
| 06.04 | ペルー | パンドルフィ(Alberto Pandolfi)首相が辞任し、バリエ・リエストラ(Javier Valle Riestra)新首相が就任した。 |
| 06.06 | キューバ | 米国移住のためのビザ(査証)取得について15日間から1ヶ月間申請を受け付けると発表。6日付の共産党機関誌に基準と共に掲載された。 |
| 06.08 | ペルー | 1932年以来、ナスカの地上絵の解読作業と保護活動に取り組んできたドイツ人研究者マリア・ライヘ(Maria Reiche)氏が胃ガンのため死去した。享年95歳。 |
| 06.09 | アルゼンチン | 1976-1983年の軍事政権下で左翼政治犯の両親から多数の赤ん坊が奪われ、軍人夫妻の養子に出されていた問題で、司法当局がホルヘ・ビデラ(Jorge Videla)元大統領を逮捕、誘拐と養子縁組違法斡旋の疑いで起訴した。 |
| 06.11 | メキシコ | 州治安部隊とサパティスタ国民解放軍の支持者グループが交戦、双方で7人の死者が出たとチアパス州政府が発表。 |
| 06.19 | ペルー | フジモリ大統領は、日本大使公邸占拠事件で職務怠慢および不服従の責任を問われ、軍事法廷に起訴されていた国家警察関係者25人に対し恩赦を付与、告発を取り下げた。 |
| 06.22 | コロンビア | 現職大統領の任期満了に伴う大統領選挙で、野党・保守党のアンドレス・パストラーナ(Andrés Pastrana Arango)氏が当選。 |
| 06.22 | ペルー チリ | ペルーとチリ両国政府は、経済補完協定を締結した。 |
| 06.28 | コロンビア | 政府が左翼ゲリラ勢力「民族解放軍」と和平に向けた予備交渉を開始することで合意。 |
| 06.29 | 南米 | メルコスールとアンデス共同体との優遇関税交渉がラテンアメリカ統合連合(ALADI)本部で開催。 |
| 06.30 | カリブ地域 | カリブ共同体(CARICOM)首脳会議がセントルシアで開催された。 |
| 06.30 | パナマ | パナマ運河委員会は3月から続いていた水位低下による通航制限を解除、大型船の通航が可能となった。 |
| 07.03 | コロンビア | 左翼ゲリラ「民族解放軍」(ELN)がノーベル平和賞受賞者のラモス・ホルタ(José Ramos Horta)氏の仲介で人質15人を解放。 |
| 07.06 | ペルー 中南米 | 北米の宇宙開発事業団は南米ペルー沖の海水温が高くなるエルニーニョ現象が終息し、代わって海水温が下がるラニーニャ現象の兆候を確認したと発表。 |
| 07.09 | コロンビア | パストラーナ次期大統領が、左翼ゲリラ最大勢力のコロンビア革命軍(FARC)の最高幹部と会見した。 |

| | | |
|--------|--------------|---|
| 07. 12 | エクアドル | 大統領選で決選投票の末、中道右派で人民民主党のハミル・マワ(Jamil Mahuad Witt)現キト市長が当選。 |
| 07. 12 | ブラジル | サッカーの第16回ワールドカップ大会(フランス)で、ブラジルが惜しくも決勝戦でフランスに敗れ、準優勝。 |
| 07. 13 | ブラジル | カルドーゾ大統領が核拡散防止条約(NPT)と核実験全面禁止条約(CTBT)批准を確認する文書に署名、ブラジル訪問中のアナン(Kofi Annan)国連事務総長に手渡した。 |
| 07. 15 | キューバ | 3月の制裁緩和処置に基づき、米・キューバ直行旅客機が到着。1996年2月以来の直行チャーター便の再開となる。 |
| 07. 15 | ホンデュラス | 国民50万人を動員した蚊の大規模な退治作戦始まる。熱帯伝染病デング熱の流行を防止するため。 |
| 07. 16 | ペルー | 野党系の民間団体「民主フォーラム」はフジモリ大統領の3選出馬を阻止するため、国民投票の請求に必要な署名を中央選管に提出。 |
| 07. 20 | 中南米 ブラジル | 米州機構(OAS)教育相会議がブラジリアで開催された。 |
| 07. 21 | アルゼンチン | カルロス・メネム(Carlos Saúl Menem)大統領が記者団に対し、1999年12月に退任し、3選出馬断念を発表。 |
| 07. 22 | メキシコ | 国連のアナン事務総長がメキシコを訪問、同国チアパス州で緊張が高まっている政府軍とサパティスタ国民解放軍(EZLN)に平和的な解決を呼びかけた。 |
| 07. 24 | 南米 アルゼンチン | 第14回メルコスール首脳会議がアルゼンチンのウシュアイアで開催された。 |
| 07. 26 | キューバ | 革命記念日の式典でカストロ国家評議会議長が5時間にわたって演説、健在ぶりをアピールした。 |
| 07. 28 | ペルー | フジモリ大統領が独立記念日の恒例の施政方針演説を行い、段階的な減税実施を表明した。 |
| 07. 29 | キューバ | カストロ議長がカリブ海3ヶ国歴訪に出発(ジャマイカ、バルバドス、グレナダ)。域内協力強化等を話し合う。 |
| 07. 31 | チリ | ガルシア(Alvaro García Hurtado)経済相ら主要5閣僚がフレイ(Eduardo Frei)大統領に辞表を提出。 |
| 08. 01 | ボリビア | 首都スクレ近郊のカルオルコ石灰岩採掘場で、恐竜の足跡の化石が多数発見された。スイス人研究者が率いる国際調査隊が確認。 |
| 08. 02 | ペルー | 1991年、国連によって世界遺産に指定されていたリマ市立劇場で火災が発生、かなりの部分を消失した。出火原因は電気のショートか。 |

| | | |
|-------|----------------|--|
| 08.06 | チリ | 生涯に57人もの子供を産み、世界一多産の女性としてギネスブックにも掲載されているチリ人レオンティナ・エスピノサ(Leontina Espinosa)さんが糖尿病のため死去。享年73歳。 |
| 08.07 | コロンビア | バストラーナ新大統領の就任式が行われた。 |
| 08.07 | ペルー | フジモリ大統領と対立していたリエストラ首相が辞表を提出、受理された。 |
| 08.10 | エクアドル | ハミル・マウ新大統領の就任式が行われた。 |
| 08.11 | セントクリストファー・ネビス | ネビス島で行われた分離独立の是非を問う住民投票が実施された。結果は賛成62%で、独立決定に必要な3分の2に達しなかった。 |
| 08.13 | ペルー エクアドル | 1995年に国境紛争から武力衝突したエクアドルとペルーが、国境に新たに非武装中立地帯を設け、双方の部隊を引き離すことで合意した。 |
| 08.15 | パラグアイ | ラウル・クーバス新大統領の就任式典が行われた。 |
| 08.16 | コロンビア | 北西部ウラバ地方のジャングルで軍と左翼ゲリラのコロンビア革命軍(FARC)が衝突、軍側の40人が死亡、130人以上が行方不明になった。 |
| 08.20 | ペルー | フジモリ大統領は、陸海空の3軍を束ねるエルモサ(Nicolás de Bari Hermoza Ríos)統合参謀本部議長を解任、後任にサウセド(César Saucedo Sánchez)国防相を任命した。 |
| 08.20 | メキシコ | 国連差別防止・マイノリティ保護小委員会がメキシコ政府に対して国内人権状況を改善し、チアパス交渉を再開するよう求める決議案を採択した。 |
| 08.21 | ペルー | フジモリ大統領は辞任したりエストラ首相の後任にバンドルフィ前首相を任命した。 |
| 08.21 | 中南米 ベネズエラ | ベネズエラが通貨ボリバルを切り下げるとの噂から、中南米各国の通貨・株式が急落。株式はその後も続落した。 |
| 08.25 | キューバ | 米司法省が、米自治領プエルトリコの連邦大陪審がキューバのカストロ国家評議会議長の暗殺を企てたとしてキューバ系米国人7人を殺人未遂などの罪で起訴したと発表。 |
| 08.27 | ベリーズ | 下院議員選挙が行われ、中道左派の野党「人民統一党」が圧勝した。 |
| 08.27 | ペルー | 国会はフジモリ大統領の3選出馬の是非を問う国民投票の実施を求めた野党案を、与党による反対多数で退けた。 |
| 08.28 | メキシコ | 米政府が戦略原油備蓄として保有していたメキシコ産マヤ原油を返還、ペメックスが保有していた軽質油と等価交換することになった。 |

| | | |
|-------|---------------|--|
| 08.29 | キューバ エクアドル | 首都キトの国際空港で、乗客乗員90名を乗せたキューバ航空機が離陸に失敗し墜落。82名が死亡。 |
| 08.30 | パナマ | バジャダレス(Ernesto Pérez Balladares)大統領の再選出馬の可否をめぐる国民投票が行われ、反対票が圧倒的多数を占め、次期大統領選に出馬する道は閉ざされた。 |
| 08.31 | 中南米 | ニューヨーク株式市場での株価急落に伴い、中南米諸国の株価が急落。ブラジル・サンパウロ市場が先週末比4.06%安、メキシコ5.14%安、チリ4.27%安などとなった。 |
| 09.02 | コロンビア | 中央銀行は、通貨ペソの対ドル為替変動幅を9%、ペソ安の方向に移すことを発表した。 |
| 09.03 | ベネズエラ ブラジル | 米の大手格付け会社ムーディーズが、ブラジルとベネズエラの外貨建て債権の格付けの上限をいずれもB1からB2に、外貨建て預金の格付けの上限をいずれもB2からCaa1に引き下げたと発表。 |
| 09.04 | 中南米 パナマ | 第12回リオ・グループ首脳会合がパナマで開催された。翌日の5日、国際通貨基金などの国際機関が必要な措置を直ちに求める宣言を採択した。 |
| 09.06 | ブラジル | サンパウロ近郊オザスコ市にある新興宗教（神の王国・世界教会）の教会で屋根が崩落、集まっていた約1500人のうち、22人が死亡、約500人が重軽傷を負った。 |
| 09.08 | ブラジル | 世界的な経済混乱で動揺している同国通貨レアルを安定させるため、1998年度予算の政府支出を40億レアル削減することなどを盛り込んだ緊縮財政措置を政府が発表。 |
| 09.08 | ブラジル | サンパウロ近郊の高速道路で、カトリックの巡礼者102人を乗せた観光バス2台がタンクローリー車と衝突し炎上、少なくとも53人が死亡した。 |
| 09.09 | ペルー | サラサル(Julio Salazar Monroe)国防相が8月末に実施した中部ジャングル地方におけるテロ組織討伐作戦で、トゥパク・アマル革命運動のメンバー9名を逮捕し、武器を押収したと発表。 |
| 09.10 | ブラジル | 中央銀行が、株価急落による金融市場の混乱を回避するため、銀行支援金利を現行の年29.75%から年49.75%に引き上げると発表した。 |
| 09.10 | メキシコ | 中央銀行が通貨ペソの続落に対して、1995年の通貨危機以来の大規模介入を実施。 |
| 09.11 | コロンビア | バストラーナ大統領は、政府代表と左翼ゲリラのコロンビア革命軍が接触し、政府軍が南部5地区から撤退することで合意したと発表。 |
| 09.11 | チリ | 首都サンティアゴで左翼政党支持者と警官隊が衝突、47人が拘束され、多数の負傷者が出た。 |

| | | |
|-------|-------------------------|---|
| 09.15 | メキシコ | 南部チアパス州一帯を襲った集中豪雨で洪水が起き、400人以上の住民が死亡したと発表。 |
| 09.15 | 中南米 | 先進7カ国(G7)蔵相・中央銀行総裁の緊急声明を受けて、中南米向けに国際的な資金支援が行われるとの噂から、中南米各国の株価が急騰、主要株価指数が軒並み上昇した。 |
| 09.17 | ブラジル | ブラジルを始めとする中南米諸国の株価が下落、特にブラジルでは前日比10%を越す下げ幅を記録、一時取引停止となった。 |
| 09.24 | カリブ地域 ドミニカ共和国 ハイチ | 20日からカリブ海の島々を襲撃してきたハリケーン「ジョージズ」による死者が108名に達したと発表。ハイチ、ドミニカ共和国、キューバなど5カ国に被害をもたらした。 |
| 09.24 | コスタリカ | ニューヨークでコスタリカのロハス(Roberto Rojas López)外相と、中国の唐家璇外相が会談、全面的な協力関係の確立について話し合った。 |
| 09.24 | パナマ | 1999年末のパナマ運河返還後、米軍が運河返還後も駐留する問題で、両国代表による交渉が決裂。返還後の米軍駐留の可能性は極めて低くなった。 |
| 09.30 | ペルー | 首都リマで、少なくとも300人の労働者が雇用拡大と大統領の3選反対を主張して、大統領府に押し掛け中庭に突入、治安部隊と衝突した。労働者10数人が負傷、20人が逮捕された。 |
| 09.30 | 中南米 | ニューヨーク株式市場の急落を受けて、中南米諸国の株価が急落した。 |
| 10.01 | エクアドル | ガラバゴス諸島最大の島、イサベラ島で火山が噴火、ゾウガメの生息地に近づいたため、ヘリコプターによる救出が開始された。 |
| 10.01 | エクアドル | 政府が発表した緊縮財政政策に反対するストおよび治安部隊との衝突によって計4人が死亡。 |
| 10.03 | ウルグアイ | バタージャ(Hugo Batalla)副大統領が死去。 |
| 10.03 | ペルー | フェレロ外相が辞意を表明。エクアドルとペルーの国境をめぐる和平協定で、両国首脳が直接交渉を始めたことに反発したと思われる。 |
| 10.04 | ブラジル | 大統領選挙で現職のカルドーソ（ブラジル社会民主党）が再選された。 |
| 10.05 | コロンビア ベネズエラ | 第18回コロンビア・ベネズエラ国境問題委員会がコロンビアで開催され、両国流域を流れる国際河川の汚染を含む環境問題などにつき協議した。 |
| 10.09 | ペルー エクアドル | 米国のホワイトハウスでクリントン米大統領、フジモリ・ペルー大統領、マワ・エクアドル大統領の3者会談が開かれ、ペルー・エクアドル間の国境紛争の調停が始まった。 |

| | | |
|--------|--------------|--|
| 10. 11 | ペルー | 統一地方選挙実施。リマ市長選挙では次期大統領候補のアンドラーデ(Alberto Andrade)現市長が再選された。 |
| 10. 12 | ペルー | フジモリ大統領は辞任したフェレロ前外相の後任としてフェルナンド・デ・トラセニ(Fernando De Trazegnies)氏を指名。 |
| 10. 14 | キューバ | 国連総会で、対キューバ制裁強化法（ヘルムズ・バートン法）など、米国の対キューバ制裁の措置の解除を求める決議案を採択。この決議の採択は7年連続。 |
| 10. 16 | チリ | 治療のためロンドンに滞在していたピノチェト元大統領が、英警察に「政権担当時代にスペイン国籍の市民を殺害した」容疑で逮捕。スペイン司法当局から英国に出されていた犯罪者引き渡し要請に基づいたもの。 |
| 10. 18 | コロンビア | 北部アンティオキア州セゴビア近郊で同国最大規模の原油パイプラインが爆発・炎上、30人以上が死亡し、100人以上が負傷した。警察当局は民族解放軍(ELN)による破壊工作の疑いがあると発表。 |
| 10. 18 | 中南米 | 第8回イペロアメリカ・サミットがポルトガルで開催された。中南米諸国が先進国に金融策を要請。 |
| 10. 22 | アルゼンチン チリ | メネム大統領は、チリ政府によるピノチェト終身上院議員の釈放要求への全面的支持を表明。 |
| 10. 23 | アルゼンチン | メネム大統領が英国の大衆紙サンにフォークランド紛争に対する後悔の念を国家元首として初めて表した文章を寄せた。 |
| 10. 26 | エクアドル ペルー | ペルーとエクアドルが、米国・ブラジルなどで構成された国境線確定に関する調停案に調印。約半世紀にわたる国境紛争に決着がついた。 |
| 10. 27 | アルゼンチン | メネム大統領が、1982年のフォークランド紛争以来初めて英国を訪問。 |
| 10. 28 | チリ | 英ロンドンの高等法院がピノチェト元大統領の免責特権を認め、逮捕は違法と判断。30日に条件付きで保釈が認められた。 |
| 11. 01 | コロンビア | 東南部の小都市ミトゥで、左翼ゲリラ組織コロンビア革命軍(FARC)と政府軍が衝突、警官ら150人が死亡した。 |
| 11. 01 | ニカラグア | 中米諸国を横断したハリケーン・ミッチを原因として、ホンデュラス国境付近のカシタ火山のすそ野で大規模な地滑りが発生、住民が多数生き埋めになった。このハリケーン災害による死者は7000人を越えると推計される。 |
| 11. 02 | アルゼンチン | 地球温暖化防止に向けた気候変動枠組み条約の第4回締約国会議が首都ブエノスアイレスで開催。13日まで先進各国の温室効果ガス排出削減目標の達成などが議論された。 |
| 11. 02 | チリ | ピノチェト政権時代にチリで3人のフランス人が行方不明になった事件について、フランスの予審判事は、英司法当局に監禁と拷問の容疑でピノチェト元大統領の引き渡しを申請した。 |

| | | |
|--------|-------------------|---|
| 11. 05 | キューバ | 米国マイアミのキューバ人組織が、カストロ議長ら4人をスペイン全国管区裁判所に対して、虐殺、拷問、テロ等の容疑で告訴した。19日スペインの司法当局によって却下。 |
| 11. 05 | 中南米 キューバ | 中南米共同市場の結成を目指す中南米統合連合(ALADI)の外相理事会が行われ、6日のウルグアイのモンテビデオで行われた閣僚会議ではキューバを12番目の加盟国とすることを全会一致で決めた。 |
| 11. 06 | チリ | ピノチェト元大統領の身柄引き渡し要求書をスペイン政府が承認したことに対し、インスルサ(José Miguel Insulza)外相が駐スペイン大使を召還すると発表。 |
| 11. 07 | キューバ 中南米 | 中南米統合連合は7日までにキューバを正式なメンバーに加えることを決めた。 |
| 11. 09 | ホンデュラス エルサルバドル | ハリケーンで被害を受けたホンデュラス等中米4カ国の首脳会議がエルサルバドルで開催、今後の対応策につき協議した。 |
| 11. 09 | メキシコ | EU-メキシコ自由貿易地域の設定に関する協議がメキシコ市で開始された。 |
| 11. 10 | コロンビア | 北米マイアミ近郊のフォートローダーデール国際空港で、コロンビア空軍輸送機からコカイン700キログラムを発見、サンドバル(José Manuel Sandoval)空軍司令官が解任された。 |
| 11. 14 | メキシコ | 石油収入の落ち込みを背景に、政府が増税・ガソリンや電気料金の値上げなどを骨子とした緊縮型の予算案を発表。市民生活に大きな影響。 |
| 11. 17 | アルゼンチン | 中部パタゴニア山地のネウケン地方で大型草食恐竜ティタノサウルスのものとみられる数千個の卵の化石と、卵の中にあつた恐竜の骨や皮膚の化石を発見。 |
| 11. 19 | 南米 ウルグアイ | メルコスール・アンデス共同体の優遇関税交渉がウルグアイのメルコスール本部で行われた。 |
| 11. 21 | メキシコ | チアパス州でゲリラ側のサパティスタ民族解放軍と政府による和平交渉が1年10ヶ月ぶりに行われることが発表された。 |
| 11. 23 | ブラジル | ブラジルのデ・バロス通信相(Luis Carlos Mendonça de Barros)が国営電話会社の民営化に絡む疑惑で辞任。 |
| 11. 25 | チリ | 英国上院の司法委員会が、10月28日の高等法院の判決を覆し、ピノチェト元チリ大統領の免責特権を認めず、逮捕が有効であるとの判断を下した。 |
| 11. 26 | ボリビア | 下院がピノチェト軍事政権時代に起きたボリビア人の殺害についても刑事訴追するようスペインに求めることを決議した。 |
| 11. 29 | メキシコ | メキシコ市南東70キロにある活火山ポポカテペトル山が噴火。 |

| | | |
|--------|-------------------------------|--|
| 12. 01 | ブラジル | 第19回トヨタカップで、南米代表ブラジルのバスコ・ダ・ガマがヨーロッパ代表レアル・マドリードに敗北。惜しくも世界一を逃す。 |
| 12. 01 | ホンデュラス | 政府は、今年10月末のハリケーン「ミッチ」により、死者5657人、行方不明者8058人、負傷者12272人、140万人が家を失ったと発表。これにより中米全体のハリケーンによる死者は9071人となった。 |
| 12. 02 | ブラジル | 国際通貨基金(IMF)の理事会は、総額181億ドルのブラジル支援融資を承認、そのうち53億ドルの融資実行を決定した。 |
| 12. 03 | ブラジル | サンパウロ市場のボブスバ株価指数が前日終値比742ポイント安の7706に急落。下げ率は8.8%。 |
| 12. 06 | ベネズエラ | 大統領選で、1992年にクーデター未遂事件を起こしたウーゴ・チャベス(Hugo Chávez Frías)元陸軍中佐が当選。 |
| 12. 08 | アルゼンチン | スイスのジュネーブ州司法当局は、スイスとチリの二重国籍を持つ学生がブエノスアイレスで行方不明になった件に関与した疑いで、ビデラ元アルゼンチン大統領に対して国際逮捕状を出した。 |
| 12. 09 | 南米 ブラジル | メルコスール首脳会議がリオデジャネイロで開催された。 |
| 12. 10 | カリブ地域 中南米 | 国連ラ米・カリブ経済委員会(ECLAC)は、98年のALADI加盟国への直接投資の流入が前年比でほぼ横ばいになるとの見込みを発表した。 |
| 12. 10 | ニカラグア ブラジル パナマ グアテマラ | ニカラグア政府は、米国や英国のたばこメーカーなど11社を相手どり、たばこ被害に対する賠償請求を提出。すぐにグアテマラ、パナマも同様の訴訟を起こし、ブラジルも訴訟の意向を明らかにした。 |
| 12. 13 | カリブ地域 | 米自治領プエルトリコで、米国の51番目の州昇格への是非を問う住民投票が行われ、米自治領の地位継続を求める現状維持が多数を占めた。 |
| 12. 15 | チリ | 上院がピノチェト元大統領の引き渡しを要請したスペイン政府を非難する決議を賛成多数で可決。 |
| 12. 15 | 南米 ベネズエラ | パソコン通信の世界最大手アメリカ・オンライン(AOL)が南米でのオンラインサービス事業を開始すると発表。ベネズエラのメディア企業との合弁で1年以内に電子メールなどのサービスを提供する。 |
| 12. 16 | チリ アルゼンチン | アルゼンチンとチリは両国間で懸案になっていた南部パタゴニア氷河地域の国境確定で合意。 |

| | | |
|--------|--------|---|
| 12. 17 | チリ | 英国上院議会はピノチェト元大統領の逮捕に関して、11月25日の決定に問題があったとし決定を破棄、再審理することを決めた。 |
| 12. 18 | ペルー | フジモリ大統領は、赦免特別委員会の提案に従い、収監中の70名の服役囚を赦免した。 |
| 12. 18 | メキシコ | メキシコで「国民の意識化のための愛国的コマンド」を自称する軍関係者約50名が軍内部の不正や政府の経済政策等に抗議するデモを行った。 |
| 12. 23 | キューバ | 米務省が、国連代表部に勤める3人のキューバ外交官に対して、「国連代表部の本来の業務とは相反する行為に加担した」ことを理由として、12月末までに米国から離れるよう通告した。 |
| 12. 23 | ブラジル | カルドーゾ大統領は、99年1月に発足する第2期政権の新閣僚を発表した。 |
| 12. 24 | キューバ | 本年度から30年ぶりにクリスマスが休日となり、さまざまな催しが行われた。キリスト教会を率いるオルテガ(Jaime Ortega) 枢機卿がラジオでメッセージを伝えた。 |
| 12. 29 | アルゼンチン | アルゼンチン下院はアルゼンチン・チリ両国外相による大陸氷床地区をめぐる新たな国境確定合意を承認した。 |

(以上210項目)

参考文献

- (1) 『朝日新聞縮刷版』『日本経済新聞縮刷版』（1998年各月号）。
- (2) 日経ニュース・テレコム。
- (3) イベロアメリカ研究所新聞切抜き（1998年）。
- (4) 「ラ米における主なできごと」『ラテン・アメリカ時報』1998年2月-1999年1月
- (5) *Latin American Weekly Report*, 6 Jan. 1998~5 Jan. 1999. Latin American Newsletters Ltd., London.
- (6) 『国際問題』（1998年3月号-1999年2月号）

Sophia-R

Sophia University Repository for Academic Resources

| | |
|--------------|---|
| Title | 〈資料〉 ラテンアメリカ日誌 —1999年— |
| Author(s) | |
| Journal | イベロアメリカ研究, 22(1) |
| Issue Date | 2000-08-03 |
| Type | 紀要/Departmental Bulletin Paper |
| Text Version | 出版者/Publisher |
| URL | http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/9476 |
| Rights | |



上智大学
Sophia University

<http://www.sophia.ac.jp>

《資料》

ラテンアメリカ日誌－1999年－

| 月 日 | 国名 | 記事 |
|---------|-------|---|
| 01 . 01 | キューバ | 東部サンティアゴ・デ・クーバで、革命勝利40周年記念式典が行われた。1時間40分に及ぶ演説の中でカストロ(Fidel Castro Ruz)国家評議会議長は新自由主義による経済の地球化が革命への脅威になっていると指摘した。 |
| 01 . 01 | ブラジル | 前年10月の選挙で再選されたカルドゾ(Fernando Henrique Cardoso)大統領が首都ブラジリアの国会で就任式を行った。 |
| 01 . 03 | ペルー | フジモリ(Alberto Fujimori Fujimori)大統領が、ビクトル・ホイワイ(Víctor Joy Way)国会議長を新首相に任命。 |
| 01 . 05 | キューバ | クリントン(Bill Clinton)米大統領が、キューバに対する直接郵便サービスと米市民による送金許可や人的交流促進などを柱とする新たな制裁緩和措置を発表。 |
| 01 . 06 | ブラジル | イタマル・フランコ(Itamar Franco)ミナスジェライス州知事が、資金不足を理由に中央政府への債務支払いを90日間停止すると発表。 |
| 01 . 07 | コロンビア | 右翼民兵組織が全国の左翼ゲリラシンパを狙って攻撃、10日までに約130人が死亡した。7日からスタートした政府とコロンビア革命軍(FARC)の和平交渉にも影響か。 |
| 01 . 07 | ブラジル | 世界銀行がブラジルに対して貧困家庭向けの歳出補助など2件、計11億1千万ドルの融資を承認した。 |
| 01 . 07 | コロンビア | パストラーナ(Andrés Pastrana Arango)大統領とコロンビア革命軍(FARC)との和平実現に向けた対話が、南部サンビセンテデルカグアン市で始まった。しかしゲリラ側の最高幹部は出席しなかった。 |
| 01 . 09 | ペルー | フアン・シプリアニ(Juan Luis Cipriani)大司教が、ローマ法王庁により、国内最高位となるリマ大司教区の司教に選任された。 |
| 01 . 11 | ペルー | フジモリ大統領は、フランシスコ・トゥデラ(Francisco Tudela)元外相を国連大使に任命。 |
| 01 . 13 | ブラジル | 中銀が通貨レアルの7.5%切り下げを実施、同じ日にレアル防衛を最優先してきたグスタボ・フランコ(Gustavo Franco)中銀総裁が辞任。高金利・緊縮の矛盾が顕在、ブラジル経済に対する悲観的な見方が強まり、世界経済に影響した。 |
| 01 . 15 | ブラジル | 中央銀行が外国為替に介入せず、13日の変動幅を撤回すると発表。これによりブラジルは事実上変動相場制に移行した。18日に正式に変動相場制への移行が発表された。 |

| | | |
|-------|---------|---|
| 01・16 | キューバ | 米大リーグのボルティモア・オリオールズの代表団がハバナ入りし、キューバのスポーツ当局者と会合を行った。親善試合について話し合われた模様。 |
| 01・16 | エルサルバドル | 1992年の和平合意成立の7周年を祝う式典が行われた。 |
| 01・18 | チリ | ピノチェト(Augusto Pinochet)元大統領逮捕の合法性を巡り、英国の最高司法府である上院で再審理が開始された。 |
| 01・20 | アルゼンチン | 司法当局は、軍事政権時代に拉致・殺害した左翼活動家の子供たちを違法に軍人の養子としていた事件に関連し、レイナルド・ビニョーネ(Reynaldo Bignone)元大統領を誘拐と公文書偽造ほう助の疑いで逮捕した。 |
| 01・20 | バルバドス | 下院議員選挙が行われ、与党のバルバドス労働党が28議席中26議席を獲得した。 |
| 01・21 | メキシコ | カルロス・サリナス(Carlos Salinas de Gortari)前大統領の実兄ラウル・サリナス(Raúl Salinas de Gortari)被告が、暗殺事件を指示した件で、トルーカ地方裁判所は、禁固50年の実刑判決を言い渡した。 |
| 01・21 | アルゼンチン | 中央銀行が、ペソを放棄してドルを通貨とする通貨条約の締結を米国に提案した。 |
| 01・22 | メキシコ | ローマ法王ヨハネ・パウロⅡ世(Papa Juan Pablo II)が、最初の訪問国メキシコに到着。法王のメキシコ訪問は5年5カ月ぶり4度目。 |
| 01・22 | アルゼンチン | 3月28日に予定されていたF1シリーズのアルゼンチン・グランプリが、財政的な理由から中止されることがスポーツ省から発表された。 |
| 01・25 | コロンビア | 西部のキンディオ県、リサルダ県を中心にマグニチュード6.0の大規模な地震が発生。1000人近くが死亡、約3000人が負傷した。地震直後から各国赤十字などの救援活動が始まったが、暴徒化した住民による商店略奪なども目立った。 |
| 01・26 | ブラジル | 上院で、財政調整計画の柱となる公務員年金の掛け金増額法案が可決された。 |
| 01・27 | ベネズエラ | 政府が、フィリップ・モリスなど米国のたばこ会社18社を相手取り、国民が喫煙で被った健康被害の賠償を求める訴訟を米フロリダ州の裁判所に起こした。中南米諸国による同様の提訴としては5件目。 |
| 01・27 | ベネズエラ | チャベス(Hugo Chavez Frías)次期大統領が米国を訪問、クリントン大統領と会談した。 |
| 01・28 | チリ | チリ・オリンピック委員会の理事会において、ソルトレークシティー五輪招致に絡む不正疑惑で国際オリンピック委員会から追放処分を受けたセルヒオ・サンタンデル(Sergio Santander)チリ五輪委会長の資格を一時停止した。 |
| 01・28 | ブラジル | 世界銀行が、ミナスジェライス州およびリオ・グランデ・ド・スール州に対する現行融資案件について60日間の融資停止を決定した。 |
| 02・02 | ベネズエラ | 前年12月の選挙で当選したチャベス新大統領が正式に就任。 |
| 02・02 | ブラジル | 財務省は、1月13日に就任したフランシスコ・ロペス(Francisco Lopes)中央銀行総裁を解任、後任に著名なエコノミストであるアルミニオ・フラガ(Arminio Fraga Neto)氏を指名すると発表。26日正式に就任が認められた。 |
| 02・04 | ブラジル | ペドロ・マラン(Pedro Sampaio Malan)蔵相が、国際通貨基金代表団との間で、財政再建計画の前倒し実施に合意した。 |

| | | |
|-------|------------------------|---|
| 02・06 | ニカラグア | 米大リーグで通算22年を過ごしたデニス・マルティネス(Denis Martinez)投手が母国ニカラグアで引退を表明。 |
| 02・08 | アルゼンチン キューバ メキシコ | キューバ革命の英雄、エルネスト・チェ・ゲバラ(Ernesto Che Guevara)が1955年にメキシコで結婚した際の結婚証明書が盗まれたことが明らかになった。この証明書はテボツオトラン市役所に保管してあったもの。 |
| 02・09 | 南米 | ボリビア東部からブラジル南部へのびる世界最長の天然ガスのパイプラインが完成、開通式が行われた。 |
| 02・10 | ブラジル | ミナスジェライス州が発行し返済期限を迎えた1億8000万ドルの外債が、連邦政府の約半額の肩代わりを受けて、全額返済された。前月の国際的な対ブラジル信用不安への対応と考えられる。 |
| 02・11 | ブラジル | 北部アマゾン川支流のマデイラ川で、乗客ら約150人を乗せた客船が転覆、少なくとも8人が死亡、数十人が行方不明となった。 |
| 02・12 | エクアドル | 中央銀行が通貨スクレの変動相場制移向を発表。 |
| 02・12 | アルゼンチン ブラジル | サンパウロ郊外でアルゼンチン・ブラジル首脳会談が行われ、ブラジルからアルゼンチンへの輸出品に対する一部輸出補助金を廃止することで合意した。 |
| 02・13 | ブラジル | 恒例のカーニバルが国内各地で幕開け。リオでは通貨レアル安が手伝って観光収入が大幅に増えた。 |
| 02・14 | ブラジル | 政府が1999年度予算で新たに30億レアル(約15億8000万ドル)の歳出削減を近く発表することが判明。 |
| 02・14 | メキシコ | メキシコ市でメキシコ・米国首脳会談が行われた(-15日)。メキシコ向けの40億ドルの信用供与、麻薬取引の撲滅、航空自由化など幅広い項目で合意した。 |
| 02・15 | アルゼンチン | 首都ブエノスアイレス中心部で、変電所の火災を原因とする大規模な停電が発生(-25日)。 |
| 02・17 | エクアドル | 首都キトで、左派野党・人民民主運動の有力議員ハイメ・ウルタド(Jaime Hurtado González)氏が3人組に射殺された。 |
| 02・17 | コロンビア | 米国への密航を企てたコロンビア人3人が、乗組員に見つかり海に突き落とされたが、このうち2人がイルカの群れに囲まれサメから守られて3日間漂流した後、漁船に救助された。 |
| 02・17 | メキシコ | サッカーの代表選手で世界的にも有名なホルヘ・カンポス(Jorge Campos)選手の父、アルバロ・カンポス(Alvaro Campos)氏がアカプルコで武装集団に誘拐され、23日に無事解放された。身代金が支払われたかどうかはわかっていない。 |
| 02・17 | 南米 | 赤十字国際委員会が、第二次大戦直後に南米に逃亡したナチスのうち、少なくとも10人が同委員会発行の旅行許可証を使用したとの声明を出した。 |
| 02・20 | ブラジル | 国会下院で、財政再建の柱となる公務員の年金改革法案が可決された。 |
| 02・20 | ブラジル | 二十代の息子から五十代の父親に、肝臓・腎臓同時移植手術が成功したと発表。生体間の成功例は初めて。 |
| 02・21 | ブラジル | リオデジャネイロで南米南部共同市場(メルコスル)と欧州連合(EU)の経済人フォーラムが開催され、その席上カルドーズ大統領はEUに対しメルコスル向け関税の引き下げなどを求めた。 |

| | | |
|-------|---------|--|
| 02・22 | 南米 | 南米南部共同市場(メルコスル)の各大統領がリオデジャネイロに集まり、首脳会議を開いた。 |
| 02・24 | コロンビア | カルタヘーナで開催されていた国連の生物多様性条約特別締結国会議が、規制のためのバイオ安全議定書の採択見送りを決めて閉幕。採択に反対したのは米国、アルゼンチンなど6ヶ国。 |
| 02・25 | ベネズエラ | チャベス大統領がカラカス大学球場で、シカゴ・カブスのサミー・ソーサ(Sammy Sosa)と野球で対決した。大統領は40球を投げ、ソーサはそのうち4球を観客席に運んだ。 |
| 02・25 | キューバ | 電話公社エテクサが、米大手電話会社5社が回線使用料を滞納しているとして、午前零時過ぎからこれら電話会社の米・キューバ間通話サービスを停止した。滞納額は合計で約23億円。 |
| 02・25 | コロンビア | 北東部アラウカ州で、先住民の支援活動をしていた米国人3人が誘拐された。 |
| 02・26 | パナマ | パナマ出身で米国で活躍した演出家・映画監督ホセ・キンテロ(José Quintero)氏がニューヨークで死去。享年74歳。 |
| 02・27 | キューバ | 治安当局が、反体制活動家10人前後を拘束。2年前に逮捕された活動家の初公判に際して混乱を避けるため逮捕に踏み切ったものとみられる。 |
| 02・28 | メキシコ | 北西部ソノラ州のカリフォルニア湾にあるサンホルヘ島近くで、アザラシ約180頭の死骸が発見されていたことが判明。夜間の麻薬密売の目印に使う化学物質が原因という見方も出ている。 |
| 03・04 | パナマ | 米フロリダ州の連邦地裁は、服役中のマヌエル・ノリエガ(Manuel Noriega)元将軍の刑期を10年縮小、禁固30年に減刑することを決定。在任中の功績が理由。 |
| 03・04 | メキシコ | 制度的革命党(PRI)の「不敗」70周年を祝う集会が開かれた。その場でセディージョ(Ernesto Zedillo Ponce de León)大統領は次期大統領の後継指名をせず、公正な予備選挙で候補を決めると発表した。 |
| 03・07 | エルサルバドル | 任期満了に伴う大統領選の投票が行われ、フランシスコ・フローレス(Francisco Flores)氏が当選、6月1日に就任した。 |
| 03・08 | 中南米 | 米クリントン大統領が前年秋にハリケーンの被害を受けた中米諸国の歴訪を開始。各国首脳と意見を交わした。 |
| 03・08 | アルゼンチン | アルゼンチンを代表する小説家の一人、アドルフォ・ビオイ・カサレス(Adolfo Bioy Casares)氏がブエノスアイレスで死去。享年84歳。 |
| 03・08 | キューバ | 97年にハバナの高級ホテルで起きた連続爆弾事件の犯人であるエルサルバドル人、ラウル・エルネスト・クルス(Raúl Ernesto Cruz)被告の初公判が開かれ、全面的に犯行を認めた。 |
| 03・09 | アルゼンチン | チャールズ英皇太子(Prince Charles)がアルゼンチンを公式訪問。昨年10月にアルゼンチンのメネム(Carlos Saúl Menem)大統領が英国を公式訪問したことへの返礼。 |
| 03・09 | エクアドル | 政府の緊縮対策に反対する労組のゼネストに対抗措置として、ジャミル・マワ(Jamil Mahua Witt)大統領が全土に非常事態を宣言。翌日からゼネストは予定通り行われ、緊張が高まった。 |

| | | |
|-------|-----------------|---|
| 03・10 | エクアドル | 著名な画家オスワルド・グアヤサミン(Oswaldo Guayasamin)が、滞在先の米国ボルティモアで心臓発作のため死去。貧困層に目を向けた社会派の作風の絵画・壁画で知られた。 |
| 03・10 | ブラジル | 下院は、通貨危機を回避するための財政安定化計画の一環として小切手税の増税法案を賛成多数で承認した。 |
| 03・11 | グアテマラ | クリントン米大統領が中米4カ国を歴訪。グアテマラ市で中米各国首脳と会談、北米自由貿易協定と同様の制度を中米諸国にも設けるよう要請された。 |
| 03・15 | ハイチ | 13人を乗せた国連のヘリコプターが行方不明となった後、首都ポルトープランスの北東約80キロの山中で墜落しているのが発見された。 |
| 03・15 | キューバ | ハバナ地方裁判所は、扇動罪に問われていた代表的な反体制活動家4人に対し、禁固5年から3年半の判決を言い渡した。 |
| 03・17 | コロンビア | トラック運転手等の組合が賃上げを求めストライキを開始。長期化したため、コーヒーの輸送手段がマヒ、コーヒーの国際価格も上昇した。 |
| 03・19 | メキシコ | 現代人の生活をリアルに描いた作品で知られる詩人、ハイメ・サビネス(Jaime Sabines)氏がメキシコ市の自宅で死去。享年72歳。 |
| 03・19 | 中南米 メキシコ | メキシコ市で第13回リオ・グループ外相会議が行われた。 |
| 03・23 | パラグアイ | 首都アスンシオンでルイス MARIA・アルガーニャ(Luis María Argaña)副大統領が、軍服姿の男によって暗殺された。 |
| 03・24 | チリ | 英国の最高司法府である上院は、英警察当局がスペイン司法当局の要請に応じてピノチェト・チリ元大統領を逮捕した件に関し再審理を終了、逮捕適法決定を下した。 |
| 03・28 | パラグアイ | ラウル・クバス(Raúl Alberto Cubas Grau)大統領が辞任声明を発表。後任にはルイス・ゴンサレス(Luis González Macchi)国会議長が就任。反大統領派の副大統領の暗殺以後、情勢が緊迫していた。 |
| 03・28 | キューバ | 米大リーグのボルティモア・オリオールズとキューバ代表の親善試合が、ハバナのラテンアメリカ・スタジアムで行われた。キューバで米大リーグの試合が行われるのは40年ぶり。結果は3対2でオリオールズの勝ち。 |
| 03・29 | パラグアイ アルゼンチン | パラグアイ・コロラド党のオビエド(Lino César Oviedo)元陸軍司令官がアルゼンチンに逃亡、亡命を図ったが、運航計画を提出しなかった容疑でアルゼンチン当局に逮捕された。 |
| 03・30 | メキシコ | 制度的革命党(PRI)の全国評議会において、党内選挙が実施され、新党首にゴンサレス・フェルナンデス(José Antonio González Fernández)氏が選出された。 |
| 03・30 | メキシコ コロンビア | メキシコの大手銀行14行がコロンビアの麻薬資金洗浄(マネーロンダリング)に加担したとされる事件で、2つの有力行が関与を認め罰金を払うことを承諾。他の銀行も追従する見込み。 |
| 04・04 | メキシコ | 米大リーグの公式戦が開幕、パドレスとロッキーズの試合がメキシコのモンテレイで行われた。開幕戦が北米、カナダ以外で開催されるのは史上初。 |
| 04・06 | アルゼンチン | 北部のアンデス山脈の標高6700メートルにある遺跡で、米国などの科学者チームがインカ文明関連のものとしては最も保存状態のよい3体のミイラを発見。500年以上前のもので少女2体と少年1体と推測される。 |

| | | |
|-------|--------------|--|
| 04・06 | キューバ | 米報道官は、米国が受け入れを表明しているアルバニア系コソボ難民約2万人を、キューバ東部の米国租借地グアンタナモ海軍基地の敷地に収容する方針を明らかにした。キューバ側は反対している。 |
| 04・07 | ペルー | フジモリ・ペルー大統領立会いのもと、マルケス(Ricardo Márquez)ペルー副大統領とノボア(Álvaro Novoa)エクアドル副大統領との間で、98年10月にブラジルで署名された国境合意文書の批准書が交換された。 |
| 04・09 | チリ | ラウル・シルバ・エンリケス(Raúl Silva Enríquez)枢機卿が肺炎と腎不全のため死去。享年91歳。軍政期に平和委員会や連帯委員会を設置し、人権擁護に大きく貢献した。 |
| 04・12 | コロンビア | 北部サントアンデス県から首都ボゴタに向かっていたアビアンカ航空の旅客機が乗っ取られ、隣のポリバル県の私設滑走路に強制着陸させられた。乗客46人は武装グループによってジャングルの川づたいに連れ去られた。 |
| 04・12 | メキシコ | メキシコ市でメキシコとEUが自由貿易協定の締結に向けた交渉を行った(-13日)。 |
| 04・15 | チリ | ジャック・ストロー(Jack Straw)英内相が、軟禁中のピノチェト・チリ元大統領の身柄をスペイン当局に引き渡す審査の再開を決定した。 |
| 04・15 | ペルー | フジモリ大統領が内閣改造を実施、法相、国防相、大統領府長官らを変更した。 |
| 04・19 | ブラジル | 中央銀行は、通貨危機後初めて10億ドル規模の債券を国外で発行すると発表。 |
| 04・23 | キューバ | 国連人権委員会が「キューバ非難決議」を賛成21、反対20、棄権12で採択した。 |
| 04・23 | メキシコ | 南部チアパス州でトラックが山腹の道路から300メートル下まで転落、乗っていた46人が死亡、少なくとも10人が負傷した。 |
| 04・25 | ベネズエラ | 制憲会議開催を問う国民投票が行われ、賛成多数で可決された。 |
| 04・26 | ブラジル | 1月の通貨危機の際に一部の銀行に便宜を図った疑いでロベス前中央銀行総裁が証人として召喚されたが、拒否したので連邦警察に逮捕された。 |
| 04・27 | メキシコ ブラジル | メキシコのセディージョ大統領がブラジルを訪問、カルドーゾ大統領と会談、二国間関係の緊密化等について協議した。 |
| 04・29 | アルゼンチン | 南部パタゴニア地方のネウケン州で、これまで最大の肉食恐竜とされてきたギガトサウルスを上回る最大の肉食恐竜のものとみられる化石が発見された。 |
| 05・02 | コロンビア | アンドレス・バストラーナ大統領が、左翼ゲリラ組織コロンビア革命軍(FARC)のマヌエル・マルランダ(Manuel Marulanda Vélez)議長と会談、6日から和平交渉を正式に開始することで合意した。 |
| 05・03 | パナマ | 大統領選挙で野党アルヌルフィスタ党(PA)のミレヤ・モスコソ(Mireya Moscoso)候補が当選。モスコソ候補は故アリアス大統領の夫人で、パナマ史上初の女性大統領となった。9月1日正式に就任。 |
| 05・04 | キューバ | 米大リーグ、ボルティモア・オリオールズとの親善試合のため、キューバのナショナル・チームが訪米。試合後1人が米国への亡命を申請した。 |
| 05・05 | 南米 | 第5回メルコスール経済サミットがチリで開催された。 |

| | | |
|-------|----------------|--|
| 05・07 | ブラジル | リオデジャネイロの病院で、補助看護師が酸素マスクを外す手口で5人の重症患者を死亡させ逮捕された。「家族の苦悩を和らげるため」と動機を語ったが、葬儀社から報酬をもらっていた疑惑も浮上している。 |
| 05・14 | アルゼンチン ブラジル | ブラジル南部の4州知事とアルゼンチン東北部の7県知事が、ポルトアレグレで会合を行い、両国間の貿易をいっそう推進することで合意した。 |
| 05・16 | グアテマラ | マヤ系先住民の権利を認めること、軍の任務を国防に限ることなどを盛り込んだ憲法改正の是非を問う国民投票が行われ、改正案は大差で否決された。ゲリラ組織との和平プロセスに大きな影響が出ることが予想される。 |
| 05・18 | コスタリカ | 首都サンホセで行われていた、湿地の生態系保全を進めるためのラムサール条約第7回締結会議が、提出されていたすべての決議・勧告案を採択し終了した。 |
| 05・18 | ブラジル | 政府はインターネット上の児童ポルノの取り締まりのため、コンピューターシステムに侵入して不法行為を行うハッカーに捜査官役を依頼する方針を決めた。 |
| 05・18 | ブラジル | 軍政下の風刺をこめたテレビドラマの脚本や「サンタ・バルバラの誓い」として映画化された小説「誓いの支那人」の著者として知られるアレフレド・フレイトス・ディアス・ゴメス(Alfredo de Fleitas Dias Gomes)氏が死去。 |
| 05・19 | ブラジル | ジョゼ・セラ(José Serra)保健相は、世界保健機関の年次総会で行った演説の中で、嫌煙キャンペーンの一環として、米たばこ会社に対し400億から500億ドルの賠償請求を検討していることを発表。 |
| 05・19 | ブラジル | 中央銀行が指標的な政策金利である翌日物金利を27.0%から23.5%に引き下げることを発表した。 |
| 05・21 | アルゼンチン | ゴンサレス(Antonio Erman González)労相が多額の年金を受け取っているとの地元紙の報道を認め、辞任した。 |
| 05・26 | アルゼンチン | 国際通貨基金(IMF)は、アルゼンチンの99年度の財政赤字の上限を国内総生産(GNP)比1.5%まで緩めることを容認すると発表。 |
| 05・26 | メキシコ | 南部チアパス州のサバティスタ国民解放軍(EZLN)から8人が脱走し、当局側に武器を引き渡した。武器の代わりに彼らの出身地への援助が約束された。 |
| 05・26 | コロンビア | ジョレダ(Rodrigo Lloreda)国防相が、政府が進めている左翼ゲリラ、コロンビア革命軍(FARC)との対話で、ゲリラ側に譲歩しすぎだと批判、辞任した。 |
| 05・27 | ホンデュラス | ニューヨーク市内で、前年秋のハリケーンで母と兄弟を失い、父親を探してバスやヒッチハイクでニューヨークにたどりついたホンデュラスの少年が保護され話題となる。数日後マイアミの親戚からの通報で話の内容がすべて嘘であることが判明した。 |
| 05・27 | チリ | 英国高等法院は、ピノチェト弁護団が出したストロー英内相の2度目の引渡し手続き進行命令の見直し請求を棄却した。 |
| 05・28 | キューバ | カストロ国家評議会議長が、ロバイナ(Roberto Robaina)外相を解任、後任に個人秘書で人民権力全国会議議員のフェリペ・ペレス・ロケ(Felipe Pérez Roque)氏を任命した。 |
| 05・28 | 中南米 | リオ・グループの第13回首脳・外相会議がメキシコ市で開催された(-29日)。 |

| | | |
|-------|--------------|--|
| 05・30 | コロンビア | 中西部の都市カリで、教会のミサに集まっていた市民約100人が左翼ゲリラに誘拐された。地元治安当局によれば民族解放戦線(ELN)のメンバーによる犯行と見られる。 |
| 05・30 | カリブ地域 | 米自治領プエルトリコで、米軍機が訓練中に劣化ウラン弾を誤射し、大半が未回収であることが発覚した。 |
| 05・30 | ペルー | 米州人権裁判所が、94年にペルーの軍事裁判所がチリ国籍のMRTAメンバー4人に対して終身刑の判決を下したことにに関して、同判決を無効とし、通常裁判所における審理で再審するよう命じる判決を下した。6月3日にフジモリ大統領はこの判決を履行しないの方針を示した。 |
| 06・01 | ハイチ | 首都ポルトープランスのスラム街で、警察とマフィアグループとが撃ち合いになり、マフィア側の11人が死亡した。 |
| 06・01 | ブラジル | 上院で国防省の創設が承認された。この法案はすでに下院を通過しており、ようやく軍が明確に文民体制の下に置かれることとなった。 |
| 06・01 | キューバ | 政府系団体が、革命以降40年間に米国がキューバへの不当な攻撃で多大な被害をもたらしたとして、1811億ドルの賠償支払いを米国政府に求める訴えをハバナの裁判所に起こした。 |
| 06・03 | ペルー | 中部のワヌコ地方で、武装組織センデロ・ルミノソの部隊が市民や兵士を乗せたトラックを襲撃、銃撃戦となって6人が死亡した。 |
| 06・04 | トリニダード・トバゴ | 死刑が確定していた麻薬マフィアのリーダーら6人に対し、相次いで刑が執行された。死刑の執行は5年ぶり。 |
| 06・04 | ブラジル | リオデジャネイロで覆面姿の武装集団が酒場で銃を乱射、5人が死亡、22人が軽傷を負った。麻薬組織同士の縄張り争いが原因とみられる。 |
| 06・05 | コロンビア | 秘密警察である治安管理局は政府と左翼ゲリラの和解交渉を舞台裏で進めてきた、エクアドル在住のドイツ人、エミリオ・ステール(Emilio Sthele)司教を誘拐事件で違法な人質解放交渉に関わったとして、入国禁止処分にした。 |
| 06・06 | 中南米 グアテマラ | 米州機構(OAS)の第29回通常総会がグアテマラで開催された。 |
| 06・07 | メキシコ | バコの愛称で親しまれていたテレビ番組司会者フランシスコ・スタンレー(Francisco Stanley)氏がメキシコ市南部のタコス店の駐車場で射殺された。8月20日に逮捕された犯人は麻薬カルテルの一員で、麻薬組織への支払いを拒んだのが動機だったと供述。 |
| 06・07 | ブラジル | 米政府がブラジル政府との間で、熟延鋼板の対米輸出を自主規制する代わりに反ダンピング手続きを中断することで合意した。 |
| 06・07 | キューバ | カストロ国家評議会議長を批判する反体制活動家らがハンガーストライキに入った。内外からの政府批判を高めるのが狙い。7月16日に目標の40日間を迎え終了した。 |
| 06・08 | コロンビア | 中央銀行が、対ドルレートを9%切り下げるとともに為替変動幅の変更を発表した。 |
| 06・14 | グアテマラ | 首都グアテマラ市の北西約100キロにあるサカブラスのカトリック修道院跡地で、人権侵害調査の発掘作業を始めたところ、12人の遺体が見つかった。96年の内戦中の犠牲者と見られている。 |
| 06・15 | メキシコ | 南部オアハカ州でマグニチュード6.7の大地震が発生、少なくとも16人が死亡、約200人が負傷。 |

| | | |
|-------|---------|---|
| 06・15 | メキシコ | 国際通貨基金(IMF)が、メキシコに対して41億ドルの新規融資を行うことを明らかにした。 |
| 06・15 | ペルー | 武装組織センデロ・ルミノソの部隊が中部地方のアスルデマグダレナ村を襲い、治安当局に協力したとされる8人を処刑したと軍幹部が発表した。 |
| 06・17 | ブラジル | サンパウロ南部の州立初等学校で、同校の元男子生徒が武装した5人組から発砲を受け死亡した。麻薬代金を支払わなかったため組織に狙われたと考えられる。 |
| 06・18 | ボリビア | ナヤル(Guido Nayar)内相が、政府内部の汚職や業務の非効率を批判して辞任した。 |
| 06・20 | キューバ | 首都ハバナの革命広場で、革命後初のプロテスタントの野外礼拝が行われ、信者ら約5万人が参加した。政府要人も列席しており、プロテスタントの活動が公式に認知されたことを印象付けた。 |
| 06・20 | 南米 | 南米のコンピュータ2000年問題に関する会合が米州機構(OAS)本部で開催された。 |
| 06・21 | コロンビア | 北部コルドバ県で、左翼ゲリラコロンビア革命軍(FARC)が右翼民兵組織の本拠地や政府軍部隊を攻撃、約50人の死者を出した。 |
| 06・23 | ブラジル | 中部マトグROSSO州警察は、自宅敷地の地下から頭蓋骨16個などを発見したことを理由に、カンドンプレの呪術師、ジョゼ・アウグスト・ドス・サントス(José Augusto dos Santos)氏を殺害および死体遺棄などの容疑で逮捕した。 |
| 06・24 | エルサルバドル | 政府は24日から始まったイペロアメリカ首都都市経済発展委員会の会合に出席するキューバ・ハバナ市当局者にビザを発給することを決定。前年には有効都市協定調印のため訪れたハバナ市長の入国を認めていなかった。 |
| 06・28 | 中南米 | 欧州連合(EU)15カ国と中南米、カリブ海地域の23カ国による初の首脳会議がリオ・デ・ジャネイロで開催された。29日にはリオ・デ・ジャネイロ宣言を採択、全面的な貿易自由化を目指して11月に交渉を開始することで合意した。 |
| 06・28 | 南米 | 南米南部共同市場(メルコスル)4カ国および準加盟国のチリと、欧州連合(EU)との首脳会談が始まった。 |
| 06・29 | 南米 | 2年に1度開催されるサッカー南米選手権(コパ・アメリカ)がパラグアイの首都アスンシオンで開幕。 |
| 06・29 | 中南米 | リオデジャネイロで初の中南米と欧州連合(EU)48カ国による首脳会議が開催され、両地域間の関係強化をうたったリオデジャネイロ宣言を採択し閉幕した。 |
| 06・30 | チリ | チリ軍政時(1973-78年)に、米中央情報局(CIA)など米政府機関が本国向けに作成した公文書が公開された。 |
| 07・01 | チリ | 「逮捕・行方不明者家族の会」の会長などをつとめた人権活動家ソラ・シエラ(Sola Sierra)氏が心臓発作で死去。享年63歳。 |
| 07・01 | キューバ | 政府は欧州単一通貨のユーロ圏諸国との商取引で、ユーロの使用を義務付けた。米ドル依存経済からの脱却という狙いもあるとみられる。 |
| 07・01 | ジャマイカ | 首都キングストンで、レゲエの人気歌手デニス・ブラウン(Denis Brown)氏が死去。享年42歳。 |

| | | |
|-------|----------------|--|
| 07・04 | カリブ地域 | プエルトリコのビエケス島で、米軍機による誤射事件があった同島の米軍撤去を求める集会があり、5万人が集まった。 |
| 07・04 | メキシコ | メキシコ州、ナヤリ州で知事選が行われ、メキシコ州では制度的革命党(PRI)のアルトゥーロ・モンティエル(Arturo Montiel Rojas)候補が当選、ナヤリ州では野党連合のアントニオ・エチェバリア(Antonio Echevarría)候補が当選した。 |
| 07・05 | エクアドル | ガソリン値上げに抗議するタクシー労働者5万人によるストライキを封じるため、政府が非常事態宣言を出し、労働者176人が逮捕された。 |
| 07・08 | アルゼンチン | メネム大統領が、北大西洋条約機構(NATO)への準加盟を申請する書簡をクリントン米大統領とNATO本部に送付した。 |
| 07・08 | コロンビア | 首都サンタフェデボゴタ南方約25キロの山中で、左翼ゲリラコロンビア革命軍(FARC)が大攻勢をかけ戦闘となり、政府軍兵士やゲリラが死亡した。10日からは全国13県の警察署などを襲撃し、死者の総数は274人にのぼった。 |
| 07・08 | チリ | ピノチェト元大統領の裁判にかかる費用を、ピノチェト側と検察側の折半ないし、検察側の負担にすることを発表。 |
| 07・12 | アルゼンチン ブラジル | アルゼンチンの対外債務の支払い猶予観測が浮上したのを機にアルゼンチンやブラジルの株価が急落、市場が混乱した。しかし翌日には落ち着きを取り戻した。 |
| 07・14 | アルゼンチン | ロンドンで行われた英国とアルゼンチンの外相会議で、英領フォークランド(マルビーナス)諸島へのアルゼンチンからの直行便と、アルゼンチン人による訪問を解禁することが決定した。この便は10月16日に実現した。 |
| 07・14 | ペルー | フジモリ大統領が、中部ジャングル地帯で武装組織センドロ・ルミノソの部隊を追撃していた軍がオスカル・ラミレス(Oscar Ramírez)最高幹部を逮捕したと発表。 |
| 07・16 | メキシコ | カルロス・サリナス前大統領の実兄で、暗殺事件を指示した疑いで裁判にかけてられているラウル・サリナス被告の高裁判決が出た。禁固27年5ヶ月で、一審の禁固50年からほぼ半分に減った。 |
| 07・17 | ブラジル | カルドージョ大統領が、法相など9閣僚を入れ替える内閣改造を行った。 |
| 07・18 | 南米 ブラジル | 第39回サッカー南米選手権(コパ・アメリカ)決勝戦でブラジルがウルグアイを破り、2大会連続6度目の優勝を果たした。 |
| 07・19 | キューバ カリブ地域 | 米自治領プエルトリコで開催中のバスケット男子・シドニー五輪米大陸予選に参加していたキューバ代表チームの選手ら5人が亡命の意思を表明した。 |
| 07・21 | キューバ | パン・アメリカン大会出場のためカナダ・マニトバ州入りしたキューバ代表のピストル選手が亡命を希望。 |
| 07・21 | キューバ | 政府は、不法出国用に使われたボートなどの船主や、無届けで船舶を建造・修理したのに対し、罰金を科すことなどを定めた新たな法律を施行することを発表した。 |
| 07・23 | コロンビア | 麻薬対策要員の米国軍人5名とコロンビア人2名を乗せた米軍用機が、東部山間部アピアイ空軍基地を飛び立った後消息を絶った。 |
| 07・24 | ブラジル | サンパウロ東部の少年刑務所で暴動があり、26日までに少なくとも350人の受刑者が脱走した。 |

| | | |
|-------|--------------|---|
| 07・25 | カリブ地域 | プエルトリコ出身で元米大リーグ、サンフランシスコ・ジャイアンツのオルランド・セペダ(Orlando Cepeda)選手が野球殿堂入りを果たした。 |
| 07・28 | チリ | 軍政下での人権抑圧を問われているピノチェト元大統領の裁判の管轄をめぐって、チリ政府がスペイン外務省に対して国際的な調停役を引き受けるよう要請があったことが明らかになった。 |
| 07・28 | ブラジル | アラゴアス州政府が、連邦政府に対する債務支払い停止を宣言した。 |
| 07・30 | コロンビア | 北西部メデジンで陸軍施設前にとめられたトラックの積荷が爆発、民間人を含む10人が死亡、38人が負傷した。左翼ゲリラ、コロンビア革命軍(FARC)メンバー7人の逮捕直後だったことから、報復テロの可能性も指摘されている。 |
| 07・30 | ブラジル | 国際通貨基金(IMF)の理事会でブラジル向け包括的信用枠融資から約23億ドルの実行を承認した。 |
| 07・31 | パナマ | 駐留米軍南方軍のフォートクレイトン陸軍司令部で撤収式典が実施された。年末のパナマ運河返還を前にした米軍施設撤収の行事にあたる。 |
| 07・31 | キューバ | 米国政府が、英国系薬品会社の米国内の関連会社に、キューバ製髄膜炎ワクチンの販売目的のために同ワクチンを取得・研究することを許可した。これは米国の経済封鎖政策の例外措置となる。 |
| 08・03 | キューバ | 米政府はキューバ政策見直しの一環として、ニューヨーク、ロサンゼルスとキューバを結ぶチャーター便の運行を新たに認めたと発表した。 |
| 08・03 | チリ アルゼンチン | 3月から休便になっていたチリとフォークランド諸島を結ぶラン・チリ航空の路線が再開された。これに合わせて1982年以来禁止されていたアルゼンチン人のフォークランド諸島訪問が認められた。 |
| 08・04 | キューバ | カナダの競技会に出場していた男子走り高跳びのハビエル・ソトマヨル(Javier Sotomayor)選手が、禁止薬物使用(ドーピング)で陽性と判定されたと発表。大会組織委員会は同選手の金メダルを剥奪、2年間の出場停止となる見込み。本人は否定。 |
| 08・04 | 中南米 | 国連中南米カリブ経済委員会が、域内の経済調査概要を発表、99年の国内総生産平均成長率がマイナス0.4%となる見込みを示した。マイナス成長に転じるのは9年ぶり。 |
| 08・05 | ベネズエラ | 新憲法制定のための制憲議会が開かれ、チャベス大統領は、大統領の任期延長などを含む、自己の新憲法案を提示した。 |
| 08・08 | パナマ | アルトゥーロ・バジャリーノ(Arturo Vallarino)次期第一副大統領が非公式に中国を訪問、胡錦濤国家副主席らと会談した。中国側の台湾外交の切り崩しが狙いと見られる。 |
| 08・11 | ガイアナ | ジェーガン(Janet Jagan)大統領が健康上の理由から辞任、バラト・ジャグデオ(Bharrat Jagdeo)首相が大統領に昇格、南北アメリカで最年少の国家元首となった。 |
| 08・13 | コロンビア | 人気コメディアンで、左翼ゲリラに誘拐された邦人人質解放の交渉役も務めたハイメ・ガルソン(Jaime Garzón)氏がサンタフェデボタで暗殺された。左翼ゲリラ民族解放戦線(ELN)との和平交渉準備のためのチームに入ったばかりだった。 |
| 08・17 | キューバ | 治安当局に14日から拘束されていた反体制活動家オスカル・ビセット(Oscar Elías Biscet)氏が釈放された。外国人記者の前で当局を批判する会見を行った。 |

| | | |
|-------|----------------|---|
| 08・18 | ペルー | フジモリ大統領が、空席となっていた内相にセサル・サウセド(César Saucedo Sánchez)元軍最高司令官を指名、同日就任した。 |
| 08・21 | コロンビア | 北部ノルテデサントアンデル州で右翼民兵組織武装グループが住民19人を殺害、8人が負傷したと陸軍が発表した。 |
| 08・21 | アルゼンチン | 英国軍とアルゼンチン軍が11月に大西洋で海難救助の合同演習を行うと発表。アルゼンチン軍はフォークランド諸島の領海内に入らない条件付き。 |
| 08・23 | 中南米 | 政界労働機関(ILO)は中南米諸国が経済改革に取り組んでいるにもかかわらず失業率が悪化の一途をたどっていると発表。中南米諸国の平均失業率は9.5%。 |
| 08・25 | 南米 | 米麻薬取締局が、南米で入手した麻薬類・短銃などの武器類を米国に継続的に密輸していた米アメリカン航空の従業員など59人を一斉摘発した。 |
| 08・31 | アルゼンチン | ブエノスアイレス発コルドバ行きLAPA航空の旅客機がホルヘ・ニューベリー空港で離陸に失敗し、墜落炎上した。少なくとも69人が死亡。 |
| 08・31 | ベネズエラ | チャベス大統領支持派が圧倒的多数を占める制憲議会で、既存の国会の権限を奪う立法が続々行われ、国会の機能が事実上停止した。 |
| 08・31 | コロンビア | 反政府左翼ゲリラ、コロンビア革命軍(FARC)が、西部ブエナVENTOURラ港近くの水力発電所を襲撃、従業員らを人質に取り立てこもった。 |
| 08・31 | パナマ | 9月に就任するモスコソ大統領が台湾との外交関係断交を検討している可能性があるという新聞が報じた。 |
| 09・03 | 中南米 | アジアと中南米諸国の政治経済の交流活性化を目的にした「東アジア・ラテンアメリカ・フォーラム」(EALAF)が発足、シンガポールで初の高級事務レベル協議が開催された。 |
| 09・03 | チリ | 中央銀行が通貨ペソの外国為替システムを管理フロート制から変動相場制に移行した。 |
| 09・04 | ブラジル | マラン蔵相の経済政策を厳しく批判したカルバーリョ(Clóvis Carvalho)開発相が更迭された。後任はタピアス(Alcides Lopes Tápías)氏。 |
| 09・07 | メキシコ | 政府が、南東部チアパス州で反政府運動を続ける先住民系武装組織「サパティスタ民族解放軍」(EZLN)と和平交渉再開に向けた新提案を発表。 |
| 09・09 | ベネズエラ | チャベス大統領派が主導する制憲議会と、野党主導の国会との和解交渉が合意に達し、双方の代表がカトリック教会で和解文書に調印した。これは事実上、国会側の敗北を意味する。 |
| 09・09 | メキシコ | ティファアナで、メキシコおよび米国と国境を接する両国各州の知事による会合が開催された。 |
| 09・10 | メキシコ | 人気ボーカル・トリオ「トリオ・ロス・パンチョス」の創設メンバーのレキント奏者、アルフレド・ヒル(Alfredo Bojalil Gil)氏が自宅で死去。享年84歳。 |
| 09・11 | ブラジル | サンパウロ南部の少年刑務所で暴動が発生、644人が脱走した。 |
| 09・20 | アルゼンチン ブラジル | ブラジル政府がアルゼンチン政府の輸入制限措置に対抗して、アルゼンチンからの輸入品に適用していた優遇措置を廃止した。南米南部共同市場(メルコスル)の枠組みの崩壊に結びつくのではないかと懸念されている。 |

| | | |
|-------|---------------|---|
| 09・25 | コロンビア | レストレポ(Juan Camilo Restrepo Salazar)蔵相とウルティア(Miguel Urrutia Montoya)中銀総裁が為替バンドの撤廃を決定し、27日より自由変動相場制に移行すると発表した。 |
| 09・26 | メキシコ | 中部グアナファト州セラヤで花火倉庫と近くのレストランのガスタンクが相次いで爆発。少なくとも56人が死亡、348人が負傷した。 |
| 09・28 | 中南米 | 南米6カ国とパナマで構成される「リオ・グループ」が、新たにコスタリカ、エルサルバドルなど中米5カ国とドミニカ共和国を正式メンバーに加えることを承認した。 |
| 09・28 | メキシコ | クアウテモク・カルデナス(Cuahutémoc Cárdenas Solorzano)メキシコ市長が辞任の意向を表明。大統領選に出馬するため。後任はロブレス(Rosario Robles Berlanga)メキシコ連邦区政府内務長官。 |
| 09・28 | チリ | チリ政府の法律顧問が、オランダのハーグでピノチェト元大統領のスペインへの移送の適法性を問うため、国際司法裁判所に提訴すると発表。 |
| 09・28 | メキシコ | 大統領選に向け、候補の一本化の交渉を続けてきた2大野党勢力の交渉が決裂。与党である制度的革命党が有利になったという見方が増えた。 |
| 09・29 | チリ | 1973年の軍事クーデターで、大統領官邸空爆を命令、後に軍事評議会のメンバーにもなった元空軍司令官グスタボ・リー(Gustavo Leigh Guzmán)氏が肺炎のため死去。享年79歳。 |
| 09・30 | メキシコ | 南部オアハカ州でマグニチュード7.4の強い地震が発生。少なくとも18人が死亡した。 |
| 10・01 | ボリビア | 英国の航空写真専門家が、幻の大陸アトランティスの遺跡を首都ラ・パスの南方300キロのキジャカス村で発見したと発表。 |
| 10・04 | キューバ グアテマラ | グアテマラのアルス(Álvaro Arzú)大統領が前年の国交正常化後初めてキューバを公式訪問した。 |
| 10・05 | エクアドル | 首都キトから12キロの距離にあるグアグアピチンチャ火山が噴火。市内に大量の火山灰が降り注いだ。 |
| 10・05 | メキシコ | 中部から南部にかけて大雨による洪水被害が続出。南部の4州で非常事態宣言が発令された。少なくとも19人が死亡、中米5カ国では66人が死亡した。 |
| 10・08 | チリ | ロンドンの治安判事裁判所が、英国に軟禁中のピノチェト元チリ大統領に対し、逮捕を要請したスペインへ身柄を引き渡すことを認める決定を下した。 |
| 10・08 | チリ | 米国政府が1968～73年のチリ関係の機密文書の機密指定を解除し公開した。 |
| 10・09 | ブラジル | ブラジルを代表する現代詩人、ジョアン・カブラル(João Cabral de Melo Neto)氏が死去。享年79歳。 |
| 10・09 | ペルー | ビクトル・ホイワイ首相が、翌年の国会議員選挙に立候補する資格を得るため辞任した。後任は法律家のアルベルト・ブスタマンテ(Alberto Bustamante)氏。 |
| 10・10 | ブラジル | 「バンデイランチス」テレビ・ネットワークを築き、ブラジルのメディア王といわれたジョアン・サージ(João Jorge Saad)氏が死去。 |

| | | |
|-------|-----------|---|
| 10・15 | ボリビア | 政府は国家警察組織改造令に基づく汚職警察官172名の解職をめぐって意見対立していたメディーナ(José Luis Medina)国家警察長官を解雇した。 |
| 10・16 | ペルー | 中部で国軍による左翼ゲリラ、センドロ・ルミノソの掃討作戦が実施され、11人を逮捕、3人が死亡した。 |
| 10・18 | チリ 中南米 | チリと中米5ヶ国が自由貿易の進展を図る貿易協定に調印した。今後チリは個別に協議を重ねていく。 |
| 10・18 | キューバ | カトリック教会がカストロ政権に対し、2000年に向けて刑務所に服役中の人々に広範な恩赦を与えることを文書で求めた。 |
| 10・18 | メキシコ | メキシコのブランコ(Herminio Blanco Mendoza)工業相は、メキシコとEU間で交渉中の自由貿易協定に関して、2000年7月をめどに発効する見通しを明らかにした。 |
| 10・22 | ベネズエラ | 南部アマゾナス州の密林地帯で行方不明になっていた国内線軽飛行機の機体が10日振りに発見、テレビ技師の男性1名が奇跡的に救出された。 |
| 10・22 | エクアドル | 財政悪化から対外債務の返済難に陥ったエクアドル政府が、ユーロ建て政府債約5億ドルの利払い延期を決定、債権者である民間金融機関に通知した。 |
| 10・23 | キューバ | ジョージ・ライアン(George Ryan)米国イリノイ州知事が米知事として初めてキューバを訪問した。 |
| 10・24 | アルゼンチン | 大統領選で、中道左派の野党連合「同盟」が擁立した急進党のフェルナンド・デラルア(Fernando de la Rúa)ブエノスアイレス市長が当選。 |
| 10・24 | アルゼンチン | 大統領選挙と同時に行われた下院議会選挙で、野党連合「同盟」が躍進、最大勢力に成長した。 |
| 10・24 | コロンビア | 全土で過去最大規模の市民平和行進が行われた。約1300万人が参加し、左翼ゲリラと右翼民兵による誘拐や暴力の即時停止を訴えた。 |
| 10・24 | ブラジル | サンパウロの少年院で収容中の少年数百人が暴動を起こし、看守らを入質にとって占拠、収容者4人が死亡、収容者と看守40人が負傷。 |
| 10・26 | コロンビア | 英ロイター通信のコロンビア人カメラマン、ヘンリー・ロメロ(Henry Romero)氏が左翼ゲリラ、民族解放軍(ELN)に誘拐され、11月3日に解放された。 |
| 10・27 | キューバ | カストロ国家評議会議長が、キューバでは治療の難しい高血圧症の少年に対して米国で治療を受けることを許可、少年は空路でハバナからシカゴへ入った。 |
| 10・29 | チリ | 軍政下で子供5人を殺害されるなどした母親が国家賠償を求めていた裁判で、サンティアゴ地裁は政府に6億ドルの支払いを命ずる判決を下した。政府側は控訴するとみられる。 |
| 10・29 | コロンビア | テレビ記者、カメラマン、新聞記者など7人が北部密林地帯で左翼ゲリラ、コロンビア革命軍(FARC)に拘束された。11月2日に北部バランカベルメハ付近で全員解放。 |
| 10・29 | コロンビア | 4月に子供の暴行未遂で逮捕されていたルイス・クビリオス(Luis Alberto Garavito Cubillos)容疑者が8歳から16歳の子供140人を殺害したと自供した。 |

| | | |
|-------|---------------|--|
| 10・29 | ペルー | 日本大使公邸人質事件で当初人質となり、その後犯人側との仲介役である「保証人委員会」のメンバーともなったカナダの外交官、アンソニー・ビンセント(Anthony Vincent)氏が死去。享年59歳。 |
| 10・31 | ウルグアイ | 任期満了に伴う大統領選で、左派連合「拡大戦線・進歩会議」のタバレ・バスケス(Tabaré Vázquez)候補が1位を獲得するが過半数に届かず、2位のホルヘ・バジェ(Jorge Batlle)候補との間で決選投票が行われることになった。 |
| 10・31 | ウルグアイ | 大統領選と同時に行われた上下両院選挙の結果、史上初めていずれにおいても左派連合「拡大戦線・進歩会議」が第一党となった。 |
| 11・01 | パナマ | 運河地帯に駐留する米軍の最重要拠点だったハワード米空軍基地がパナマに返還された。 |
| 11・03 | ブラジル | サンパウロでショッピングセンターの映画館内で24歳の大学生が小型の機関銃を乱射、2人が死亡、4人が負傷した。 |
| 11・03 | アルゼンチン | ビノチェト元大統領を訴追したスペインの予審判事が、アルゼンチンの軍政関係者も虐殺や拷問に関与したとして国際逮捕状を出している件について、メネム大統領が協力を拒否した。 |
| 11・07 | メキシコ | 与党・制度改革党(PRI)の大統領候補を選出する選挙で、フランシスコ・ラバステイダ(Francisco Labastida Ochoa)前内相が圧勝。 |
| 11・07 | グアテマラ | 大統領選挙の結果、上位2候補による決選投票が行われる見通しとなった。同時に行われた国会議員選挙では右派野党であるグアテマラ共和戦線が躍進、第一党に進出した。 |
| 11・08 | ペルー | 北部アンデス山脈のカハマルカ県で大規模な地滑りが発生、数件の家が飲み込まれ、約40名が行方不明となった。 |
| 11・08 | パラグアイ キューバ | パラグアイとキューバ両国が外交関係を回復するという共同声明を発表。 |
| 11・09 | メキシコ | 西部ミチョアカン州ウルアパン近郊でタエサ航空の旅客機が墜落、乗員5人、乗客18人全員が死亡。 |
| 11・09 | キューバ | 国連総会でキューバ制裁の解除を求める決議案を賛成155、反対2で採択した。採択は8年連続だが、賛成155は過去最多。 |
| 11・10 | コロンビア | 北部セサル県で地元の新聞記者6名が左翼ゲリラに誘拐された。地元ラジオ局に民族解放軍(ELN)からの犯行を認める内容の電話があった。 |
| 11・11 | コロンビア | 首都サンタフェデボゴタ北部の住宅街で、乗用車に仕掛けられた爆弾が爆発、通行人ら8人が死亡、40人以上が負傷した。麻薬密輸犯の米国への身柄引渡しに反対する勢力の犯行とみられる。 |
| 11・14 | メキシコ | 4月から続いているメキシコ国立自治大学(UNAM)の授業ボイコットによる学生ストライキの問題で、フランシスコ・バルネス(Francisco Barnés de Castro)総長は事態の打開を図るため辞任した。 |
| 11・14 | キューバ | スペインのフアン・カルロス(Juan Carlos)国王が、第9回イベロアメリカ諸国首脳会議に出席するため、空路でハバナ入りした。スペイン国王のキューバ訪問はコロンブスが新大陸に到達して以来初めて。 |
| 11・15 | キューバ | 首都ハバナでイベロアメリカ諸国首脳会議が開催された。16日にハバナ宣言を採択し閉幕。経済危機に結束して対処することが強調された。 |
| 11・16 | チリ | 下院で、国民投票のための憲法改正案が否決された。 |

| | | |
|-------|--------------------|--|
| 11・17 | メキシコ ベネズエラ | サウジアラビア、メキシコ、ベネズエラの石油担当相がサウジアラビアの首都リヤドで会談。石油輸出国機構(OPEC)が実施している現行の減産合意を見直すべきかどうかなどが検討された。 |
| 11・18 | キューバ ベネズエラ | キューバのカストロ国家評議会議長とベネズエラのチャベス大統領が、それぞれの国の往年の名選手で組織した野球チームを作り、ハバナのラテンアメリカ球場で対戦。結果は5対4でキューバ側の勝利。 |
| 11・19 | ブラジル | ウィーン国立歌劇場で開かれた20世紀の国際スポーツ賞の授賞式で、ブラジルのサッカーの神様ペレ(Pelé)氏が大賞に選ばれた。 |
| 11・22 | ペルー | 南部クスコ南方の村で、殺虫剤が入ったとみられる給食を食べた児童26名が死亡、10数人が入院した。 |
| 11・24 | メキシコ | 欧州連合(EU)はメキシコと自由貿易協定を締結することで基本合意した。 |
| 11・25 | キューバ | 中部の海岸からフロリダ半島を目指した親子の乗った手製のいかだが沈没、子供のエリアン・ゴンサレス(Elián González)君だけが漁船に救助された。父親がいるキューバに還すべきか、マイアミの親族に引き渡すかで連日議論が交わされ、各地でデモも行われ、政治問題化した。 |
| 11・28 | ウルグアイ | 大統領選の決選投票でコロラド党のホルヘ・バジェ候補が初当選。 |
| 11・29 | ペルー チリ | フジモリ大統領がペルーの国家元首として初めてチリを公式訪問した。 |
| 11・30 | コロンビア | スペイン語圏最長老作家の一人、ヘルマン・アルシニエガス(Germán Arciniegas)氏が死去。享年99歳。 |
| 11・30 | キューバ | 政府はフィデル・カストロ国会評議会議長が、米シアトルで開催される世界貿易機関閣僚会議に出席しないことを明らかにした。 |
| 11・31 | パナマ | パナマ最後の米軍基地となっていたフォート・クレイトン基地が返還された。 |
| 12・02 | メキシコ | 北部の国境都市シウダーフアレスで、麻薬組織に連行され殺害されたと見られる市民が大量に埋葬された秘密墓地が、警察により発見された。 |
| 12・02 | ブラジル チリ メキシコ | ブラジル、チリ、メキシコの株価指数が市場最高値を記録した。経済が回復軌道にのったとの楽観的なムードが高まったためと思われる。 |
| 12・03 | カリブ地域 | クリントン米大統領が、プエルトリコのビエクス島にある米海軍射爆場について、継続使用に地元住民の理解が得られなければ、5年以内に使用を停止する方針を決めたと発表。 |
| 12・06 | キューバ | 米務省は、キューバ政府から出ていた難民少年エリアン・ゴンサレス君の身柄引渡し要求を正式に拒否した。 |
| 12・07 | 南米 | 南米南部共同市場(メルコスル)首脳会議がウルグアイで開催された。今回から準加盟国のすべての政策協議への出席が承認された。 |
| 12・09 | パラグアイ アルゼンチン | 3月に発生したパラグアイ副大統領暗殺事件の首謀者として国際手配されているリノ・オビエド退役将軍が、亡命先のアルゼンチンから秘密裏に帰国していたことが判明。警察と国軍当局は逮捕のため全国で警戒体制に入った。 |
| 12・12 | チリ | 任期満了に伴う大統領選が行われ、いずれの候補も過半数を獲得できず、決選投票が行われることになった。1位は中道左派与党連合のリカルド・ラゴス(Ricardo Lagos Escobar)候補、僅差で2位となったのがホアキン・ラビン(Joaquín Lavín Infante)候補。 |

| | | |
|-------|----------------|--|
| 12・12 | コロンビア | 左翼ゲリラ・コロンビア革命軍(FARC)の部隊が海軍基地を襲撃、海兵隊員を中心に47人が死亡した。 |
| 12・14 | パナマ | 運河返還式典がミラフローレス水門で行われた。米国からは運河返還条約に署名したカーター(Jimmy Carter)元大統領が出席、モスコソ大統領と覚書を交わした。管理・運営権の正式な返還は12月31日正午。 |
| 12・15 | ベネズエラ | 大統領権限強化を盛り込んだ新憲法案の是非を問う国民投票が行われ、71%の賛成で承認された。 |
| 12・15 | ベネズエラ | 北部カリブ海沿岸地帯が集中豪雨に見舞われ、約3万人の死者が出た。貧困層が形成したスラムなどが壊滅的被害を受け、ベネズエラ史上最悪の自然災害となった。 |
| 12・17 | アルゼンチン | コリエンテス州で給与未払いに抗議する労働者のデモ隊と国境警備隊とが衝突し、2人が死亡。 |
| 12・22 | ブラジル アルゼンチン | アルゼンチン・ブラジル両国は暫定自動車協定に合意。2000年1月1日から60日間有効となる。 |
| 12・24 | ブラジル | 軍政期最後の大統領、ジョアン・フィゲイredo(João Baptista Figueiredo)氏がリオデジャネイロの自宅で死去。享年81歳。 |
| 12・26 | グアテマラ | 大統領選挙の決選投票が行われた。結果は野党「グアテマラ共和戦線」(FRG)のアルフォンソ・ポルティージョ(Alfonso Portillo)候補が当選。 |
| 12・27 | ペルー | フジモリ大統領が3選を目指して2000年4月の大統領選挙に出馬する意向を表明。野党は反発して異議申立てを行った。 |
| 12・29 | メキシコ ウルグアイ | ウルグアイ・メキシコ新経済補完協定(優遇関税協定)締結。 |
| 12・30 | アルゼンチン | スペインのガルソン(Baltasar Garzón)判事が、軍事政権に関わったアルゼンチン軍人など48人に対する逮捕命令を出した。 |

(以上281項目)

参考文献

- (1)『朝日新聞縮刷版』『日本経済新聞縮刷版』(1999年各月号)。
- (2)日経ニュース・テレコム。
- (3)イペロアメリカ研究所新聞切抜き(1999年)。
- (4)「ラ米における主なできごと」『ラテン・アメリカ時報』1999年2月－2000年2月